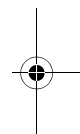
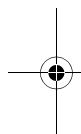


Sibelius

Sibelius 5

ハンドブック



5.1 版
2007 年 10 月

ハンドブックの作者：Daniel Spreadbury、Ben & Jonathan Finn

ソフトウェア開発チーム全員のリストおよび謝辞については、[バージョン情報] ダイアログをご覧ください。

開発に際して Sibelius とそのマニュアルについてさまざまな貴重なご意見をいただいた多くの方々に、ここであらためてお礼を申し上げます。

このハンドブックをより良いものにしていくために、皆様よりご意見を『最新情報とテクニカルヘルプ』に掲載されているテクニカルヘルプサポートまでご連絡いただければ幸いです。

Sibelius copyright Sibelius Software, a division of Avid Technology, Inc., and its licensors 1987-2007
Sibelius Handbook copyright © Sibelius Software, a division of Avid Technology, Inc., 1992-2007
Published by Sibelius Software, The Old Toy Factory, 20-23 City North, Fonthill Road, London N4 3HF, UK

著作権は British Film Institute が所有しています。このハンドブックは、発行者による書面での事前の許可なくして、その一部または全部を、電子的方法、記録的方法、機械的方向、写真複写的方法、あるいはその他のいかなる方法によっても、それを複製したり検索システムに保存したりあるいは転送することを禁じます。このハンドブックの作成に際しては十分な注意を払いましたが、誤記あるいは欠落に起因するいかなる損失または損傷に対しても、発行者および著者は責任を負わないものとします。

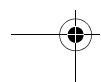
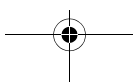
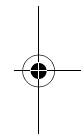
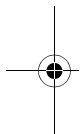
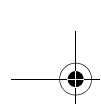
Sibelius、Sibelius ロゴ、Scorch、Flexi-time、Espressivo、Rubato、Rhythmic feel、Arrange、ManuScript、Virtual Manuscript Paper、House Style、SoundStage、Opus、Inkpen2、Helsinki、Reprise、magnetic、multicopy、Optical、Dynamic parts、Ideas、SoundWorld、Panorama、青と白の音符のロゴおよび二重螺旋のロゴ、SibeliusMusic.com、SibeliusEducation.com、「The fastest, smartest, easiest way to write music」および「99% inspiration、1% perspiration」はすべて、米国、英国、およびその他の諸国での Avid Technology, Inc. 社の Sibelius Software 事業部の商標または登録商標です。その他すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

目次

はじめに	5	How to	109
Sibelius の歴史	6	イントロダクション	110
『ハンドブック』について	7	基本的な記譜	111
インストールの前に	10	高度な記譜	113
Windows でのインストール	11	バンド	115
Mac でのインストール	16	合唱	117
ユーザー登録	20	古楽	121
Windows での MIDI セットアップ	25	ギター	123
Mac での MIDI セットアップ	28	ジャズ	125
クイックツアー	31	リードシート	127
Sibelius でできること	32	譜例	129
Sibelius の最初の起動	33	オーケストラ	131
ルック & フィール	35	パート譜	133
再生	42	パーカッション	135
基本的な編集	44	ピアノ、オルガン、ハーブ	137
印刷	48	ボーカルとキーボード	140
新しいスコアの作成	49	ワークシート	143
マウス入力	53		
アルファベット入力	58	索引	147
ステップ入力	69		
フレキシタイル™ 入力	71		
基本的なフォーマット	73		
アイデア	77		
ちょっとしたアレンジ	80		
パート譜	83		
インターネット出版	85		
ワークシートクリエーター	87		
ギタータブ	91		
ビデオ	92		
グラフィックのエクスポート	94		
スキャニング	95		
他のプログラムファイルの開き方	96		
再生について	97		
その他の多彩な機能	100		
ヘルプ	105		



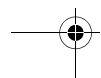
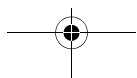
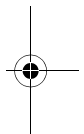
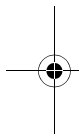
目录





はじめに

はじめに



はじめに

Sibelius の歴史

ベン・フィンとジョナサン・フィンの双子の兄弟は、学生時代の 1987 年に、Sibelius の開発に着手しました。それから 6 年間で費やし、かつてないほど多様で洗練された機能、見やすいユーザーインターフェイス、知的能力を持つ音楽プログラムを開発しました。フィン兄弟は、1993 年に、オックスフォード大学とケンブリッジ大学を卒業した後、開発したプログラムを販売する会社を創立しました。

この Sibelius はすぐに成功を収め、それ以来、フィン兄弟のソフトウェアビジネスは予想を超えて成長し、合衆国、英国、オーストラリアに事務所を構え、100 か国以上で販売されるようになりました。

2006 年に Sibelius は Avid 社（デジタルメディアと楽譜作成業界の Pro Tools およびその他の製品の製造会社）によって取得され、さらに飛躍を遂げました。Sibelius は今や、世界で最もポピュラーな楽譜作成ソフトです。

Sibelius ユーザー

Sibelius はあらゆる音楽家を対象にしています。Sibelius の利用者は、教師や生徒たち、各種学校や大学などの機関、作曲家、編曲家、演奏家、世界をリードする音楽出版社など多岐にわたります。また、1 つの同じプログラムが小学校から音楽の専門家にいたるまで利用されているということは、Sibelius に使いやすさと高度な洗練性があることの証拠です。

Sibelius はまた、古楽からジャズ、ロックから現代音楽、合唱から交響楽作品にいたるまで、あらゆるジャンルの音楽に対応できます。

著名な Sibelius の利用者には、指揮者 Michael Tilson Thomas（マイケル・ティルソン・トーマス）、作曲家 Steve Reich（スティーブ・ライヒ）、合唱曲作曲家 John Rutter（ジョン・ラター）、ロックギタリスト Andy Summers（アンディ・サマーズ）、ジャズ奏者 Jamie Cullum（ジェイミー・カラム）などのほか、ロンドンの Royal Academy of Music（英国王立音楽院）などがいます。また、Hal Leonard 社や Music Sales 社、ヤマハ株式会社などの世界屈指の音楽出版社が Sibelius を使用して、従来の音楽出版に加え、インターネットでのオンライン楽譜販売も行っています。

Sibelius はまた、『Keyboard』誌の Key Buy 賞、『Electronic Musician』誌のエディターズチョイス賞（3 回）、『MacWorld』誌の 5 つ星（2 回）、『Computer Music』誌の最高 10/10 点など、並々ならぬ高い評価を得ています。

『ハンドブック』について

『ハンドブック』の読み方

Sibelius プログラムの使用を開始する前に、少なくともこのはじめに全体を必ずお読みください。

また、Sibelius で重要な操作を行う前に、必ずクイックツアー全体をお読みください。Sibelius はわかりやすく、ほとんど説明を要しないプログラムですが、特に、操作の仕方が異なる他の楽譜作成ソフトに慣れたユーザーがクイックツアーに目を通さないと、Sibelius の重要ないくつかの機能を知らないままになる可能性があります。この章をお読みいただくと、入力や編集、再生、簡単な楽譜の印刷までできるようになります。また、より複雑な楽譜への取り組み方もわかります。

さらに、クイックツアーのあとの How to では、バンドやオーケストラ、コーラス、ジャズなどさまざまなタイプの楽譜を、Sibelius でどのように作成するかについての概要と、参照すべき『リファレンス』の項目が示されています。

この『ハンドブック』は、コンピュータの基本操作（マウスやキーボード、メニュー、ファイルなどについて）をご理解いただいている前提で説明しています。

オンスクリーンリファレンス

Sibelius 『リファレンス』は、すべての上級機能を詳しく説明します（用語集は用語を説明します）。このガイドは、[ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス] を選択すると表示されます。また、別売の印刷版『リファレンス』としてご覧いただくこともできます。別売の印刷版『リファレンス』のご購入については、Sibelius までご連絡ください（別紙の『最新情報とテクニカルヘルプ』を参照）。

『リファレンス』は、最初から最後までお読みいただくことを意図していません。多くの方が実際に必要とするのは、記譜法のほんの一部だけである場合が多いからです。時間があるときに、『リファレンス』の関心のある部分にざっと目を通してください。

オンスクリーンのリファレンスを開くには、ツールバーにあるボタン（右図）をクリックするか、[ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス]（ショートカットは **F1** または **⌘?**）を選択します。詳しくは、「リファレンス」（105 ページ）を参照してください。



リファレンスでのコラム

『リファレンス』の随所に置かれているこのようなコラムは、さまざまな記譜ルールについて説明しています。

表記と参照について

コンピュータキーボードのキーの名称、メニュー、ダイアログなどは次のように表記されます。

メニューとサブメニューは「▶」で示されます。たとえば、[ファイル] ▶ [開く] は、[ファイル] メニューから [開く] を選択することを意味します。

📖 「2.1 臨時記号」の表記は、『リファレンス』の「臨時記号」トピックを参照してください、という意味です。[ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス] を選択して画面の表示を参照するか、別売の印刷版『リファレンス』をお読みください。

🎬 「新規スコアの設定」の表記は、[ヘルプ] ▶ [チュートリアルビデオ] を選択し、チュートリアルビデオの「新規スコアの設定」をご覧ください、という意味です。

💡 ヒントは、覚えておくと役に立つ情報であるという意味です。

はじめに

基本的な用語

以下のコンピュータ用語のほとんどについてはご存知でしょうが、念のために記載します。

- コンピュータキーボードにより、キーの名称が異なるものがあります（特に Mac において）。『ハンドブック』では次の表記方法に従います。

Mac の記号	Mac の名前	Windows の名前
⌘	Command	Ctrl (Control)
⇧	Shift	Shift
⌥	Option	Alt
↵	Return	Return (メインキーボード)
↵	Enter	Enter (テンキー)

- Sibelius の操作方法は、Windows 上でも Mac 上でもほとんど同じですが、違いがある場合には（主にキーボードショートカット）、Windows 上での操作が先に記載されます。Windows と Mac のキーボードショートカットの違いについて詳しくは、『リファレンス』の 5.9 メニューとショートカット」を参照してください。すべてのショートカットの一覧が記載されています。キーボードショートカットは、プログラムのメニューにも表示されます。
- 「**Ctrl + A** または **⌘A**」の表記は、「**Ctrl** キー（Windows）または **⌘** キー（Mac）を押しながら **A** キーを押す」ことを意味します。**A** が大文字で書かれていても **Shift** キーは押さないでください（押す必要がある場合は明示されます）。同様に、「**Ctrl + ?** または **⌘?** キー」のようなショートカットの場合も、1 つのキーに **/** と **?** があるわけですが、**Shift** キーは押さないでください（実際、**Ctrl + /** または **⌘/** キーを押します）。
- 同様に、「**Alt + クリック** または **⌥ + クリック**」の表記は、**Alt** キー（Windows）または **⌥** キー（Mac）を押しながらクリックすることを意味します。
- Windows で「**⌥をクリック**」とは、マウスポインタを対象の上に置いてマウスの**左ボタンでクリック**することを意味します。「**⌥を右クリック**」とは、マウスポインタを対象の上に置いてマウスの**右ボタンでクリック**することを意味します。
- Mac では、「**⌥をクリック**」とは、マウスポインタを対象の上に置いて**左ボタン（ある場合）でクリック**するか、旧型の 1 つボタンのマウスの場合は、そのボタンをクリックすることを意味します。「**Control + クリック**」とは、キーボードの **Control** (**Ctrl** とも書かれる) キーを押したまま、左クリック（1 つボタンではそれをクリック）することを意味します。ただし、右ボタンがある場合は、その代わりに右ボタンをクリックすることもできます。
- 「**⌥をドラッグ**」とは、マウスポインタを対象に置き、マウスの左ボタン（Mac の 1 つボタンではそのボタン）でクリックして**押したまま**マウスを動かすことを意味します。マウスを目的の位置まで動かしたらマウスボタンを放します。
- 「**ダイアログ**」とは、各種選択のためのボタンがあるウィンドウです。ダイアログによっては複数ページで構成されているものがあり、ダイアログの**ページ**を切り換えるための**ポップアップコンボボックス**（Mac）、上部の**表示タブ**、**リストボックス**などがあります。
- 「**テンキー**」とは、コンピュータキーボードの右側にある長方形のブロックで、数字と他の記号が割り当てられています通常、ノートブック型（ラップトップ）コンピュータには付いていません（詳しくは、『リファレンス』の 5.9 「メニューとショートカット」を参照）。
- **Return** キーは、文字キーが並んでいるブロックの右端にある大きなキーです。キーボードにより「**Enter**」や特殊な矢印記号が書かれているものもありますが、Sibelius では常に **Return** キーと表記します。
- **Enter** キーは、テンキーの右下端にある大きなキーです。キーボードによっては何も書かれていないこともあります、その場合でも **Enter** キーを意味します。

『リファレンス』の最後にある「用語集」では、より専門的な用語について説明します。

『ハンドブック』について

ご提案について

Sibelius の『ハンドブック』や『リファレンス』についての間違いや誤字のご指摘、あるいは改善提案がございましたら、**docs@sibelius.com** までご連絡いただければ幸いです。

Sibelius プログラム自体への改善提案もお待ちしております。Sibelius ウェブサイトのチャットページへ掲示なさるか、テクニカルヘルプまでお寄せください。

はじめに

はじめに

インストールの前に

同梱品

今お読みいただいている『ハンドブック』のほかに、以下の同梱品があります。

- ・ インストール DVD-ROM。ケースの裏面にシリアル番号が記載されていますので、ケースもなくさないようにご注意ください。
- ・ 『最新情報とテクニカルヘルプ』シート。サポートに関する詳しい情報が記載されています。
- ・ ユーザー登録用ファックスシート。ユーザー登録は、インターネットや電話で行うほうが簡単ですが、必要に応じてご利用ください。

シングルコピー

Sibelius のシングルコピーをご購入された方は、Windows でのインストール（11 ページ）、または Mac でのインストール（16 ページ）にお進みください。

5 ライセンスパックとスタンドアローンのサイトライセンスをご購入された方は、以下をお読みください。

スタンドアローンのサイトライセンスをご購入された場合は、ネットワークにつながれていない 5 台のコンピュータに、Sibelius を同時にインストールすることができます。5 ライセンスパックをご購入された場合は、インストール用 DVD-ROM が 1 枚付いてきます。5 コピー以上をご購入された場合は、「5 パック」（それぞれ DVD-ROM が 1 枚付いてきます）とシングルコピーの組み合わせ、または、指定数のコンピュータにインストールできる DVD-ROM が 1 枚が送付されます。5 ライセンスパックを複数お持ちの場合は、CD-ROM ごとに、それぞれのシリアル番号を使用して、5 台ずつのコンピュータにインストールしてください。

サイトライセンスのサイズにかかわらず、スタンドアローンのコンピュータに個別に Sibelius をインストールし、ユーザー登録する必要があります。Windows でのインストール（11 ページ）または Mac でのインストール（16 ページ）を参照してください。スタンドアローンのコピーを、ネットワークや仮想ディスクにインストールすることはできません。それぞれのコンピュータのローカルハードディスクにインストールする必要があります。

サイトライセンスのすべてのコピーは、同一教育機関内の単一のサイトでのみご使用を条件とします。Sibelius からの許可がない限り、サイトライセンスのコピーをノート型（ラップトップ）パソコンや教師のホームコンピュータなどの他の場所にインストールすることはできません。

ネットワーク上で Sibelius を使用したいがスタンドアローンのサイトライセンスをご購入された場合は、テクニカルヘルプへご連絡ください。

Windows でのインストール

動作環境

Sibelius 5 のみのシステム必要条件：

Windows XP SP2 または Windows Vista、512MB 以上の RAM、350MB のハードディスク容量、DVD-ROM ドライブ

Sibelius Sounds Essentials および Kontakt Player 2 を使用し、特にスコアに楽器数が多い場合の必要条件：

トータル 1GB 以上の RAM、トータル 3.5GB のハードディスク容量、ASIO 準拠のサウンドカード

コンピュータが推奨必要条件を満たしていなくても、Sibelius Sounds Essentials を使用できますが、同時に多くの音源は使用できません。

Sibelius 5 をインストールし、起動するには、少なくとも Windows XP Service Pack 2 を実行している必要があります。Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows 2000、Windows NT 4.x のいずれかを使用している場合は、最新 Windows オペレーティングシステムにアップグレードする必要があります。

Windows XP Service Pack 2 を使用しているかどうかを調べる方法

Windows XP をお持ちで、Windows XP Service Pack 2 がインストールされているかどうか分からない場合は、次の手順に従います。

- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行 ...] を選択します。
- [名前] ボックスに「winver」を入力し、Return キー（メインキーボード）を押します。
- 次のような単純なウィンドウが表示されます。



テキストの 2 行目の最後に「Service Pack 2」があるはずですが、ない場合は、Service Pack 2 にアップデートする必要があります。一番簡単なアップデート方法は、[スタート] メニューから [Windows Update] を選択して、自動的にダウンロードすることです。Sibelius を実行したいコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、CD-ROM の Windows XP Service Pack 2 を入手するか、他の場所でダウンロードしたものを CD に焼き、コンピュータで使用します。詳しくは、<http://www.microsoft.com/japan/athome/security/protect/windowsxp/default.mspx> を参照してください。

はじめに

MIDI 機器の接続

Sibelius をインストールする前に、Sibelius で使用する MIDI 機器のセットアップを行いたい場合は、 「Windows での MIDI セットアップ」(25 ページ) を参照してください。

ただし、MIDI 機器のセットアップはあとからでもできますので、先に Sibelius をインストールしてもかまいません。

Sibelius のインストール

多くのソフトウェアマニュアルでは、重要なインストール手順の説明を、「画面の指示に従って操作してください」のような記述だけで終わらせてしまっています。マニュアルの作成後にインストール手順が変わる可能性があるからです。

しかし、この『ハンドブック』では、Sibelius のインストール中に何が起こるかを具体的に説明します。

- 起動しているすべてのアプリケーションを終了します。コンピュータの起動時に自動的に起動するウイルス対策ソフト (McAfee Virus Scan や Norton AntiVirus など) も終了してください。
- Sibelius DVD-ROM をケースから取り出し、コンピュータの DVD-ROM ドライブに挿入して (ラベルが印刷された側を上)、ドライブスロットを閉じます。
- 数秒後、DVD-ROM ドライブが作動し、ダイアログが画面に表示されます
- (しばらく何も起きない場合は、[スタート] メニューをクリックして [ファイル名を指定して実行 ...] を選択し、「X:\amplayer」と入力します。この X は、DVD-ROM のドライブ名です。それから、メインキーボードの **Return** キーを押します)。
- Windows Vista では、小さな [自動再生] ウィンドウが表示されます。[プログラムのインストール / 実行] の下の、[amplayer.exe の実行] をクリックします。
- メインインストールウィンドウで、[Sibelius 5 をインストール] をクリックすると、Sibelius のアップグレードが始まります。
- Windows Vista では、画面が暗くなることがあり、それから [ユーザーアカウント制御] ウィンドウが表示されます。インストールの作業を進めていい場合は、[許可] をクリックします。
- Microsoft Windows Installer がコンピュータにインストールされていない場合は、インストールするよう求められます。[インストール] をクリックし、Windows Installer キットがインストールされるのを待ちます。数分かかることがあります。
- 次に、Microsoft .NET Framework 2.0 がコンピュータにインストールされていない場合は、インストールするよう求められます。[インストール] をクリックすると、使用許諾契約を読むように求められます。[同意する] をクリックして表示された使用許諾契約を承諾し、.NET Framework がインストールされるのを待ちます。数分かかることがあります。
- 次に、Visual C++ Runtime Libraries をインストールするよう求められます。[インストール] をクリックし、ライブラリがインストールされるのを待ちます。
- しばらくすると、[Sibelius 5 Installation Wizard へようこそ] ウィンドウが表示されます。[次へ] をクリックします。
- Sibelius 使用許諾契約に目を通してください (リファレンスの最後にも記載されています)。[ライセンス契約に同意します] をクリックし、[次へ] をクリックします。

Windows でのインストール

- インストール先のパス（コンピュータ内の場所）を確認するダイアログが表示されますが、Sibelius が参照する場所を指定する特別な理由があり、設定を変更する方法を知っている場合を除き、このままにしておきます。Sibelius を **[すべてのユーザー]** か **[現在のユーザー]** を選択するように求められます。この選択で、コンピュータを使用するすべての人のデスクトップに Sibelius ショートカットアイコンを表示するのか、自分だけにするのかが決まります。**[すべてのユーザー]** にすると良いでしょう。**[次へ]** をクリックします。
- 「インストール準備完了」の旨のメッセージが表示されます。**[次へ]** をクリックします。
- プログラムのインストールが始まり、数分間、インストールの進行を示す画面表示が移り変わっていきます。
- インストーラが終了し、**[完了]** をクリックすると、最初に DVD-ROM を挿入したときに表示されたウィンドウに戻ります。

Sibelius の起動準備が整ったら、**ユーザー登録**（20 ページ）へ進みます。しかしその前に、Sibelius 5 ディスクから他のプログラムをインストールする必要があります。

Sibelius Sounds Essentials のインストール

注意：他の Sibelius Sounds 製品（Sibelius Sounds World、Sibelius Sounds Choral、Sibelius Rock & Pop Collection など）をすでに購入していた場合でも、Sibelius Sounds Essentials をインストールする必要があります。これをインストールすることによって、他の Sibelius Sounds 製品に必要な Kontakt Player 2 がインストールされます。

再生用の 150 もの高音質の音源と、**[ファイル]** ▶ **[エクスポート]** ▶ **[オーディオ]** 機能を使用した場合は、Sibelius DVD-ROM から Sibelius Sounds Essentials をインストールします。

- Sibelius DVD-ROM がドライブに挿入されていない場合は挿入します。
- メインインストールウィンドウで、**[Sibelius Sounds Essentials をインストール]** をクリックします。
- 使用許諾契約の画面が表示されます。お読みいただいた上で、**[I Accept]** をクリックしてください。
- Kontakt Player 2 の格納場所についてのメッセージが表示されます。そのまま **[Next]** をクリックします。Sibelius で他の場所を使用する場合を除き、このままにしておいてください。変える場合は、**[再生]** ▶ **[再生デバイス]** の **[オーディオエンジンのオプション]** ダイアログを使用する必要があります（『リファレンス』の  「4.11 再生デバイス」を参照）。
- Kontakt Player の音源の格納場所についてのメッセージが表示されます。これは容量が非常に大きい（約 3GB）ので、メインのハードディスクに十分な空き容量がない場合は、他の場所を指定する必要があります。そうでなければ、そのまま **[Next]** をクリックします。
- **[スタート]** メニューアイコンの作成位置についてのメッセージが表示されます。そのまま **[Next]** をクリックします。
- プログラムのインストールが始まります。しばらく時間がかかります（その間何も進行していないように見えるかもしれませんが、しばらくお待ちください）。インストール完了のメッセージが表示されたら、**[Finish]** をクリックします。

インストールが完了したら、使い方について、『リファレンス』の  「4.4 Sibelius Sounds Essentials」を参照してください。

はじめに

Neuratron PhotoScore Lite のインストール

注意：PhotoScore Ultimate をご購入いただいた場合は、PhotoScore Lite をインストールしないでください。PhotoScore Ultimate のインストールについては、PhotoScore Ultimate に付随するマニュアルを参照してください。

Sibelius のスキャン機能を使用したい場合は、Sibelius DVD-ROM から PhotoScore Lite をインストールできます。

- Sibelius DVD-ROM がドライブに挿入されていない場合は挿入します。
- メインインストールウィンドウで、**[PhotoScore Lite をインストール]** をクリックします。
- コンピュータの画面解像度が「1024 x 768」よりも小さい値にセットされていた場合は、もっと大きい値にセットするよう促すメッセージが表示されます。**[OK]** をクリックします。
- **[Next]** をクリックすると、PhotoScore Lite の使用許諾契約の画面が表示されますので、お読みいただいた上で、**[Next]** をクリックします。
- 以下の情報を入力するように求められます。**[Name]** を入力します。**[Product ID]** は、自動的に入力されています。入力が完了したら、**[Next]** をクリックします。
- PhotoScore Lite のプログラムファイルの格納位置についてのメッセージが表示されます。必要に応じて、場所を変更できます。変更しない場合は、**[Next]** をクリックします。
- もう一度 **[Next]** をクリックすると、PhotoScore Lite がインストールされます。それから **[Finish]** をクリックします。

PhotoScore の使い方については、『リファレンス』の  「1.4 スキャンング」を参照してください。

Scorch のインストール

www.sibeliusmusic.com のようなサイトで、Sibelius のスコアをウェブブラウザで表示、再生、移調、印刷したい場合は、ウェブブラウザのプラグインである Scorch を Sibelius DVD-ROM からインストールする必要があります。

- Sibelius DVD-ROM がドライブに挿入されていない場合は挿入します。
- メインインストールウィンドウで、**[Scorch をインストール]** をクリックします。
- **[Next]** をクリックすると、Scorch の使用許諾契約の画面が表示されますので、お読みいただいた上で、**[Next]** をクリックします。
- Scorch がインストールされます。続いて **[Finish]** をクリックします。

Sibelius の再インストール

Sibelius プログラムの再インストールが必要になった場合は、CD-ROM を、コンピュータのドライブに挿入し、最初のインストールと同じ手順に従ってください。インストーラは、Sibelius がコンピュータにすでにインストールされていることを検出し、ダイアログで以下の3つのオプションを示します。**[修理]** を選択し、**[次へ]** をクリックし、再び **[次へ]** をクリックして選択を確認します。アプリケーションがインストールされるまで待ち、**[完了]** をクリックします。

Sibelius のアンインストール

アンインストールとは、Sibelius プログラムをコンピュータから削除することです。万一 Sibelius が何らかの原因で正常に作動しなくなった場合は、アンインストールせずに、同じ場所に再インストールできます（上記の Sibelius の再インストールを参照）。

Sibelius プログラムフォルダや他のプログラムフォルダを、別の場所に移動したり、名前を変更したりしないでください。オペレーティングシステムが正しく認識しなくなる可能性があります。

- [スタート]メニューから[コントロールパネル]を開きます。[プログラムの変更と削除] (Windows XP) または [プログラムと機能] (Windows Vista) をダブルクリックします。
- PhotoScore Lite をインストールしていた場合は、最初にそれをアンインストールしてください。[Neuratron PhotoScore Lite] としてリストされていますので、それを選択し、[変更と削除] (Windows XP) または [アンインストール] (Windows Vista) をクリックして、画面の指示に従います。
- Sibelius Sounds Essentials をインストールしていた場合は、次にそれをアンインストールしてください。[Sibelius Sounds Essentials] としてリストされていますので、それを選択し、[変更と削除] (Windows XP) または [アンインストール] (Windows Vista) をクリックして、画面の指示に従います。
- Scorch をアンインストールする必要はありません。
- Sibelius 自体をアンインストールするには、リストから [Sibelius 5] を選択して、[変更と削除] (Windows XP) または [アンインストール] (Windows Vista) をクリックします。それから、画面の指示に従います。

はじめに

Mac でのインストール

動作環境

Sibelius 5 のみのシステム必要条件：

Mac OS X 10.4 Tiger 以降、512MB 以上の RAM、350MB のハードディスク容量、DVD-ROM ドライブ
Sibelius Sounds Essentials および Kontakt Player 2 を使用し、特にスコアに楽器数が多い場合の必要条件：

G5 または Intel プロセッサ、トータル 1GB 以上の RAM、トータル 3.5GB のハードディスク容量
コンピュータが推奨必要条件を満たしていても、Sibelius Sounds Essentials を使用できませんが、同時に多くの音源は使用できません。

Mac OS X 10.4 より前のバージョンの Mac OS X を実行している場合は、Sibelius をインストールできません。有料ですが、Mac OS X をアップグレードするようにしてください。詳しくは、<http://www.apple.com/jp/> のサイトをご覧ください。

Mac OS X 10.4 Tiger 以降を使用しているかどうかを調べる方法

Apple メニューから [この Mac について] を選択します。次のような単純なウィンドウが表示されます。



「**Mac OS X**」の大きなテキストの真下に、「バージョン 10.4.10」のようなテキストがあります。この数字が「10.4」以上で始まっている場合は、Mac OS X 10.4 Tiger 以降の Mac OS X が実行されており、Sibelius 5 をインストールして起動できます。

MIDI 機器の接続

Sibelius をインストールする前に、Sibelius で使用する MIDI 機器をセットアップしたい場合は、Mac での MIDI セットアップ（28 ページ）を参照してください。

ただし、MIDI 機器のセットアップはあとからでもできますので、先に Sibelius をインストールしてもかまいません。

Sibelius のインストール

- Sibelius DVD-ROM をケースから取り出し、コンピュータの DVD-ROM ドライブに挿入して（ラベルが印刷された側を上）、ドライブスロットを閉じます。

Macでのインストール

- 数秒後、**[Sibelius 5]** のラベルの DVD アイコンがデスクトップに表示されたら、アイコンを含むウィンドウが自動的に表示されます。表示されない場合は **[Sibelius 5]** アイコンをダブルクリックします。
- **[Sibelius 5]** アイコンを、Mac ハードディスクの**アプリケーション**フォルダにドラッグして Sibelius をインストールします。
- ハードディスクへのコピーの進行を示すバーが表示されます。しばらく時間がかかりますが、表示が消えればインストールは完了です。
- 続いて Sibelius Sounds Essentials、PhotoScore Lite、Scorch をインストールする場合は、DVD-ROM をドライブに挿入したまま、次の手順に進んでください。インストールしない場合は、DVD のアイコンを Dock の **[ゴミ箱]** アイコンにドラッグして DVD-ROM をドライブから取り出し、元のケースに戻し、安全な場所に保管します。DVD-ROM ケースの裏面に Sibelius のシリアル番号が記載されているため、DVD-ROM ケースは重要です。

サンプルスコアのインストール

Sibelius にはプログラムのさまざまな機能を示すサンプルスコアが多数含まれています。このハンドブックでは多くのサンプルスコアを参照しながら説明します。サンプルスコアを Sibelius DVD-ROM からハードディスクのフォルダにコピーしておくとい良いでしょう。

- Sibelius DVD-ROM をドライブに挿入します。数秒たってもそのウィンドウが自動的に表示されない場合は、デスクトップの DVD のアイコンをダブルクリックします。
- **サンプルスコアと文書**フォルダをダブルクリックします。
- **サンプルスコア**フォルダを選択し、ハードディスクのフォルダへドラッグします。**書類**フォルダ内にドラッグするようにしてください。

Sibelius Sounds Essentials のインストール

注意：他の Sibelius Sounds 製品（Sibelius Sounds World、Sibelius Sounds Choral、Sibelius Rock & Pop Collection など）をすでに購入していた場合でも、Sibelius Sounds Essentials をインストールする必要があります。これをインストールすることによって、他の Sibelius Sounds 製品に必要な Kontakt Player 2 がインストールされます。

再生用の 150 もの高音質の音源と、**[ファイル]** ▶ **[エクスポート]** ▶ **[オーディオ]** 機能を使用した場合は、Sibelius DVD-ROM から Sibelius Sounds Essentials をインストールします。

- Sibelius 5 DVD-ROM をドライブに挿入し、そのアイコンをダブルクリックします。
- **[Install Sibelius Sounds Essentials]** アイコンをダブルクリックします。
- インストーラが起動します。コンピュータのユーザアカウントとパスワードの入力を求められた場合は、それぞれ入力して、**[OK]** をクリックします。
- 使用許諾契約の同意確認のメッセージが表示されますので、**[Agree]** をクリックします。
- どのバージョンの Kontakt Player 2 をインストールしたいか尋ねられますが、**[Continue]** をクリックします。
- インストール準備完了の旨のメッセージが表示されますので、**[Install]** をクリックします。
- インストールの進行を示すバーが表示されます。Sibelius Sounds Essentials のサイズが非常に大きいので、しばらく時間がかかります。
- インストール完了のメッセージが表示されたら、**[Quit]** をクリックします。

はじめに

Neuratron PhotoScore Lite のインストール

注意：PhotoScore Ultimate をご購入いただいた場合は、PhotoScore Lite をインストールしないでください。PhotoScore Ultimate のインストールについては、PhotoScore Ultimate に付随するマニュアルを参照してください。

Sibelius のスキャン機能を使用したい場合は、Sibelius DVD-ROM から PhotoScore Lite をインストールできます。

- Sibelius DVD-ROM がドライブに挿入されていない場合は挿入します。数秒後に多くのアイコンが含まれるウィンドウが表示されます。表示されない場合は、[**Sibelius 5**] DVD-ROM アイコンをダブルクリックします。
- **その他のアプリケーション**フォルダをダブルクリックし、続いて [**Install PhotoScore Lite**] アイコンをダブルクリックします。
- 使用許諾契約の画面が表示されます。目を通し、[**Accept**] をクリックします。
- 表示されたダイアログ内でプログラムの**インストール先**を確認し、[**Install**] をクリックします。
- インストールの進行を示すバーに、インストールする残りのファイル数が表示されます。数秒で完了します。インストール完了のメッセージが表示されたら、[**Quit**] をクリックします。
- ここですぐに PhotoScore Lite を起動する必要はありませんが、このプログラムを最初に起動したとき、自分の名前（また該当項目があれば勤務先の会社や機関など）の入力を促されます。

Scorch のインストール

www.sibeliusmusic.com のようなサイトで、Sibelius のスコアをウェブブラウザで表示、再生、移調、印刷したい場合は、ウェブブラウザのプラグインである Scorch を Sibelius DVD-ROM からインストールする必要があります。Scorch は、Safari、Netscape、Opera、OmniWeb などの主要なウェブブラウザに対応しています。

- Sibelius DVD-ROM がドライブに挿入されていない場合は挿入します。数秒後に多くのアイコンが含まれるウィンドウが表示されます。表示されない場合は、[**Sibelius 5**] DVD-ROM アイコンをダブルクリックします。
- **その他のアプリケーション**フォルダをダブルクリックし、続いて [**Install Scorch**] アイコンをダブルクリックします。
- インストーラが起動します。コンピュータのユーザアカウントとパスワードの入力を求められた場合は、それぞれ入力して、[**OK**] をクリックします。
- 使用許諾契約の画面が表示されます。目を通し、[**Agree**] をクリックします。
- **インストール先**を確認するダイアログが表示されますが、そのままにして [**インストール**] をクリックします。
- 数秒後、インストール完了のメッセージが表示されたら、[**閉じる**] をクリックします。

Sibelius の再インストール

Sibelius プログラムの再インストールが必要になったときは、次の手順に従います。

- まず、既存の **Sibelius 5** アプリケーションを**アプリケーション**フォルダからゴミ箱へドラッグします。
- また、必要に応じて Sibelius 5 環境設定ファイル (**com.sibelius.Sibelius5.plist**) も削除します。このファイルは、**ユーザ / ユーザ名 / ライブラリ / Preferences**、および、**ライブラリ / Preferences** の両方にあります。

Macでのインストール

- Sibelius 5 DVD-ROM をドライブに挿入し、前述の Sibelius のインストールに沿ってインストールし直します。

Sibelius のアンインストール

アンインストールとは、Sibelius プログラムのコピーをコンピュータから削除することです。たとえば、Sibelius を他のコンピュータにインストールするためにアンインストールしなければならない場合があります。万一 Sibelius が何らかの原因で正常に作動しなくなった場合は、上記 Sibelius の再インストールの要領で、同じコンピュータに再インストールしてください。

Sibelius を Mac からアンインストールするには、[Sibelius 5] アイコンをゴミ箱にドラッグして削除します。同様に、PhotoScore Lite をアンインストールするには、**Neuratron PhotoScore Lite** フォルダをゴミ箱にドラッグして削除します。

次のステップ

このあとは、ユーザー登録（20 ページ）にお進みください。

はじめに

ユーザー登録

Sibelius のインストール後 15 日以内に、ユーザー登録を行ってください。簡単なユーザー登録を行っていただくと、テクニカルサポートを受ける資格や将来のアップグレードへの資格、Sibelius ウェブサイト (www.sibelius.com) のヘルプセンターへのアクセス資格を取得できます。

著作権侵害や盗用を防止するため、ユーザー登録がされていない Sibelius プログラムコピーでは、保存機能を使えません。ただし、Sibelius をインストールしてから 15 日間は、ユーザー登録の時間を取っていただけるまでの猶予期間として、保存機能も含めてお使いいただけます。

使用開始後 15 日たっても登録されない場合は、一時的に保存機能が無効になります。登録すると機能が有効になります (この 15 日間は延長しようとして、コンピュータの日付を変えたり、Sibelius をインストールし直したりなどはしないでください。このような作業は効力がなく、その時点で保存機能が無効になり、ユーザー登録するまで使用できません)。

複数のコンピュータでの Sibelius の使用について

Sibelius のシングルコピーをご使用の場合に限り、ご自身の個人専用として、2 台のコンピュータに Sibelius をインストールし、ユーザー登録できます。2 台をご自身のみが使用します。したがって両方を同時に使用できません。2 台めの Sibelius を登録する場合は、以下のユーザー登録の方法の指示に従ってください。

2 台にインストールしたあとで、さらに新しいコンピュータに Sibelius をインストールすることが必要になった場合は、同時に 2 つ以上の Sibelius コピーを使用しない限り、すでにインストールしているどちらかのコンピュータの Sibelius 登録情報を新しいコンピュータに移動できます。移動方法については、以下の「Sibelius の別コンピュータへの移動」を参照してください。

5 ライセンスパックとサイトライセンスの登録

教育用 5 ライセンスパックとサイトライセンスの場合も、上記と同じ方法で登録できます。以下の「ユーザー登録の方法」を参照してください。詳細項目は最初のコピー登録時にご記入いただくだけで済みます (ただし、複数のインストール DVD-ROM とシリアル番号をお持ちの場合を除く)。

Sibelius のネットワークコピーをインターネットで登録することはできません。電話、ファックス、E メール のいずれかで登録する必要があります。

ユーザー登録の方法

ユーザー登録をしていない状態では、Sibelius を起動するたびにユーザー登録のダイアログが表示されます。そのときすぐにユーザー登録をしない場合は **【あとで登録する】** をクリックしてください。また、このダイアログはいつでも、**【ヘルプ】** ▶ **【Sibelius の登録】** から表示させることができます。

ユーザー登録の方法には、インターネットによる方法 (これが最も速く簡単です)、または電話かファックスによる方法があります (ユーザー登録カードはありません)。

- Windows で Sibelius を初めて起動したときに、以下のいずれかを行います。
 - 制限されたユーザーとして Windows XP にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。この際に、空のパスワードを持つ管理者ユーザーアカウントは使用できませんのでご注意ください。
 - 標準ユーザーとして Windows Vista にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。

ユーザー登録

はじめに

- 。管理者ユーザーとして Windows Vista を実行している場合は、登録手続きの許可を確認するように求められることがあります（ユーザーアカウント設定により異なります）。
- 。ここで、**インターネット** または **ファックス、電話または E メール** を選択するように求められます。インターネットによる方法を選択するようにしてください。最も速く簡単で、365 日、昼夜を問わず利用できます（インターネットで登録できない場合は、以下のファックスによるユーザー登録または電話による登録を参照してください）。
- 。 **次へ** をクリックします。
- 。コンピュータがインターネットに接続されていなかった場合は、接続を促す画面が表示されます。
- 。ファイアウォールを使用している場合は、Sibelius からのアクセスを受け入れるように設定してください。さもないと登録できません。ファイアウォールの多くは、あるプログラムが初めてインターネットにアクセスしようとするときに警告を出します。具体的な警告表示内容はファイアウォールにより異なりますが、Sibelius からのアクセスを受け入れるために、表示された警告に **はい**（または同等のオプション）を選択します。
- 。Sibelius との接続が確立されると、Sibelius は、Sibelius プログラムコピーのユーザー登録履歴（たとえば、今ユーザー登録しようとしている Sibelius プログラムコピーが、複数プログラムライセンスのうちの 1 つなのか、あるいは個人使用のための 2 つめのコピーなのか、インストール済みのコンピュータへの再インストールなのか、といったこと）をチェックします。そのあと別のメッセージが表示されますので、**はい** をクリックしてください。
- 。ご自身の名前や連絡先などを記入する画面が表示されます。Sibelius はその情報により、テクニカルサポートやアップグレードの情報などを提供いたします。Sibelius は個人情報の保護を公約しております（以下の **プライバシーに関する方針** を参照）。
- 。Sibelius を個人で所有されている方は、ご自宅の住所を記入し、**会社名** の欄は空のままにしておいてください。学校、各種学校、大学、教会、企業、その他の機関で Sibelius を所有している場合は、**会社名** の欄とその住所を記入してください。そのほかの必要欄もすべて記入したら、**次へ** をクリックしてください。
- 。次に、ご自身の音楽的興味に関することや、Sibelius をお知りになった経緯などをご記入いただく画面に移ります。**音楽活動** のリストから選択する際は、指導者、あるいは学校、各種学校、大学などの組織である場合は **教師** の選択肢の 1 つを選択してください。学生である場合は **生徒** の選択肢の 1 つを選択してください。
- 。また、ご自身のコンピュータ環境についての基本情報を記入し、Sibelius に送信するオプションも表示されます。これは、登録ユーザーの方からテクニカルサポートのご依頼があったときに、Sibelius がより的確にサポートできることを目的としています。必須ではありませんが、ここで送信していただくと、のちのち時間を節約できることになるかもしれません。
すべてご記入いただいたら、**完了** をクリックしてください。
- 。ご記入いただいた情報が、プログラムから Sibelius のサーバーに送信されます。数秒後、ユーザー登録完了のメッセージが表示されます。

はじめに

ファックスによるユーザー登録

できる限りインターネットでユーザー登録をしてください。ファックスによる登録の場合は、Sibelius パッケージに同梱されているファックスフォームにご記入いただき、フォームに記載されているファックス番号まで送信してください。ファックスフォームに記入するコンピュータ番号は、次の方法で確認してください。

- [ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録] を選択します。
- Windows で Sibelius を初めて起動したときに、以下のいずれかを行います。
 - 制限されたユーザーとして Windows XP にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。この際に、空のパスワードを持つ管理者ユーザーアカウントは使用できませんのでご注意ください。
 - 標準ユーザーとして Windows Vista にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。
 - 管理者ユーザーとして Windows Vista を実行している場合は、登録手続きの許可を確認するように求められることがあります（ユーザーアカウント設定により異なります）。
- [ファックス、電話または E メール] を選択し、[次へ] をクリックします。
- シリアル番号とコンピュータ番号が表示されますので、メモをお取りください。そのあと [あとで登録する] をクリックしてください。

Sibelius テクニカルサポートより「登録番号」をお知らせしますので（通常は 1 業務日後）、[ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録] で、その「登録番号」を入力します。ご自身の名前と、必要に応じて企業や機関の名称、および [登録番号] を入力し、それから [完了] をクリックします。ユーザー登録完了のメッセージが表示されます。

登録後、コンピュータ番号や登録番号を控えておく必要はありません。

電話による登録

できる限りインターネットによるユーザー登録をおすすめします。しかし、電話による登録もできます。

- [ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録] を選択します。
- Windows で Sibelius を初めて起動したときに、以下のいずれかを行います。
 - 制限されたユーザーとして Windows XP にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。この際に、空のパスワードを持つ管理者ユーザーアカウントは使用できませんのでご注意ください。
 - 標準ユーザーとして Windows Vista にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。
 - 管理者ユーザーとして Windows Vista を実行している場合は、登録手続きの許可を確認するように求められることがあります（ユーザーアカウント設定により異なります）。
- [ファックス、電話または E メール] を選択し、[次へ] をクリックします。
- コンピュータ画面が見える状態で、以下の番号に電話してください。
- 電話で与えられた登録番号（R で開始）を画面のボックスに入力します。登録番号を入力すると、プログラムの登録は完了です（引き続き保存できます）。

登録後、コンピュータ番号や登録番号を控えておく必要はありません。

E メールでの登録

できる限りインターネットによるユーザー登録をおすすめします。Sibelius をインストールしたコンピュータとは別のコンピュータでインターネットに接続できる場合は、E メールで登録できます。

- [ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録] を選択します。
- Windows で Sibelius を初めて起動したときに、以下のいずれかを行います。
 - 制限されたユーザーとして Windows XP にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。この際に、空のパスワードを持つ管理者ユーザーアカウントは使用できませんのでご注意ください。
 - 標準ユーザーとして Windows Vista にログインしている場合は、コンピュータの管理者ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するように求められます。
 - 管理者ユーザーとして Windows Vista を実行している場合は、登録手続きの許可を確認するように求められることがあります（ユーザーアカウント設定により異なります）。
- [ファックス、電話または E メール] を選択し、[次へ] をクリックします。
- シリアル番号とコンピュータ番号が表示されますので、メモをお取りください。そのあと [あとで登録する] をクリックしてください。

以下のリストの正しいアドレスへ E メールを送信します。シリアル番号、コンピュータ番号、住所、電話番号などのほか、Sibelius が学校、大学、教会のような組織に登録される場合は、組織の名前も必ず含めてください。Sibelius テクニカルサポートより「登録番号」をお知らせしますので、次の方法で、その「登録番号」を Sibelius プログラムに入力してください。

- [ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録] を選択します。
- [ファックス、電話または E メール] を選択し、[次へ] をクリックします。
- ご自身の名前と、必要に応じて企業や機関の名称、および「登録番号」を入力してください。入力したら [完了] をクリックしてください。ユーザー登録完了のメッセージが表示されます。

登録後、コンピュータ番号や登録番号を控えておく必要はありません。

テクニカルヘルプ：support-jp@sibelius.com

Sibelius の再インストールと再登録

何らかの原因で Sibelius を再インストールする必要が生じ、ユーザー登録もされていない状態になった場合、今までと同じコンピュータに再インストールする場合は、インターネットで自動的に再登録できます。

最初にユーザー登録をしたときと同じように、[ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録] ダイアログで再登録してください。Sibelius にはすでに登録されたコピーであることがわかります。

Sibelius のシングルコピーをお持ちで、別のコンピュータに再インストールする場合は、それが 2 回目のインストールと見なされます（上記の複数のコンピュータでの Sibelius の使用についてを参照）。

はじめに

Sibelius の別コンピュータへの移動

ユーザー登録した Sibelius 登録情報を別コンピュータに移動したい場合は、移動元のコンピュータと移動先のコンピュータが共にインターネットに接続できる状態であれば、[ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録を解除] を使用できます。

このオプションを選択すると、Sibelius Software 社のサーバーにその情報が送信され、そのコンピュータのユーザー登録が解除され、保存機能が使用できなくなります。その後、移動先のコンピュータに Sibelius をインストールし、通常と同じ方法（インターネット）で、[ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録] で登録してください。

この方法では、両方のコンピュータがインターネットに接続できることが必要です。どちらかあるいは両方ともインターネットに接続できない場合は、電話で移動の手続きについてご確認ください（電話による登録（22 ページ）を参照）。

ユーザー登録上のトラブルについて

ユーザー登録の際にトラブルが発生した場合は、テクニカルヘルプ（『最新情報とテクニカルヘルプ』シートをご覧ください）までご連絡ください。登録番号のみが必要な場合は、電話による登録（22 ページ）で電話番号を見つけてください。

プライバシーに関する方針

Sibelius は、ユーザーの方々の個人情報保護を公約し、Data Protection Act（データ保護法）の遵守を宣言しております。

Sibelius を登録またはアップグレードすることにより、利用者は弊社のプライバシーに関する方針に同意します。方針の完全な内容については、www.sibelius.com/privacy をご覧になるか、Sibelius 事業部にご連絡ください。以下はその要約です。

Sibelius は、ユーザー登録時などにユーザーの方からご提供いただいた個人情報を、ユーザーの方の情報確認または Sibelius からの情報（テクニカルサポートやアップグレード、特別販売、他の製品などに関する情報）を送付のために使用することがあります。Sibelius は、ユーザーの方の個人情報を、ユーザーの方の許可を得ずに、以下に特定する者を除く第三者に開示することはありません。特定する者とは、Sibelius グループ会社、各国における Sibelius 販売代理店、Sibelius が提供する他の製品（たとえば PhotoScore など）の製造会社です。これらから、Sibelius に代わって、テクニカルサポートやアップグレード、各種情報を、ご提供させていただく場合があります。

E メールや郵送で Sibelius のアップグレードを含む情報を受け取りたくない場合、または個人情報を上記の関連会社に共有してほしくない場合は、Sibelius 事業部にご連絡ください（『最新情報とテクニカルヘルプ』シートを参照）。

著作権侵害について

Sibelius を正規にご購入いただき、まことにありがとうございました。弊社の Sibelius プログラムの開発努力を尊重し、違法コピーを作成しないようお願いいたします。

著作権侵害により、ソフトウェア会社は正常な商品改善や新商品開発が困難となり、皆様方に大切な商品が提供できなくなります。違法コピーの摘発に皆様のご協力をお願いいたします。

Sibelius Software 社は、Sibelius プログラムの違法コピーの販売者の告発につながる有効な情報提供に対して、2000 US ドル、または 1000 ポンドをお支払いします。Sibelius を違法にコピーしている者を発見した場合は、詳しい情報を、Sibelius Software までお知らせいただくか、piracy@sibelius.com まで E メール（英語）でご連絡ください。

Windows での MIDI セットアップ

■ 「MIDI のセットアップ」

Sibelius Sounds Essentials を使用して再生を行う場合は、セットアップについて、『リファレンス』の 4.4 Sibelius Sounds Essentials を参照してください。

MIDI デバイスの設定手順には、ハードウェアの接続、必要なソフトウェアのインストール、Sibelius での MIDI のセットアップの 3 つのステップがあります。ここでは最初の 2 つの手順を説明します。詳しくは、『リファレンス』の 1.7 入力デバイス を参照してください。

MIDI デバイスをコンピュータへ接続

「MIDI」は「Musical Instrument Digital Interface」の略です。これは、電子楽器同士を接続して使用するための世界共通の規格です。MIDI キーボードやシンセサイザー、音源モジュール、サンプラー、またその他の MIDI デバイスを、互いに MIDI ケーブルで接続したり、コンピュータに接続したりすることができます。サウンドカード、ソフトウェアシンセサイザー、およびバーチャルインストゥルメントも MIDI と互換性があり、これらはコンピュータに内蔵されているので、この場合は楽譜を再生するためにケーブルを接続する必要はありません。

MIDI デバイスのコンピュータへの接続方法は、コンピュータの機種、MIDI デバイスの機種、すでに接続している他のハードウェアの種類などのさまざまな要素によって異なります。一般的には次の 2 種類の接続があります。

- MIDI 機器（キーボードなど）の多くは USB で接続します。1 本の USB ケーブルで MIDI キーボードを直接コンピュータに接続できます。
- 別個の MIDI インターフェイスをコンピュータの背後の USB ポートに接続し、MIDI ケーブルを使用して、MIDI コントローラを MIDI インターフェイスに接続できます。
- 外部 MIDI デバイスを直接コンピュータのサウンドカードにあるゲームポート（ジョイスティックポート）に専用のケーブルで接続できます。

ほとんどの Windows コンピュータにはサウンドカードが付属しており、このカードによって、General MIDI の再生と、ゲームポート経由による外部 MIDI デバイスの接続が可能になります。コンピュータの多くは、ゲームポートと USB ポートの両方を装備しています。どちらのポートのほうがいいといったことは特にありません。ただし、システムをアップグレードする場合は、USB 接続対応の MIDI デバイスを選択するほうが良いでしょう。

MIDI デバイスの USB による直接接続

近年、MIDI キーボードやデバイスは、USB を経由して直接コンピュータと接続できるようになり、外付けの MIDI インターフェイスを必要としなくなってきました。このようなデバイスをインストールする場合は、USB ケーブルでデバイスとコンピュータをつなぎ、画面の指示に従って、必要なドライバソフトをインストールします。

ドライバを正しくインストールした後、Sibelius で入力や再生を設定できます。『リファレンス』の 1.7 入力デバイス を参照してください。

Sibelius が起動時に MIDI デバイスを認識できるように、あらかじめデバイスの電源を入れておく必要があります。さもないと、Sibelius が MIDI デバイスを検出できないことがあります。

はじめに

MIDI インターフェイスを使用した MIDI デバイスの接続

MIDI インターフェイスは、コンピュータと外部 MIDI デバイスの間に設置する小さな箱で、MIDI データを送受信する装置です。通常 MIDI インターフェイスはコンピュータの USB ポートに接続されます。次の状況では、MIDI インターフェイスが必要になる場合もあります。

- 外部 MIDI デバイスが USB に対応していない
- サウンドカードが「フルデュプレックス（全二重）」動作をサポートしていない（すなわち、Sibelius が外部 MIDI デバイスへ再生できても、外部デバイスから Sibelius へ再生できない場合）。
- コンピュータが、ノートブック型（ラップトップ）のため、ゲームポートがない

通常、MIDI インターフェイスを使用するには、製造元が供給するドライバソフトウェアをインストールする必要があります。

ここでは、MIDI インターフェイスが USB 経由で接続されていることを前提に、一般的な MIDI のセットアップを説明します。MIDI デバイス間の接続はすべて、右図に示す標準 MIDI ケーブルで行います。

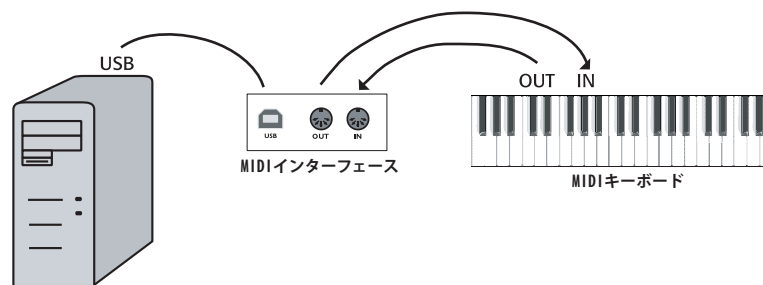


MIDI キーボードを接続するには、キーボードの「Out（アウト）」端子を MIDI インターフェイスの「In（イン）」端子に接続します。すなわち、キーボードで演奏される音楽（演奏データ）はキーボードから出て、ケーブルを伝ってコンピュータへ入ります。

コンピュータからキーボード（内蔵音源がある場合）に楽譜を再生させるには、MIDI インターフェイスの「Out（アウト）」もキーボードの「In（イン）」に接続します。

キーボードに 2 組の「In（イン）」と「Out（アウト）」の端子がある場合は、通常どちらを使用してもかまいません。

したがって、キーボードだけを接続する場合は、次の図のようになります。



たとえば、キーボードの代わりにサウンドモジュールだけを接続する場合は、MIDI インターフェイスの「Out（アウト）」をサウンドモジュールの「In（イン）」に接続します。

MIDI デバイスをコンピュータに接続した後、Sibelius で入力を設定できます（『リファレンス』の  「1.7 入力デバイス」を参照）。

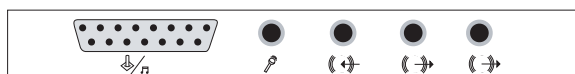
Windows での MIDI セットアップ

ゲームポートを使用した MIDI デバイスの接続

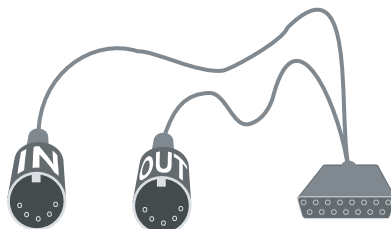
一般的に、サウンドカードが「フルデュプレックス（全二重）」動作をサポートしているか（製造元にご確認ください）、直接 USB 接続を使用できる場合は、別途に MIDI インターフェイスを用意する必要はありません。

サウンドカードのゲームポートを使用する場合は、追加のドライバソフトウェアは必要ありません。MIDI デバイスを接続するだけで準備完了します。

通常、ゲームポートは、コンピュータのスピーカーとマイクの端子の隣にあります。一般的に、サウンドカードでは次の図のような形をしています。



ゲームポートは図の左端にあるような長方形の端子です。ここに外部 MIDI デバイスを接続するには、次の図が示すような Y 形の MIDI - ゲームポート接続ケーブルが必要です。



MIDI の 2 つのプラグには「In (イン)」と「Out (アウト)」と書かれています。このケーブルをたとえば MIDI キーボードに接続するには、「In (イン)」のプラグをキーボードの背面の「Out (アウト)」端子に接続し、「Out (アウト)」のプラグをキーボードの「In (イン)」端子に接続します。

これで準備完了です。「In (イン)」と「Out (アウト)」のプラグを MIDI キーボード（またはサウンドモジュール）の正しい端子に差し込めば、設定が完了します（『リファレンス』の 1.7 入力デバイス」を参照）。

はじめに

Mac での MIDI セットアップ

■ 「MIDI のセットアップ」

再生に Sibelius Sounds Essentials を使用している場合は、『リファレンス』の  「4.4 Sibelius Sounds Essentials」を参照してください。

Mac で MIDI をセットアップするには、以下の説明に従って MIDI 機器を接続し、Mac OS X の Audio MIDI 設定ユーティリティを使用します。Sibelius の MIDI 入力のセットアップ方法については、『リファレンス』の  「1.7 入力デバイス」を参照してください。

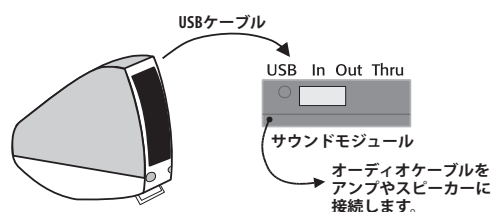
MIDI デバイスの接続

「MIDI」は「Musical Instrument Digital Interface」の略です。これは、電子楽器同士を接続して使用するための世界共通の規格です。MIDI キーボードやシンセサイザー、音源モジュール、サンプラー、またその他の MIDI デバイスを、互いに MIDI ケーブルで接続したり、コンピュータに接続したりすることができます。サウンドカード、ソフトウェアシンセサイザー、およびバーチャルインストゥルメントも MIDI と互換性があり、これらはコンピュータに内蔵されているので、この場合は楽譜を再生するためにケーブルを接続する必要はありません。

Mac では、MIDI 機器は USB か Firewire ポートに接続されます。いずれの場合も、サウンドモジュールのような MIDI 機器を直接（USB かシリアルポートに）接続するか、MIDI インターフェイス経由で接続します。

たとえば、Roland SC-88 Pro サウンドモジュールを USB 付きの新しい iMac や G4 と接続する場合は、このモジュールがかなり旧式であるため、外部 MIDI インターフェイスを使用する必要があります。しかし、新型の Roland SC-8820 は直接 USB で接続できるため、MIDI インターフェイスは必要ありません。

MIDI デバイスの直接接続



この図でサウンドモジュールまたは MIDI キーボードを直接接続する方法を説明します。

通常キーボードやサウンドモジュールの背面にスイッチがあり、どの接続方法でデータを送受信するかを決定するので、これが正しく設定されているかを確認します（この例では、USB に設定する必要があります）。この設定変更を認識させるために、サウンドモジュールやキーボードをオフにしてから再びオンしなければならない場合があります。

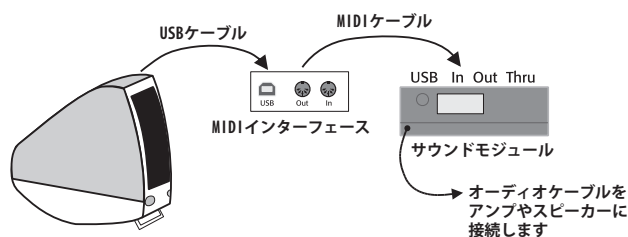
接続方法の詳細については、モジュールやキーボードに付属のマニュアルを参照してください。直接接続の場合は、デバイスに付属のドライバソフトウェアをインストールしなければならない場合があります。

Mac での MIDI セットアップ

MIDI インターフェイス経由の MIDI デバイスの接続

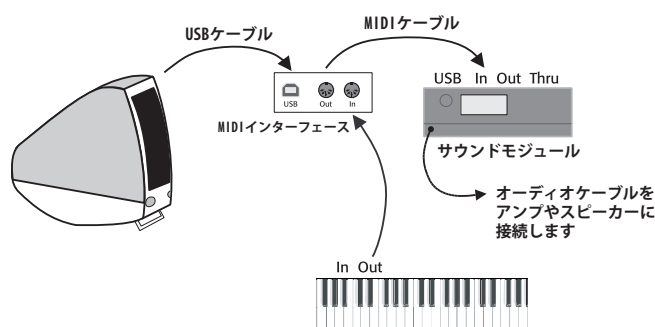
MIDI インターフェイスは、MIDI 機器を USB ポート経由で Mac に接続する小さな箱です。

次の図が示すように、MIDI インターフェイスを使用して、サウンドモジュールを iMac に接続します。



MIDI ケーブルは、MIDI インターフェイスの「Out (アウト)」端子からサウンドモジュールの「In (イン)」端子へ接続します。

MIDI キーボードや他の入力デバイスを追加するには、デバイスを次の図のように接続します。



2 番目の MIDI ケーブルは、キーボードの「Out (アウト)」端子から MIDI インターフェイスの「In (イン)」端子へ接続します。

MIDI インターフェイスを使用する際に、製造元が供給するドライバソフトウェアをインストールしなければならない場合があります。

Audio MIDI 設定

外部 MIDI 装置を接続した場合は、それぞれのデバイスの詳細をオペレーティングシステムに認識させるために、Mac OS X ユーティリティの「Audio MIDI 設定」で設定する必要があります。

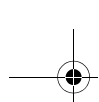
- アプリケーションフォルダにあるユーティリティフォルダの「Audio MIDI 設定」アイコンをダブルクリックして起動します。
- 「MIDI 装置」ボタンをクリックします。
- 正しくインストールされた MIDI デバイスは、大きな白いウィンドウ内に表示されます。
- 接続された MIDI デバイスがサウンドモジュールの場合は、その他の設定は必要ありません。Audio MIDI 設定ユーティリティを終了します。そのあとの設定については、『リファレンス』の「4.11 再生デバイス」を参照してください。
- 接続されたデバイスが MIDI インターフェイスの場合は、「装置を追加」ボタンをクリックして新しい外部デバイスを追加します。

はじめに

- 「**新しい外部装置**」のアイコンをダブルクリックします。[新しい外部装置のプロパティ] ダイアログで [装置名] を変更します (たとえば **Roland JV-1080** などのようにデバイスの名前と合わせます)。次に、[製造元]、[機種] リストから最も適切なものを選択します (複雑な MIDI 設定を行う上級者は、[詳細表示] 内の [プロパティ] ボタンをクリックしてください。どの MIDI チャンネルでデータを送受信するかなどの追加パラメータでコントロールできます)。
- MIDI インターフェイスに新しいデバイスが接続されたことを Mac に認識させます。デバイスのアイコンの矢印をドラッグして、入力と出力を「線」で接続します。
- 完了したら、Audio MIDI 設定ユーティリティを終了します。そのあとの設定については『リファレンス』の  「1.7 再生と入力デバイス」を参照してください。

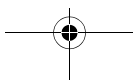
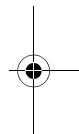
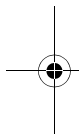
Audio MIDI 設定ユーティリティの使い方については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sonosphere.com/MusicSoftware/MacOSX/AudioMIDISetup/>



クイックツアー

クイックツアー



クイックツアー

Sibelius でできること

Sibelius は、最先端の楽譜作成ソフトウェアです。軽快で、知的に、そして簡単に、楽しみながら楽譜を作成、再生、印刷することができます。

ルネッサンスからアバンギャルドまで、また、リュートトラチアから歌詞まで、あるいは、ハンドベルからハーブペダリングまでというように、Sibelius は音楽におけるあらゆる種類の楽譜を扱うことができます。さらに、一般的なプリンタで印刷しても、世界有数の出版社の最高品質に匹敵する本格的な楽譜を作成できます。オーケストラやバンド、他のアンサンブル用の楽譜を作成する場合は、全部のパートを含む楽譜を作成（または更新）すると、自動的に忠実なパート譜一式が作成（または更新）されます（ダイナミックパート）。Sibelius はまた、ジャズやロック、ポップスの楽譜作成にも適しており、そのようなジャンルの楽譜に特徴的な、手書きスタイルの楽譜や複雑なコード記号、パーカッション譜、ギタートラチアとコードダイアグラムにも対応しています。

Sibelius は非常にわかりやすい操作を実現しており、その意味でも、決してプロの音楽家のためだけのものではありません。実際、幾万もの教室や各種学校、大学で使われています。生徒や学生の方も Sibelius の使い方を習得するのに時間を要しません。チュートリアルビデオをご覧いただければすぐに使い始めることができます。Sibelius はまた、生徒や学生の方の、記譜の基本学習からビデオ用音楽制作などのマルチメディアプロジェクトの完成までをサポートします。ワークシートクリエーターでは 1700 種類以上のワークシートや教材を提供しており、指導者の方のお役に立ちます。また、そういった教材や各種の素材をインターネットで配布したり、共有したりすることができます。

さらに、印刷楽譜からのスキャン入力にも対応し、作成した楽譜をインターネットで出版したり、自動的にアレンジしたり、またオーケストラ化したり、CD 作成のためにオーディオファイルとして保存したりすることもでき、必要に応じて作成した新しいプラグイン機能で、様々なことを実行できます。

Sibelius に熟達することにより、楽譜を書くことに費やす膨大な時間は、文字通り物理的に楽譜を書き込むという作業であったことがわかるはずです。Sibelius に任せれば、リピートや移調、そして各楽器パート譜での作業など機械的作業が、すばやく正確に行われます。Sibelius は有能なアシスタントのようなものです。あなたにとって最も楽しい瞬間である創造的な作業を行っている間、代わりにすべての退屈な作業を行ってくれます。

Sibelius を使うことは、「99% のインスピレーションと 1% の努力」であると Sibelius は考えています。

クイックツアーについて

クイックツアーでは、Sibelius のメイン機能である印刷、再生、楽譜の新規作成について解説するとともに、Sibelius を使いこなすための重要なコンセプトについて紹介します。このセクションをやり終える頃には、ピアノの小曲をコピーし終わり、ご自分の音楽に取り組める準備ができています。

クイックツアーをひととおりやってみることで、Sibelius の主な機能を数時間で学ぶことができます。そのあとで、楽譜作成を始めることをおすすめします。簡単なものから始めても、Sibelius がミスや変更を柔軟に対処してくれるということがわかるはずです。最初から壮大な楽譜の構想を仕上げておく必要はありません。たったひとつのピアノパートから始めて、少しずつ楽器を増やして行き、やがてコーラス隊を率いた 90 もの楽器からなる交響楽オーケストラの楽譜を仕上げることができます。

クイックツアーのあとに、How to に進みましょう。そこには Sibelius でどのように音楽の一般的なタイプの記譜を行うかの有益な要約が記されています。

Sibelius の最初の起動

Windows の場合には、パソコンの画面の左下にある **[スタート]** をクリックし、**[プログラム]** (Windows XP) または **[すべてのプログラム]** (Windows Vista) の **[Sibelius ソフトウェア]** から **[Sibelius 5]** をクリックします。デスクトップにショートカットを作成した場合には、アイコンをダブルクリックしてください。

Mac では、ハードディスクのアイコンをダブルクリックし、**アプリケーションフォルダ**まで進んでください。その中にある **Sibelius 5** プログラムアイコンをダブルクリックします。

プログラムが、教育用またはその他の特別なコピーの場合、初回起動時にその旨が表示されます。**[OK]** をクリックしてください。その後メッセージは現れません。

Sibelius は最初の起動まで完全にはインストールされません。

- Mac では、Sibelius の使用許諾契約が表示されます (Sibelius の使用許諾契約は『リファレンス』の最後にも掲載されています)。**[同意する]** をクリックしてください。
- 次に、Sibelius の旧バージョンがインストールされているかどうかを尋ねてきますので **[いいえ]** をクリックします (旧バージョンがインストールされていない場合)。
- シリアル番号を入力するよう求められる場合もあります。シリアルナンバーは Sibelius DVD-ROM の裏面に記載があります (**「S」** ではじまるナンバーです)。

Sibelius の登録

Sibelius の登録が完了していないと、起動のたびに登録画面が開きます。Sibelius の登録に関しては、**ユーザー登録** (20 ページ) をご参照ください。

すぐに登録したくない場合は、**[あとで登録する]** をクリックします。「15 日間を過ぎると保存できなくなります」というメッセージが現れるので、**[OK]** をクリックします。

15 日の間に登録を忘れても心配する必要はありません。保存機能なしでも Sibelius の使い方を学べますし、あとで登録すれば保存機能を再び有効にすることができます。

起動画面

数秒の間に Sibelius の画面が現れ、アイスランドの交響楽団による Sibelius 作曲の交響曲第 3 番の一部が流れます。

(毎回音楽を流れないようにするには、**[ファイル]** の **[環境設定]** ダイアログの **[その他]** ページにある **[音楽を再生]** をオフにしてください。Mac の場合は、**[Sibelius]** メニューにあります)。

[再生デバイス] ダイアログ

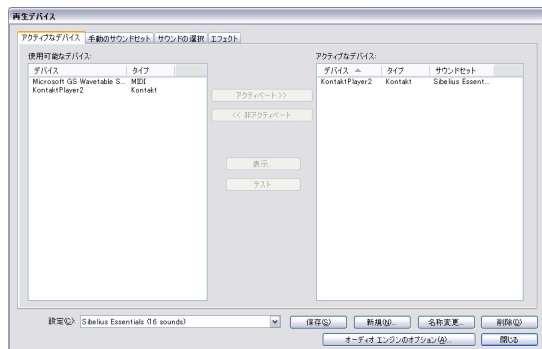
Sibelius が起動すると、**[再生デバイス]** と呼ばれるダイアログが現れます。このダイアログを使用すると、Sibelius が使用できるデバイス、およびそれらのデバイスを再生するときの使用方法を決定する一連の再生デバイス設定をセットアップできます。設定できる再生設定の数に制限はありません。それぞれの設定で異なるデバイスを使用したり、再生設定を随時切り替えることも可能です。Sibelius は付随の Kontakt Player 2 のようなバーチャルインストールメントだけでなく、コンピュータに接続した内部または外部 MIDI デバイスを使って再生することもできます。

現段階では、コンピュータの基本的なサウンドカードに内蔵されたサウンドを使って再生するか、または Sibelius Sounds Essentials (インストールされている場合) を使って再生するかを選択するだけ

クイックツアー

でかまいません。Sibelius Sounds Essentials を使用する前は、コンピュータの処理能力が十分に強力であるかどうかを確認します。詳細については、『リファレンス』の 4.11 「4.4 Sibelius Sounds Essentials」を参照してください。

コンピュータの内蔵サウンドを使用する場合は、[再生デバイス] ダイアログの一番下にある [設定] メニューの [標準設定] を選択します。Sibelius Sounds Essentials を使用する場合は、[設定] メニューから [Sibelius Sounds Essentials] を選択します（内蔵サウンドよりも高音質です）。

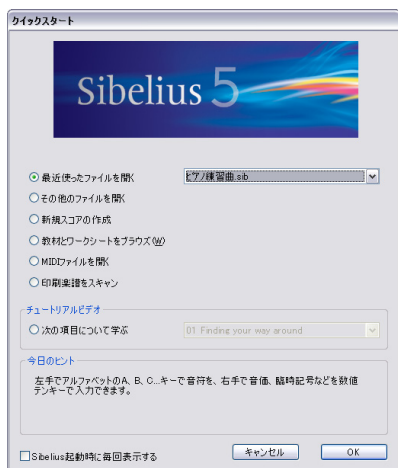


設定の終了後、[閉じる] をクリックします。再設定したい場合は、Sibelius のメニューから [再生] ▶ [再生 デバイス] でこのダイアログを開きます。

（このダイアログの使用の詳細については、『リファレンス』の 4.11 「再生デバイス」を参照してください。）

クイックスタート

最後に表示されるのが、クイックスタートのダイアログです。



このダイアログは、あなたが最近使用した 10 個のスコアのうちのどれかを開く、あるいは、MIDI ファイルの読み込み、楽譜のスキャンなどの様々な方法で、新しいスコアを作成するときの手助けをしてくれます。

また、このダイアログから、Sibelius のチュートリアルビデオをご覧ください（以下をご覧ください）。

ダイアログの一番下にある「今日のヒント」は、Sibelius を使用するにあたっての、便利なヒントを教えてください。

クイックスタートダイアログが毎回表示されるのがわずらわしい場合は、[Sibelius 起動時に毎回表示する] のチェックをはずしてオフにしてください。（クイックスタートダイアログを Sibelius 起動時に再び表示させたい場合は、[ファイル] ▶ [クイックスタート] でクイックスタートダイアログを開き、[Sibelius 起動時に毎回表示する] をオンにしてください。）

チュートリアルビデオ

Sibelius には、多くのタイトルのチュートリアルビデオが用意されています。チュートリアルビデオでは、プログラムの主な機能がわかりやすく簡潔に説明されています。タイトルは、基本機能のご紹介から、インターネットでの楽譜出版や Sibelius Sounds Essentials での楽譜再生のヒントまで、多岐にわたっています。この『ハンドブック』と『リファレンス』全編を通じたビデオタイトルとの関連項目で、該当ビデオタイトルを、「ビデオタイトル」の表記（たとえば ■ 「音符の入力」）でご案内しています。ビデオは、[ファイル] ▶ [クイックスタート] ダイアログから、または [ヘルプ] ▶ [チュートリアルビデオ] からご覧いただけます。

ビデオをご覧いただくには、Adobe の Flash Player がコンピュータにインストールされている必要があります。インストールされていなかった場合は、ビデオを最初にご覧いただくときに、ダウンロードを促すメッセージが表示されます。

ルック & フィール

「Sibelius の紹介」

ファイルを開く

Sibelius を始めるにあたって、手助けになるような、様々な用途での使用例をサンプルスコアとして用意しました。これらのサンプルスコアのオリジナルファイルは、Sibelius のインストール DVD-ROM にも収録されているので、自由に変更して構いません。それでは、スコアをひとつ開いてみましょう。



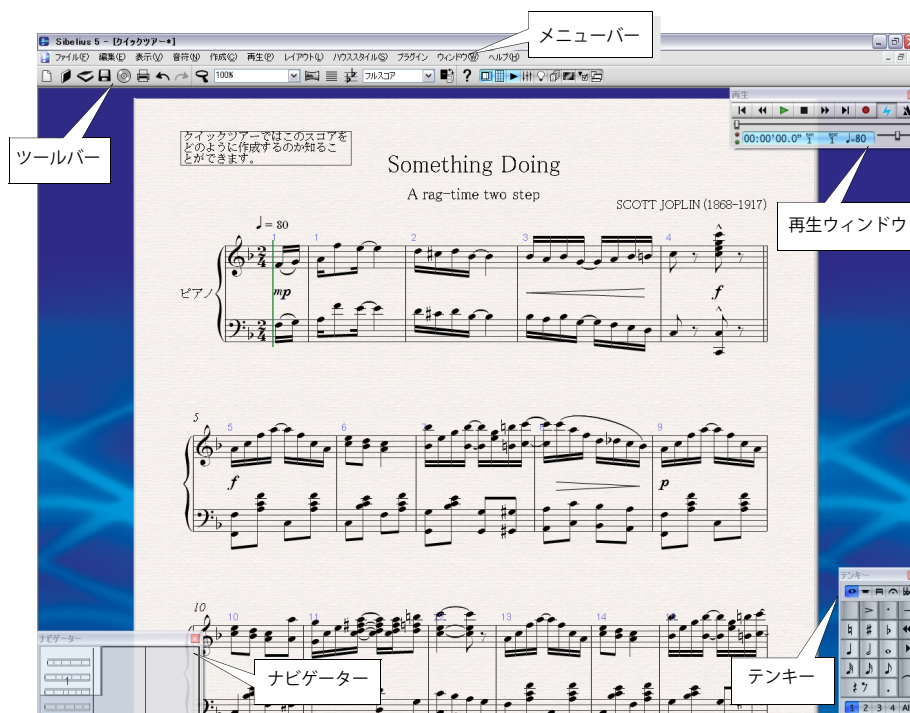
クイックスタートダイアログの【その他のファイルを開く】を選び【OK】ボタンをクリックするか、画面左上にあるツールバーボタンをクリック、あるいは、メニューバーから【ファイル】▶【開く】を選択します（ショートカットは **Ctrl + O** または **⌘O**）。

【開く】ダイアログが表示されます。Windows では「スコア」というフォルダが表示され、この中に「サンプルスコア」へのショートカット（もしくはエイリアス）があります。Mac では、Sibelius 5 DVD-ROM の「サンプルスコア」フォルダが表示されます。「サンプルスコア」フォルダをダブルクリックします。次に「その他」フォルダへ進み、「クイックツアー」ファイルを選んで【開く】をクリックします。これは Scott Joplin（スコット・ジョプリン）作曲によるラグタイム調の曲「Something Doing」から抜粋した 1 ページです。

余談ですが、Sibelius が起動していない状態でも、パソコン内にあるスコアファイルを直接ダブルクリックすることで Sibelius が自動的に起動し、そのファイルが開きます。Sibelius のスコアファイルのアイコンは右図のようなものです。



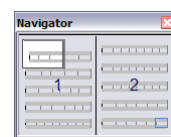
Scott Joplin のスコアを開くと、楽譜が表示され次のような画面が現れます。



クイックツアー

スコア内を移動する

画面左下隅には、ナビゲーターと呼ばれるグレーの長方形のボックスがあります。ここには縮小したページが表示されています。ナビゲーター内の白いボックスの部分には、現在画面に表示されているスコアの一部分が表示されます。



- ナビゲーターが表示されていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ナビゲーター] でチェックをオンにしてください (ショートカットは **Ctrl+Alt+N** または **⌘+⌥N**)。
- ナビゲーターの一部をクリックすると、クリックした部分にウィンドウがすばやく移動します。
- あるいは、白いボックスをクリックしてドラッグすると、ウィンドウがスムーズにスコア内を移動します。この動作はまるで本物のビデオカメラを使ってスコア内を写しているような感覚です。一般的なパソコンでは、1/10 秒以内で再描画されるでしょう。
- 数ページにわたる長いスコアの場合、白いボックスをナビゲーターの左方向や右方向にドラッグするとスコアが左方向や右方向に移動していきます。速くドラッグすればスコアも速く移動します。この操作により、複数のページの中を連続的に見ることができます。

ナビゲーターを使ってスコア内を移動すると、青色いデスクの上に各スコアのページが横並びに置かれているのがわかります。長いスコアでは、ページはスコアを広げたようなペアの形になっているので、ページがどこで切り替わるかがわかるはずです。

お気づきのように、画面上の用紙には目に優しいテクスチャーが使用されています。後ほど説明しますが、羊皮紙や木目といったものまで、たくさんの用紙やデスクカラー、テクスチャーや素材を選択することができます。

画面のスコアの動きが遅いときには、フルスコアとパート譜の紙質や模様を無地に変えてみてください (以下のテクスチャーと半透明ウィンドウをご覧ください)。

キーボードショートカット

Sibelius にはたくさんのキーボードショートカットが用意されているので、マウスを使用するよりもキーを押す方が便利です。少なくとも最も一般的な操作に使用されるショートカットを覚えればよいでしょう。これらのショートカットはこの『ハンドブック』の後ろのカバーにも掲載されています。また、詳しくは、『リファレンス』の 「5.9 メニューとショートカット」をご覧ください。Sibelius のほとんどの操作をマウスなしでショートカットを使ってできるようになれば、「パワーユーザー」の域に達しているといえるでしょう。

スコア移動のショートカットは覚えやすいでしょう。

- **Page Up** (Mac では **page up**) と **Page Down** (Mac では **page down**) は画面全体を上または下方向に移動します。
- **Home** (Mac では **home**) と **End** (Mac では **end**) は、画面全体を左または右に移動します。**Ctrl+Home**、**Ctrl+End** は、最初または最後のページに移動します。(一部の Mac キーボードには **End** キーがありません。)

○ **ヒント** マウスを使うことを避け、できるだけ多くのキーボードショートカットを覚えましょう。マウスは非常に限られた操作にだけ必要なのです。Sibelius はたくさんのショートカットが用意されており、それは素晴らしい結果をもたらします (たとえば、あとで説明しますが、スラーの作成と配置は、**S** と **スペースキー** を押すだけです)。

スコア内を移動する別の方法

用紙の空白の部分をドラッグすることで、ナビゲーターを使用せずにスコア内を移動することもできます。

標準設定では、スクロールバーが表示されていません。なぜなら、ナビゲーターを使用した方がすばやく移動できるからです。もしもスクロールバーを表示する場合には、**[表示]**メニューからスクロールバーをオンにします。

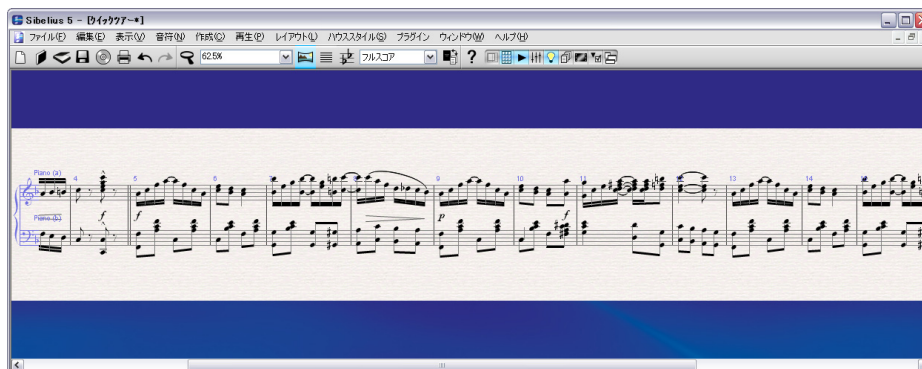
マウスにホイールボタンがついていれば、ホイールを使ってスコアをスクロールすることができます。その場合にも **[表示] ▶ [スクロールバー]** がオンになっている必要があります。

- ページを上下させるにはマウスのホイールを上下に回転させることでスクロールします。また一度に画面全体を上下に動かすには **Alt キー** を押しながら上下させます。
- **Shift キー** を押しながらマウスのホイールを上へ動かすとページが左に、下に動かすと右に移動します。また、一度に画面全体を左右へ移動するには Shift キーと **Alt キー** を同時に押しながら左右へ動かします。
- **Ctrl** キーまたは **⌘** キーを押しながら、ホイールを操作することにより画面を拡大/縮小することができます。詳しくは以下のズームをご覧ください。

Windows でスクロールの速度を変えるには、コントロールパネルの「マウス」のプロパティで変更します。変更できる項目はインストールされたマウスのドライバに依存しますが、多くのマウスのドライバは、スクロールに関する変更が可能になっています。マウスホイールのスクロールのスピードを速くすることで、スコアの移動がさらに迅速に行えます。

パノラマ

ナビゲーターよりも便利な全く別の方法でスコアを表示するには、**[表示] ▶ [パノラマ]** (ショートカットは **Shift + P**) を選択するか、右側に表示されるツールバーボタンをクリックします。スコアはすぐに単一の無限の長さの大譜表で表示されます。



パノラマを使用すると、スコアは左から右にスクロールするため、Sibelius 内でページを上下に移動するような面倒な作業をすることなく楽譜入力ができます。

このような表示方法は、他社のプログラムでは「スクロールビュー」や「ギャラリービュー」と呼ばれることもあります。パノラマを再びオフにするには、**[表示] ▶ [パノラマ]** を選択するか、ツールバーボタンを再びクリックします。

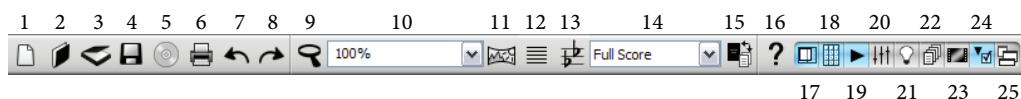
前述のナビゲーション方法は、標準の表示でもパノラマ表示でも同じように動作します。ただし、ナビゲーターはパノラマでは表示されません (スコアがページごとに表示されないため)。

パノラマの詳細については、『リファレンス』の **5.10 パノラマ** を参照してください。

クイックツアー

ツールバー

メニューの下の方画面上部には、Sibelius ツールバーがあります。ツールバーによって保存や印刷、再生などの重要な機能にすぐアクセスできます。次のボタンがあります。



- | | |
|--|--|
| 1. [新規] — 新しいスコアを作成します。 | 14. ダイナミックパートの一覧を表示します。 |
| 2. [開く] — 既存のスコアを開きます。 | 15. [フルスコアとパート譜の切り替え] |
| 3. [スキャン] — PhotoScore を使って楽譜をスキャンします (インストールしている場合)。 | 16. [Sibelius リファレンス] — Sibelius リファレンスを表示します。 |
| 4. [保存] — スコアをディスクに保存します。 | 17. [ナビゲーター] — ナビゲーターウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 5. [オーディオのエクスポート] | 18. [テンキー] — テンキーウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 6. [印刷] — 現在のスコアを印刷します。 | 19. [再生] — 再生ウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 7. [元に戻す] — 最後に行った操作を 1 つ前に戻します。 | 20. [ミキサー] — ミキサーウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 8. [繰り返す] — 最後に戻した操作を再実行します。 | 21. [アイデア] — アイデアウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 9. [ズーム] | 22. [パート] — パートウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 10. [倍率] — ズーム値を選択してズーム (拡大、縮小) します。 | 23. [ビデオ] — ビデオウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 11. [パノラマ] | 24. [プロパティ] — プロパティウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 12. [譜表にフォーカス] — 特定のパートにフォーカスします。 | 25. [ウィンドウを表示 / 非表示] — 全ツールウィンドウの表示 / 非表示を切り替えます。 |
| 13. [スコアの移調] — スコアの移調をオン / オフで切り替えます。 | |

マウスカーソルをボタンの上に置くと、そのボタンの名前が表示されますこれらのボタンの役割が今ははっきりわからなくても心配することはありません。あとで詳しい説明があります。

ルック & フィール

ズーム

スコアの拡大率を調整するには、ツールバーの【ズーム】(虫眼鏡のアイコン)をクリックしてから、スコアをクリックすると拡大し、右クリック (Windows)、 $\text{⌘} +$ クリック (Mac) で縮小します。特定の場所を拡大するには、目的の場所を長方形を描くようにドラッグします。その状態でマウスボタンを離すと、ドラッグで選択された範囲が拡大されます。

ズーム操作をやめるときには、ツールバーの【ズーム】ボタンをもう一度クリックするか、**Esc** キーを押します (Esc キーは作業を止めたり、選択を解除する時によく使われます)。

ズームにおいても、キーボードショートカットの方がマウス操作よりも速く、この場合 **Ctrl++** または $\text{⌘} +$ キーで拡大し、**Ctrl+ -** または $\text{⌘} -$ キーで縮小します。音符や他のオブジェクトを選択している場合 (このあとすぐに説明します)、選択している音符やオブジェクトが画面からはずれないようにズームインします。また、ツールバー上にあるドロップダウンリストで拡大率を選択したり、直接数値をタイプしたりすることでも拡大 / 縮小が行えます。

ホイール付きのマウスなら、**Ctrl** キーまたは ⌘ キーを押しながら、ホイールを上下させることで、拡大 / 縮小が行えます。



クイックツアー

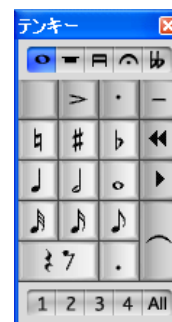
最初に一つの音符を選択して、段階的に拡大して試してみてください。Sibelius が選択した音符に対してどのようにズームインしていくかがわかります。あるいは、最初のページの右上の隅を拡大してみてください。ページの重なり方まで見えるようになります。

画面上で 1 ページ全体が表示されるように縮小してみてください。次に拡大率を 100% に戻してみてください。これが Sibelius の作業で一番使いやすい大きさです。

テンキーウィンドウ

画面右下にあるテンキーウィンドウを使うと、音価や臨時記号、アーティキュレーション、タイ、その他の記号を選択して、音符を作成したり編集したりできます。(「アーティキュレーション」とはスタッカート、テヌート、アクセントなど音符の上または下に付加される記号のことです。音価とは、音符の長さのことです。このような用語を含む音楽用語や他の専門用語は、『リファレンス』の「用語集」で説明されています。)

コンピュータキーボードの右側にあるテンキーが、画面上のテンキーウィンドウに対応しています。これらのキーを押すことによりマウスでクリックすることと同じことができ、しかもすばやく操作することができます。もし、ノートパソコンをお使いの場合には数値キーはないかもしれませんが、オルタネイティブキーで代用が可能です。詳細については、『リファレンス』の「1.2 テンキー」を参照してください。



テンキーウィンドウの下にある 5 つの小さなタブによると、テンキーは、5 つの異なる「レイアウト」を選択するためのもので、それぞれにレイアウトに音楽記号が割り当てられています。これらのレイアウトは「第 1 レイアウト」、「第 2 レイアウト」と呼びます。レイアウトを切り替えるには、マウスでタブをクリックする、**F8+F12** を押す、またはテンキーウィンドウ上にある ▶ ボタン (ショートカットは **+**) でレイアウト間を順送りにします。最初のレイアウトに戻るには ◀ ボタン (ショートカットは Windows では **F8**、Mac では **-**) を使います。

クイックツアー

他のレイアウトの中にはいくつか見慣れないものがあるかもしれません。第 1 レイアウトがもっとも使われるレイアウトです。

一番下の数字の列は、「声部」に関する入力や編集を行うものです。この項目については、後ほど説明します。

Sibelius では、テンキーを特別な機能として使用しているため、Sibelius を使用している間は他のプログラムのように **Num Lock** 機能をオフにして数値キーや矢印キーのように使うことはできません。

テンキーについては、後ほど詳しく説明します。

メニュー

Sibelius の画面上部にはメニューがあります。まずは、一通りメニューを見ておいてください。もっとも使用頻度が高いメニューは **【作成】** です。このメニューには、テンキーに割り当てられない拍子記号、音部記号、テキストなどの音楽記号が用意されています。

画面のカスタマイズ

Sibelius の画面上のデザインを簡単に変更することができます。**【表示】** ▶ **【ツールバー】**、**【ウィンドウ】** ▶ **【再生】**、**【ウィンドウ】** ▶ **【テンキー】**、**【ウィンドウ】** ▶ **【ナビゲーター】** のオン / オフを試してみてください。オフにすると各ウィンドウが閉じ、画面が広く使えるようになります。各ウィンドウの上隅にある、画面を閉じる小さいアイコンをクリックしても、画面を閉じることができます (**【ウィンドウ】** ▶ **【ツールウィンドウを非表示】** を選ぶと、現在表示されているすべてのツールウィンドウを一度に閉じることができます。このメニューは表示 / 非表示の切り替え式になっていますので、もう一度同じメニューを選ぶと、閉じる前に表示されていたすべてのツールウィンドウを一度に開くことができます)。これぞ「バーチャル譜面用紙」です！

Sibelius の使用方法に精通し、さらに多くのキーボードショートカットを覚えたときには、このようなことがマウスを使わずにできるようになるでしょう。**【表示】** と **【ウィンドウ】** メニューから、4 つのオプションを同じ方法で再びオンにして表示を元に戻しておきましょう。

ところで、Windows では、さらに「バーチャル譜面用紙」にもう一步近づけることができます。**【表示】** ▶ **【全画面】** (ショートカットは **Ctrl+U**) をオンにすると、画面全体に譜面を表示することができます。この状態では、上部にあったメニューが消えてしましますが、マウスを画面の上部に動かすことによって、再びメニューが表示されます。

Mac では **【表示】** ▶ **【全画面】** のメニューは用意されていません。Mac ではメニューを隠すことは好ましくないと思われるからです。Windows にはこのような制限はありません。

テクスチャーと半透明ウィンドウ

スコアとテクスチャー (模様) を変えることにより、画面表示をカスタマイズすることができます。ただし、ご使用のパソコンによっては、テクスチャーを変更することにより Sibelius の動作がまれに遅くなることがあります。スコアの画面移動が遅く感じたら、**【ファイル】** ▶ **【環境設定】** (Mac では **【Sibelius】** ニューにあります) の **【テクスチャー】** ページで、**【代替のテクスチャー描画】** をオンにしてみてください。速度が速くなる場合があります。それでもまだ遅い場合には、同じページの **【用紙】** と **【デスク】** の欄 (フルスコアとパート譜それぞれ) を両方とも **【テクスチャーの代わりにカラーを使用】** にすると、描画速度がかなり速くなります。

ウィンドウを半透明にすることもできます (描画速度向上に効果的です)。ツールウィンドウを半透明にするには、**【ファイル】** ▶ **【環境設定】** (Mac では **【Sibelius】** メニューにあります) の **【表示】** ページで、**【半透明のツールウィンドウ】** をオンにしてください。また、スライダーをドラッグして、半透明の度合いを調節することもできます。ぜひお試しください。

表示設定と効率化のためのヒント

できれば、Sibelius を使用するための他のディスプレイ設定も行ってみてください。画面の解像度や、表示カラー数、「スムージング」のレベル（アンチエイリアス）などを調整して、楽譜表示と Sibelius の速度が最適になるよう設定してください。

Sibelius の表示の変更について、いくつかのヒントを『リファレンス』の  「5.3 表示設定」に記載しています。

複数モニタの使用

パソコンに複数のディスプレイを接続して Sibelius を使用することもできます。このようにすると、各ディスプレイで別々のスコアを開いたり、ひとつのモニタに譜面を表示し、別のモニタでナビゲーターやテンキーウィンドウ、ミキサーを表示したりすることができ、非常に便利です。

クイックツアー

再生

■ 「再生」、「Sibelius Sounds」、「Kontakt Player 2」、「MIDI の設定」

ルック & フィールドで Sibelius の操作に慣れたところで、楽譜を再生してみましょう。



ツールバーの「再生」ボタンをクリックするか、キーボードの**スペースキー**を押すと再生が始まります。**[再生]**メニューからでも再生できますが、再生ボタンを使ったほうが簡単です。

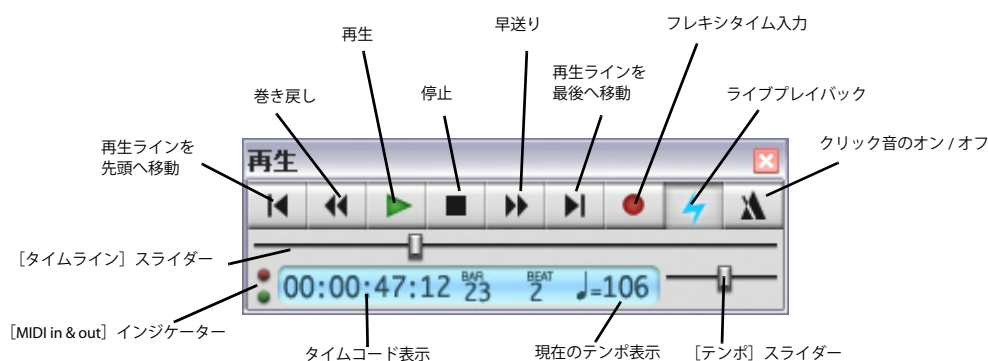
再生デバイスに 150 を超える高品位な音源を持つサウンドライブラリを内蔵した Sibelius Sounds Essentials を使用している場合、Kontakt Player 2 が音色をメモリーに読み込むまで、少し時間がかかることがあります。

音が鳴らない場合には、Windows での MIDI セットアップ（25 ページ）、または Mac での MIDI セットアップ（28 ページ）に従っているかどうか確認してください。それでも音が鳴らない場合は、『リファレンス』の 「4.11 再生デバイス」を参照してください。

Sibelius は、再生の際に自動的にテンキー（開いている場合にはプロパティウィンドウも）を隠し、楽譜全体が見渡せるように表示範囲を広げます。楽譜を再生すると、縦の緑色の線（再生ラインと呼ばれます）が表示され、再生中の位置を示します。曲の進行にしたがって楽譜が移動していきます。楽器が複数ある場合、再生を開始したときに表示されていたすべての楽器が再生されます。

再生ウィンドウ

再生ウィンドウは、楽譜の再生をコントロールします。



これらのボタンにより、再生、停止、早送り、巻き戻しができます。巻き戻しは、楽譜を小節ごとに再生しながら戻ります。これらのボタンの代わりに、ワンキーのショートカットとして、**スペースキー**（再生と停止）、**[キー]**（巻き戻し）、**[キー]**（早送り）が使用できます。早送りや巻き戻しボタンは押し続けると、スピードが速くなります。再生中でなくても、再生ラインを次の再生開始位置に移動するために、早送りや巻き戻しができます。また、特定の位置を音符で指定して、そこから再生を開始することもできます。再生を開始する位置の音符をクリックして選択し、**P** キーをクリックすると、選択した音符の位置から再生が始まります（その他の再生方法のオプション（たとえば特定の譜表だけの再生など）についてはあとで説明します）。

再生に関するキーボードショートカットは、再生ウィンドウが開いていなくても使用できます。

このツールバーにあるテンポスライダーをドラッグするとテンポが変わります。このスライダーが中央にあるときには、スコアに書かれているメトロノーム記号に正確に従います。再生ウィンドウについての詳細は、あとで説明します。

再生

Sibelius は再生中でもマルチタスクで操作を実行しますので、再生中でも用紙をドラッグ（直接、またはナビゲーターを使って、あるいは **Page up/Page down**）して表示位置を見やすいように変更することができ、また **Ctrl++/-** キー、**⌘++/-** キーのショートカットを使って拡大、縮小もできます。再生中は 50% または 75% に縮小すると、1 ページの全体またはほとんどを見渡せることができるうえ、楽譜として読むことも可能です。

再生を途中で止めるには、もう一度**スペース**キーを押します。曲を停止させたときに、音が鳴り続けるといった現象が起こるような場合があります。このような場合は、**[再生] ▶ [オールノートオフ]**（ショートカットは **Shift-O**）を選択します。

再生の表現力

Sibelius は通常の音符や臨時記号だけではなく、他の記号類も認識して再生しているのがおわかりになるでしょう。たとえばメトロノーム記号（♩=80）に追従し、強弱記号、ヘアピン（クレッシェンド/ディミヌエンド）、そしてアクセントや、その他のアーティキュレーションなども再生します。

Sibelius が認識する高度な再生効果には、たとえばトリル、グリッサンドライン、リタルダンド/アツチェレランド記号、**Andante**、**Fast**、**Poco allargando** などのテンポ記号、さらにピッチカート奏法に切り替えるための「pizz.」というテキストや、トランペットに消音器を取り付け、ミュート奏法を指定するための「mute」などがあります。

このほかにも、音楽テキストや記号の効果を変更したり、Sibelius の再生用「辞書」に独自の新しい用語を追加したりすることも可能です。また上級者になれば、MIDI メッセージ（たとえばコントロールチェンジなど）を、テキストを使って入力することもできます。

再生については、この『ハンドブック』で後ほど、さらに説明があります。

クイックツアー

基本的な編集

■「Sibelius の紹介」、「選択とコピー」

楽譜を作成する前に、「クイックツアー」ファイルを編集することで、基本的なテクニックを学びましょう。

ワンキーショートカット

余談：Sibelius では多くのワンキーショートカット（**Shift** や他のキーを押さなくてもいい単独のショートカット）があります。これまでの例としては、再生のための機能（**スペース**、**P**、**[、]**）などがありましたが、このセクションからはテンキーを使ったワンキーショートカットを紹介していきます。

ワンキーショートカットは、片手ですばやく操作が行え、手の位置を無理やり変える必要がないという利点があります。

オブジェクトの選択

Sibelius でのほとんどすべての操作は、マウスでも行えますので、キーを使う前にマウスを使ってみましょう。スコア内のひとつの音符をクリックすると（楕円の符頭をクリックする必要があります）音符が青色に変わります。もし、色がはっきり表示されない場合には、モニタの色を調整してください。

このようにクリックして選択できるものを「オブジェクト」と呼び、オブジェクトを選ぶことを「選択する」と言います。オブジェクトが選択されると、そのオブジェクトを削除したり、編集（変更）したり、コピーまたは移動することができます。

音符を選択すると、Sibelius が正しいピッチと楽器の音で再生するのにお気づきでしょう。間違いがあればすぐに耳で確認することができるのです。

スコア内のいろいろな種類のオブジェクトを選択してみてください。選択できるオブジェクトには、音符、休符、テキスト、小節線、拍子記号、スラーなどがあります。選択を解除するには、用紙の空白部分をクリックするか **Esc** キーを押します。ただし、選択したオブジェクトに対し、何かの操作が終わったあとでも、そのまま選択を解除する必要はありません。

前述の通り、コンピュータのキーボードを使ってオブジェクトを選択することもできます。何も選択されていない状態で（**Esc** キーを使います）、**Tab** キーを押すとスコアの最初のページにあるオブジェクトを選択し、次に **←/→** 矢印キーを使用して、スコア内のオブジェクトを移動します。**Alt+↑/↓** または **⇧↑/⇧↓** を押すと、和音内の各符頭を移動したり、譜表上を上下に移動したりできます。**Ctrl+←/→** または **⇧⇧←/→** を押すと、小節単位で左右に移動することができます。スコア内の移動にはほかにもたくさんのショートカットが用意されています。『リファレンス』の  「5.9 メニューとショートカット」に、一覧表があります。

オブジェクトの移動

「クイックツアー」スコアの最初に戻り、次のように最初の音符の符頭をクリックしてください。



音符をドラッグすると、このようになります。



ドラッグするにつれて、加線が現れたり消えたり、スラーの位置が変わり、最初のふたつの音符の符尾の向きが変わることがわかります。このように楽譜は常に正しく表記されるようになっています。

ほかの音符も適当に上下にドラッグしてみましょう。複数の加線がある位置まで音符をドラッグすると、音符が赤色に変わります。これは、その楽器（ここではピアノ）の音域を超えていると警告しているのです。Sibelius は、あらゆる楽器の音域を把握していますが、演奏能力に応じて自分で音域を設定することもできます。

ドラッグ操作のかわりに、↑および↓キーを使って音符を上下させることもできます。また、**Ctrl+↑/↓**キー、または **⌘↑/↓** キーを押すと、1 オクターブ単位で移動することができます。これも試してみてください。

譜表の移動

偶然に発見されたかもしれませんが、Sibelius は譜表を上下にドラッグすることもできます。この強力な機能は、見やすいレイアウトを作成するのに大変便利です。

50% に縮小し、譜表（音符のない部分）をクリックし、上下にドラッグしてみてください。ドラッグするにつれ、スコア全体が再フォーマットされます。このちょっとした Sibelius の隠れた能力については、ここでは簡単にご紹介するだけにとどめましょう。フォーマットについては後ほど詳しく説明します。

表示を 100% に戻してください。

削除と切り取り

次のようなさまざまなオブジェクトを選択して、**Delete** キーで削除してみてください。

- スラーを削除してみてください（ページの下半分にあります）
- テキストの一部を削除してみてください（ページの上半分にあります）
- 音符を削除してみてください。音符は休符に変わり、拍数は常に正しく保たれます。

休符を削除して非表示にし、残りのリズムを変えないで、休符を存在させることもできます。最初に休符を削除すると、色がグレーに変わり、休符が非表示であることを示します。休符の選択を解除すると、休符は見えなくなります。通常は、休符を非表示にすべきではありませんが、特別な記譜の場合に役に立つことがあります。ほかのオブジェクトも特別な目的のために非表示にできます。非表示オブジェクトは、**[表示] ▶ [非表示オブジェクト]**（ショートカットは、**Ctrl+Alt+H** または **⌘⌘H**）をオンにすると、グレー表示で見ることができます。

オブジェクトを削除するには、**Backspace** キーの使用または **[編集] ▶ [削除]** の選択でも同様に行えます。

[編集] ▶ [切り取り]（ショートカットは **Ctrl+X** または **⌘X**）は **[削除]** に似ていますが、切り取ったオブジェクトをクリップボード（『リファレンス』の **☐ 「用語集」** をご覧ください）に保存します。つまり、切り取ったオブジェクトを **[編集] ▶ [貼り付け]**（ショートカットは **Ctrl+V**、**⌘V**）で他の場所に貼り付けることができます。この方法はあまり Sibelius では使うことがないので、今ここで試す必要はありません。

クイックツアー

元に戻す / 繰り返す



何かを削除してから、ツールバーにある左矢印（元に戻す）ボタン（左図をご覧ください）をクリックするか、[編集] ▶ [元に戻す] を選択（ショートカットは **Ctrl+Z** または **⌘Z**）すると、最後に行った操作を元に戻すことができ、削除したオブジェクトが再び現れます。操作を間違えた場合、それを直すよりもずっと簡単です。Sibelius は、マルチレベル、つまり複数回にわたって元に戻す作業が行えます。**Ctrl+Z** または **⌘Z** キーを何回か押すと、スコアが元に戻っていくのがわかります。ツールバーの右矢印（繰り返す）ボタンをクリックするか、[編集] ▶ [繰り返す]（ショートカットは **Ctrl+Y** または **⌘Y**）を選択すると、元に戻した操作を再実行することができます。

Sibelius には、最近行った操作をすべて一覧表示する「元に戻す履歴」があり、いくつかの前の操作まで一気に戻ることができます。詳細については、『リファレンス』の  「5.18 元に戻す / 繰り返す」を参照してください。

コピー

オブジェクトをコピーする方法はいくつかあります。

- **Alt** + クリックまたは **⌘** + クリック : 音符（単音）を選択し、そして、画面上にある休符の上で「**Alt** + クリックまたは **⌘** + クリック」します（すなわち、**Alt** または **⌘** を押しながらクリックします）。すると元の音符と同じものが、音高を除いてクリックした場所にコピーされます。音程は譜表上のクリックした上下の位置で決まります。
その他のオブジェクトは、**Alt** + クリック または **⌘** + クリックでもコピーできます（オブジェクトのコピー方法として推奨）。また一度に複数の小節をコピーすることもできますが、これについては後ほど解説します。
- Windows で、ご使用のマウスに 3 つ目のボタン（中央のボタン）、またはクリック可能なスクロールホイールがある場合、**Alt** + クリックする代わりに、3 つ目のボタンでコピーや貼り付けが一度の操作で行えます。[ファイル] ▶ [環境設定] の [マウス] ページで [マウスでのコピーを有効] にチェックを入れます。このオプションをオンにすると、2 つボタンしかないマウスの場合でも、右と左のマウスボタンを同時に押す「複合クリック」で、3 つ目の中央ボタンと同じ操作ができます。
- [編集] ▶ [リピート]（ショートカットは **R**）: ひとつの音符、あるいはほかのオブジェクトを選択し、**R** キーを押します。こうすると、楽譜の中の音符やコード、テキストやパッセージなどを、繰り返し（貼り付け）ていきます。1 つの譜表で小節全体をコピーするには、コピーしたい小節をクリックしてから、**R** キーを押してください。すべての譜表で小節全体をコピーするには、**Ctrl** または **⌘** キーを押さえながらコピーしたい小節をクリックしてから、**R** キーを押してください。
- [編集] ▶ [コピー]（ショートカットは **Ctrl+C** または **⌘C**）: クリップボードにコピーするオブジェクトをコピーする従来の方法です。[編集] ▶ [貼り付け] ショートカットは **Ctrl+V** または **⌘V**）を使って任意の場所に貼り付けることができます。この方法は、これまで紹介したコピーより時間がかかるので特におすすめしませんが、異なるスコアの間でコピーをするときに役立ちます（**Alt** + クリック、**⌘** + クリックでは、同じ楽譜内でしかコピーができません）。
- これらの [編集] メニュー機能は、オブジェクトを選択したときに Windows では右クリック、Mac では **control** + クリックによって表示されるコンテキストメニューでも使用できます。

テンキーを使用した音符の編集

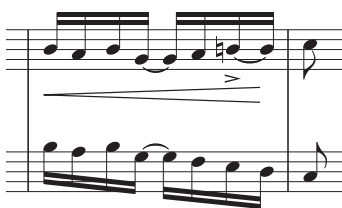
テンキーを使って、選択された音符をすぐに変更できます。たとえば、臨時記号、アーティキュレーション、タイなどを追加または削除したりすることができます。ひとつの音符を選択して、テンキーボタンを選択すると、音符にオブジェクトが追加され、同じキーをもう一度押すと削除されます。

では試してみましょう。

基本的な編集

- **クイックツアー**の3小節目の末尾にある B₄の前の B₄を選択します。
- テンキーウィンドウにある > ボタンをクリックするか、テンキーで対応するキーを押します。こうすると、音符にアクセントが追加されます。
- この音符を、マウスを使って譜表上で E までドラッグするか、↑ キーを使います。アクセントもそれに従って移動し、音符の上に表示されたのがわかりいただけたでしょう。音符を元に戻してください。
- ナチュラル記号をクリックするか、テンキーの 7 キーを押すと、音符にナチュラルが追加されます。Sibelius は、次の音符から不要な臨時記号を削除しますが、B ナチュラルとして演奏されます。もう一度 7 キーを押すと、最初の音符からナチュラルが削除されます。そして次の音のナチュラルはもはや不要ではなくなり、再度表示されます。もう一度、7 キーを押して、最初の音符をナチュラルに戻してください。
- タイのボタンをクリックするか、テンキーの Enter キーを押してください。このようにすると、最初の音符の後ろにタイが付きます。音符の実際の音価については、あとで解説します。

最後にはこのようになります。



これらの操作がいずれも正しく動作しない場合は、テンキーウィンドウのレイアウトが第 1 レイアウトになっていないということです。第 1 レイアウトを選択して（または **F8** キーを押して）、もう一度試してみてください。

テンキーのキーは、メインキーボードの数値キーとは見かけは同じように見えますが、実際に役割が違うということに注意しましょう。たとえば、テンキーの **8** キーを押すとシャープが付きますが、メインキーボードの **8** キーを押してもそうはなりません。今後「テンキー」と言うときには、特に指定がない限りは、メインキーボード右側のテンキーのことだと解釈してください。

○ **ヒント** そのほかのキーボードショートカット同様、マウスを使うよりもテンキーを使ってテンキーウィンドウを選択する方法を学びましょう。最良の方法は、マウスを手に取りにくい場所へ置いておくことです。マウスなしでどのくらい我慢できるか試してみましょう。

まとめ

- ナビゲーター、パノラマ、ツールバー、そしてテンキーウィンドウについて学びました。
- 拡大 / 縮小、再生そして元に戻す方法を学びました。
- クリックで様々なオブジェクトを選択し、それらを移動、コピー、編集または削除することができます。
- 最も素早くオブジェクトをコピーする方法は、**Alt** + クリックまたは **⌘** + クリック、または **R** キーをクリックします（**[編集]** ▶ **[リピート]**）。
- マウスまたは矢印キーを使って音符を移動する方法を学びました。そしてテンキーウィンドウを使って臨時記号やアーティキュレーションを編集する方法を学びました。

できるだけ、キーボードショートカット（特に、テンキーとその他の使用頻度の高いワンキーショートカット）を使用するように少しずつ練習してください。

クイックツアー

印刷

最初のスコアを作る前に、「スコア」フォルダ内の「その他」のフォルダにある「クイックツアー」(Joplin の曲) を印刷してみましょう。すでに編集操作のために、内容が変更されている場合、一度スコアを閉じ(「変更内容を保存しますか」と聞かれたら「いいえ」をクリックします)、このスコアを再度開きなおしてください。

スコアを印刷する



印刷するには、ツールバーに表示されている印刷ボタンをクリックするか、[ファイル] ▶ [印刷] (ショートカットは **Ctrl+P** または **⌘P**) を選択します。すると標準的な [印刷] ダイアログが開きます。ここでは、オプションについては気にせず、Windows の場合には [OK] を、Mac の場合には [印刷] をクリックし、スコアを印刷します。

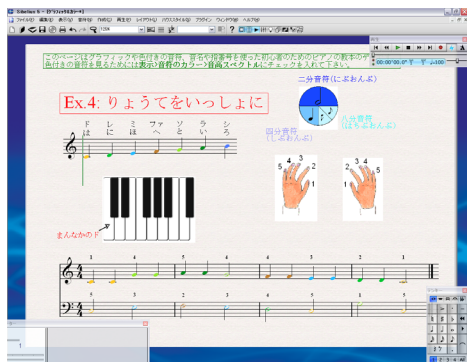
(余談ですが、[印刷] のようなウィンドウが開いている場合には、[OK] や [印刷]、[作成]などをマウスでクリックする代わりに、メインキーボードの **Return** キーを押しても同じ操作が行えます。また **Esc** キーを押すと、[キャンセル] ボタンをクリックするのと同じ操作になります)

しばらくすると、プリンタから高画質の「クイックツアー」のスコアが出力されます。この出力紙はお手元に置いておいてください。以降の音符入力に触れる記述で役立ちます。

高度な印刷

問題が発生した場合には、『リファレンス』の 5.13 印刷を参照してください。

Sibelius は、多くの複雑な印刷操作が可能です。自動的に小冊子のようにスコアを印刷したり、A3 サイズやタブロイドの用紙のスコアを、A4 やレターサイズの用紙に縮小したり、カラープリンタをお持ちならカラーで印刷することもできます。



「教育」フォルダにある「グラフィック & カラー」というスコアを開いて印刷してみてください。カラープリンタをお持ちでなくても、代わりに白黒で印刷されるので大丈夫です。印刷する際、[ファイル] ▶ [印刷] ダイアログで [カラーで印刷] を必ずオンにしてください。

このサンプルスコアでは、Sibelius が持つ 2 つの便利で優れた機能が紹介されています。1 つは、カラーグラフィックインポート機能 (『リファレンス』の 8.4 グラフィックのインポートを参照してください)、そしてもう 1 つは音符やその他のオブジェクトに色を付ける機能です (『リファレンス』の 2.9 カラーを参照してください)。

新しいスコアの作成

■「新規スコアの設定」、「カラーとグラフィックのインポート」

開かれているサンプルスコアを閉じましょう。そして【ファイル】▶【閉じる】（ショートカットは **Ctrl+W** または **⌘W**）を選択するか、編集ウィンドウの上隅にある【閉じる】アイコンをクリックします。変更内容を保存するか尋ねられたら【いいえ】をクリックします。

このスコアをすぐに再度開きたい場合には、【ファイル】▶【最近使ったスコアを開く】のサブメニューに最近作業した 10 のスコアのリストが表示されるので、その中から選択できます。



新しいスコアを開始するには、左側に表示されているツールバーのアイコンをクリックするか、【ファイル】▶【新規】（ショートカットは **Ctrl+N** または **⌘N**）をクリックします。【新規スコア】というダイアログが表示されます。

【ファイル】▶【新規】ダイアログでは、新しいスコアの作成を 5 つの簡単なステップで示します。

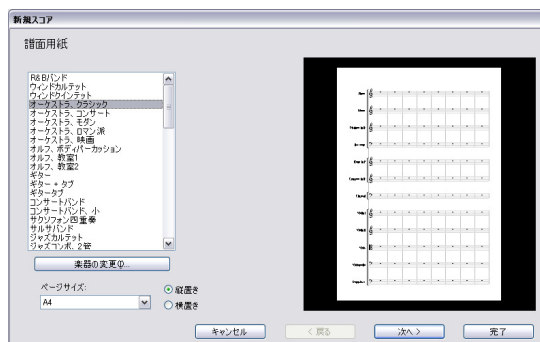
- あらかじめ用意された【譜面用紙】の一覧から楽器を選択するか、楽器編成をご自分で作成し、次に用紙の大きさと向きを選択します。
- スコアの外観を決定します。一般的なスタイルまたは手書き風などのデザインが使用できます。
- スコアの始まりの拍子記号とテンポを設定します。
- スコアの始まりの調号を設定します。
- 最後にスコアのタイトル、作曲者名などを入力し、必要に応じてタイトルページを作成します。

すべてのステップが終わったら【完了】をクリックします。ただ最初の段階ですべてを決定する必要はありません。

新規スコアのダイアログは、とてもシンプルで分かりやすくなっていますが、各設定をひとつずつ紹介しながら、スコアの作成をしていきます。

譜面用紙

ダイアログの最初のページには、楽譜の編成がアルファベット順に表示されます。楽器店で実際の譜面用紙を選ぶように、さまざまな形状やサイズ of 用紙を選択でき、また楽器の標準的なグループがすでに印刷されている用紙を選択できます。



標準的なアンサンブルを書いている場合、自分でスコアを定義するよりも、Sibelius にあらかじめ用意された譜面用紙のひとつを使った方が良いでしょう。なぜなら特殊な楽器名のフォーマットや最適な譜表サイズなどが、あらかじめ標準設定として用意されているからです（独自の譜面用紙の設定方法は後ほど説明します）。

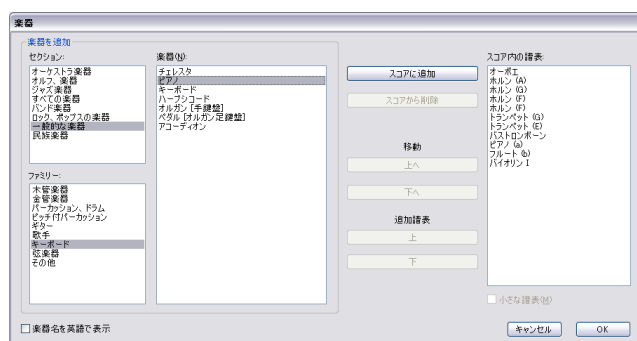
クイックツアー

ピアノスコアを開始するには、**ピアノ** 譜面用紙を使うのが手っ取り早いのですが、ここではひとまずどのように楽器を作成するかを学ぶために **【空白】** を選択してみましょう。これはその名が示すとおり、まったく何もない空白の譜面用紙です。

【次へ】 クリックすると、スコアに楽器を追加するか、と尋ねてきます。**【はい】** をクリックしてください。

使用する楽器の追加

新しい楽器の追加はいつでもできるので、初めに追加する楽器をすべて決める必要はありませんが、最低でも楽器を 1 つ最初を選んでおかないと楽譜を書くことができません。



Sibelius には、600 を超えるたくさんの楽器が登録されており、ダイアログ左上にある **【セクション】** で、全体の楽器の中から用途に合わせた楽器群が表示されます。標準設定では、約 90 の **一般的な楽器** が表示されます。ただしクイントファゴットや、オンドマルトノ、ハーディーガーディーなどの特殊な楽器の楽譜を書く場合には **【すべての楽器】** をクリックすると、登録されているすべての楽器が表示されます。ジャズやオーケストラ編成用などのバンド楽譜を書く場合、それらアンサンブルで使われている標準的な楽器をリストの中から選択します。もし、特に珍しい楽器が見つからなくても心配は無用です。Sibelius では、独自の楽器用の譜表をデザインすることもできます。

楽器は楽譜で採用されている標準的な順序で表示されますが、お好みの順序に変更することもできます。

先に印刷しておいた Scott Joplin (スコット・ジョプリン) の曲を入力するので、ピアノを選択します。**【ファミリー】** のリストから **【キーボード】** を選び、**【楽器】** のリストから **【piano (ピアノ)】** を選びます。**【スコアに追加】** をクリックすると、右側の **【スコア内の譜表】** リストに追加されます。設定ができたら、**【OK】** をクリックします。

(このダイアログは **【作成】 ▶ 【楽器】** を選択するか、ワンキーショートカットの **⌘** キーを押すことで再度開くことができます。楽器を追加するだけでなく、削除または楽器の順番を変更することも可能です)

ハウススタイル

2 ページ目の **【新規スコア】** ダイアログに移ると、作成中のスコアにハウススタイルを適用させることができます。ハウススタイルとは、スコアの「見た目」または外観と考えても良いでしょう。出版社によってこのハウススタイルは異なっており、Sibelius では、使用するフォントや譜表や音符の大きさや終止線の太さの微調整など、おおよそ考え得るスコアの外観を調整できます。

しかし今は、そのような詳細で頭を悩ます必要はありません。画面上であらかじめ用意されたハウススタイルのリストを見てください。ここでは **【Keyboard Opus (Times)】** を選択してください。なぜなら、このハウススタイルには、キーボード用の楽譜に適したいくつかのスタイルが標準で設定されているからです (たとえば強弱記号を上下の譜表の中間に表示させるなどです)。**Opus** はこ

新しいスコアの作成

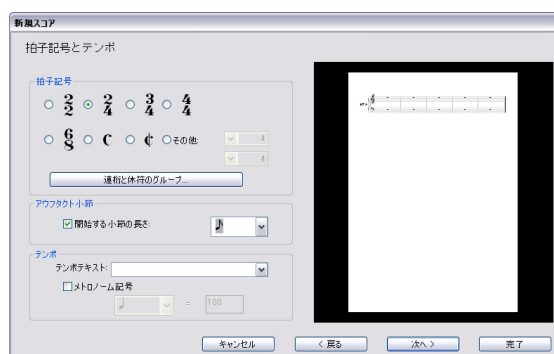
のハウススタイルで使用される音楽フォント（音符とその他の記号のデザイン）を、また **Times** は主に使用されるテキストフォントを表しています。主に使用されるテキストフォントは、このページの下方にあるオプション項目で、お使いのコンピュータにインストールされているどのフォントにも変更することができます。今は標準設定のまま（**[変更なし]** が選ばれている状態）、**[次へ]** をクリックしてください。

あとで、そのほかのハウススタイルもお試しく下さい。たとえば Reprise や Inkpen2 音楽フォントを使用しているスタイルは手書き風で、特にジャズなどに似合います。また、Helsinki 音楽フォントを使用しているスタイルは、クラシックな記譜スタイルです。

ハウススタイルの詳細については、『リファレンス』の  「7.7 ハウススタイル™」を参照してください。

拍子記号

ダイアログの 3 番目のページでは、スコアの拍子記号の選択とテンポの設定を行います。



「2/4」を選択します。**[開始する小節の長さ]** をオンにします。この曲では 8 分音符分のアウフタクト用の小節が必要なので、メニューから 8 分音符を選択します。もちろん、スコアを作成している途中のどの場所でも拍子やその他の設定を変更することが可能です。ここでは、単に開始する小節の拍子記号を設定しただけです。

また**[テンポ]** の項目で**[テンポテキスト]** リストを加えたり、特定の**[メトロノーム記号]** を加えたりすることもできますが、今は**[次へ]** をクリックしましょう。

調号

ダイアログの 4 ページ目では調号を選択することができます。ここでは右にあるリストから **[F メジャー]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

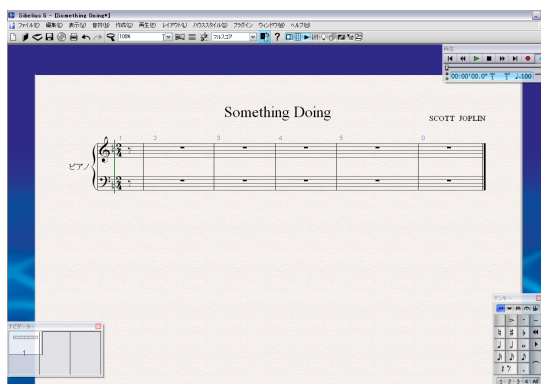
スコアの情報

ダイアログの 5 ページ目、最後のページでは、スコアのタイトルや作曲 / 作詞者の名前や著作権に関する情報などのテキストを入力します。入力したテキストは、自動的に楽譜の最初のページに加えられ、**[タイトルページを作成]** がオンになっていると、タイトルのための専用ページを作成し、そこにタイトルや作曲者などを作成します。

それでは、**[タイトル]** の項目に「Something Doing」、**[作曲者 / ソングライター]** Songwriter の項目に「SCOTT JOPLIN」（作曲者名は慣習として大文字で表記します）と入力し、**[完了]** をクリックします。（最初の方で述べましたが、任意の時点で**[完了]** をクリックすると、スコアの開始時にステップをいくつかスキップすることができます。）

クイックツアー

瞬間にスコアが作成され、音符を入力するための準備が整いました。



小節の追加

Sibelius が作成した 5 小節とアウトタクト用の小節は、音楽的要素としては単なるきっかけで、十分な小節数とは言えません。そこでもっと小節を追加しましょう。小節をスコアに追加するもっとも簡単な方法は、**Ctrl+B** または **⌘B**（**【作成】** ▶ **【小節】** ▶ **【終止小節】** のショートカットキー）を使う方法で、スコアの末尾に小節が追加されます。

Ctrl+B または **⌘B** キーをゆっくりと数回押して、何が起ころが注意深く見ていてください。

そして **Ctrl+B** または **⌘B** キーを何度か押すと、連続して小節が追加されます。（コンピュータのスピードがかなり遅い場合は、キーを離した後も数秒間は小節を追加し続けることがあります。）

3 ～ 4 ページにわたって作成した場合には、ズームツールとナビゲーターを使ってそれぞれのページを見てから倍率を 100% に戻してください。

小節を追加した場合、Sibelius は、連続的なスコアの再フォーマットを行い、最良の譜面の状態にしてくれます。大譜表（同時に演奏される複数の譜表群）の 1 段がいっぱいになると、新たに大譜表の段を作成し、最初のページがいっぱいになると、次のページを作成します。また、Sibelius は小節をスコア全体に均等に配置し、大譜表の各段の先頭に小節番号を付けます。

あとは、すべての空白に音符を埋めていくだけです。

○ **ヒント** あらかじめ計画をたてる必要はありません。新しい楽器や新しい小節はいつでも付け加えることができます。スコアを書き始める時には、ひとつの楽器や 2、3 の小節で始めても良いのです。最初からたくさんの小節を作成する必要はありません。音符を追加するのに合わせて、Sibelius は即座に再フォーマットを行います。音符を追加するのに合わせて、Sibelius は即座に再フォーマットを行います。

まとめ

- スコアの印刷方法について学びました。**【ファイル】** ▶ **【印刷】** を選択するか、ツールバーボタンで行います。
- 新しいスコアの作成方法について学びました。**【ファイル】** ▶ **【新規】** を選択するか、ツールバーボタンで行います。
- 楽器を追加するには、**【作成】** ▶ **【楽器】**（ショートカットは **I** キー）を選択します。
- 余分なページを作成する必要はありません。小節を追加（ショートカットは **Ctrl+B** または **⌘B**）すると Sibelius は自動的にレイアウトを行い、必要に応じてページを追加します。

マウス入力

■「音符の入力」、「記号の追加」、「選択とコピー」

新しいピアノスコアの最初の部分が表示されています。表示されていない場合には、表示倍率を100%にしてから、最初の小節に移動してください。

音符の作成

音符の作成を始める前に、予備知識としてご紹介します。Sibelius での楽譜作成（音符などの入力）には、次の5種類の方法があります。

- マウス入力：マウスだけを使って、音符や記号を入力、またそれらの移動やコピーを行う方法です。
- アルファベット入力とステップタイム入力：コンピュータキーボードだけで、あるいは MIDI キーボードと併用して、音符などを入力する方法です。
- フレキシタイム入力：MIDI キーボードで演奏したとおり、リアルタイムで楽譜として入力する方法です。
- スキャニング：PhotoScore Lite を使用して、印刷された楽譜をスキャナーで読み取り、Sibelius に取り込む方法です。
- 他のプログラムで作成された楽譜（音楽）データを Sibelius で開く：MIDI ファイルや MusicXML ファイル、Finale フォーマットのファイルなどを、Sibelius 用に変換して開く方法です。

ここでは、上記の最初の3つの方法について説明します。あとの2つについては、それぞれ『リファレンス』の 1.4 スキャニング」を参照してください。他のプログラムから音楽ファイルを開きたい場合は、『リファレンス』の 8 ファイル」を参照してください。

ここでは、テンキーで最初の音を選択します。まず **Esc** キーを押して、スコア内で何も選択されていない状態にします。マウスでテンキーウィンドウの16分音符を選択するか、テンキーの **2** キーを押します。どちらの場合でも同じ操作になります。マウスのポインタが青色に変わり、音符を「入力できる状態」になります。マウスポインタをスコア上に移動すると音符がグレーの影になり、クリックした場所に音符が入力されます。スコアの上下に移動すると、それに応じて加線が現れるので、高音と低音を正確に入力することができます。

次に、ピアノの右手パート譜の始まり近くでFの位置（上から4線めと5線めの間）にマウスポインタを置いてクリックします。



間違った場所をクリックしてしまった場合には、**↑** または **↓** キーを使用して、入力後でも音高を調整できます。

ここでは、アウフタクト小節には休符が付加され正しい拍数に調節されることに注目してください。また入力した音符は青色になり（選択中であることを示します）、その右には縦の青色の線（カーソル）が点滅していることにも注目してください。

クイックツアー

カーソル



カーソルはさらに音符を入力できる準備ができていることを意味します。このカーソルは、ワープロソフトなどでよく見るカーソルと同じものと考えてください。

カーソルはこのあとに登場するアルファベット入力で特に役に立ちます。そこで正確に何ができるかを説明します。

緑色の再生ラインが見えるはずですが、このラインを非表示にするには、[表示] ▶ [再生ライン] をオフにしてください。

音符の追加

テンキーウィンドウの16分音符は選択された状態になっているので、マウスをクリックすることで、さらに音符を追加できます。16分音符を再び選択する必要はありません。以下に示す楽譜（あるいはすでに印刷した楽譜）を参考に、右手パートの4つの音符を入力します。8分音符を入力する時には、テンキーウィンドウで対応しているボタンをクリックするか、テンキーで **3** キーを押してからスコアをクリックして入力します。最後にはこのようになります。



次に16分音符を4分音符にタイでつなぎます。まず、通常の方法で16分音符を入力します。入力する前にテンキーウィンドウで16分音符を選択しないと、前回の作業で選択した8分音符が入力されてしまうので、気をつけましょう。次に、右のイラストのようなテンキーウィンドウのタイをクリックして選択するか、テンキーの **Enter** キーを押します。どちらでも同じ操作が実行されます。次に、テンキーウィンドウから8分音符をクリックして選択するか、テンキーの **4** キーを押します。そしてスコアをクリックして入力します。



間違えて入力してしまった場合には、ツールバーにある[元に戻す] ボタンをクリックするか、[編集] ▶ [元に戻す]（ショートカットは **Ctrl+Z** または **⌘Z**）を一度あるいは何度か選択して、間違えたポイントまで操作を元に戻します。



臨時記号

2小節目ではC#を入力します。この作業をマウスで行うには、テンキーウィンドウで#ボタンを選択するか、テンキーの **8** キーを押してから、スコアをクリックして音符を入力します。



マウス入力

音符を入力してから臨時記号を追加することもできます。では試してみましょう。カーソルが表示されている状態になっている場合には、一度 **Esc** キーを押して、入力状態を解除します (**Esc** キーは、一般的に再生を停止したり、ダイアログをキャンセルするのに使われ、この場合は、選択されているオブジェクトを解除する機能があります)。これで、スコア内にある音符やオブジェクトの特性を変更 (編集) できる状態になりました。最初の 2 小節内にある音符のいずれかをクリックして青色にし、テンキーウィンドウの臨時記号ボタンをクリックします。ここでは、フラットボタン (ショートカットはテンキーの **9** キー) をクリックします。すると選択した音符にフラットが付加されます。もう一度フラットボタンをクリックするとフラットが削除されます。同じような方法で、アーティキュレーションの追加や削除、さらには音価を変更することもできます。

では、右手パートの入力を続けましょう。まず、**Esc** キーを押して、臨時記号を付加するなどの編集していた音符の選択を解除します。次に、テンキーの 16 分音符をクリックして選択し、印刷した楽譜あるいは、上の楽譜を参考に入力します。

休符

4 小節目には最初の休符があります。マウスで入力中の休符の入力は簡単です。通常の方法で、テンキーウィンドウから休符の音価を選択して、次に休符を選択します (ショートカットはテンキーの **0** キー)。続いてスコアをクリックします。ただし、Sibelius は小節内を計算して休符を付加します。つまりこの場合、すでに休符があるので、特に休符を入力する必要はありません。

アーティキュレーション

4 小節目では、和音とアーティキュレーションも入力する必要があります。ここで、臨時記号やアーティキュレーションなどの属性を音符に付加する場合には、音符を入力してから付加するよりも、音符を入力する前にこれらを選択しておく方が簡単です。

アーティキュレーションはテンキーウィンドウの第 1 と第 4 レイアウトにあります。4 小節目の和音に必要な「マルカート (ハットとも呼ばれます)」は第 4 レイアウトにあります。テンキーの操作にまだ慣れていない場合は、テンキーウィンドウ (39 ページ) をご覧ください。

テンキーウィンドウの第 4 レイアウトでマルカートのアーティキュレーションを選択し (ショートカットは **F11** キー)、次に第 1 レイアウトで 8 分音符ボタンを選択 (ショートカットは **F8** キー) します (8 分音符が選択されていない場合)。次に、マウスを使って 4 つの音符が重なるように入力します。



臨時記号やアーティキュレーションの付いた音符を作成する場合、テンキーウィンドウで臨時記号やアーティキュレーション、そして音価を選択する順番は、実際にクリックして音符を入力する前にすべてが選択されている限り、気にする必要はありません。

クイックツアー

フレーズのコピー

スコアの最初の 2 小節は、両手の音符がオクターブ違うだけです。ここでは、同じ音符を 2 度入力するのではなく、右手パートの楽譜を左手パートへコピーしましょう。

カーソルが表示されている場合には、**Esc** キーを押して非表示にします。まず右手パートの、最初の音符をクリックし（音符が青色になります）、次に第 3 小節のタイでつながった 2 つめの G を注意深く **Shift** + クリックします（**Shift** キーを押しながら、マウスの左ボタンをクリックします）。すると、選択した範囲内を囲む青色のボックスが表示されます。



ここで、左手パートの先頭で **⌘** + クリック、または **Alt** + クリックします。すると次の図のようになります。



Sibelius は、常に同じ音高になるようにコピーを実行します。ただし、音部記号の違いにより、修正する必要があります。**Ctrl+↓** または **⌘↓** キーを使って音程をオクターブ下げ、適切な高さに修正します。

ここで初めて音楽のパスセージを選択したことになります。パスセージとは、音楽の連続的なまとまりのことで、数ページにまたがることもあります。1 つの譜表または複数の譜表にまたがることもあります。パスセージの選択は、ひとつの楽器パート譜から他の楽器パート譜へと順番にコピーしていく場合に頻繁に行うことになります。

パスセージは、多くの音符を一度に編集、コピーまたは削除することができます。パスセージについてはもう少しあとで詳しく説明します。

ここでは編集集中に初めて **Ctrl** または **⌘** キーを使用しました。Sibelius では、矢印キーを伴う **Ctrl**、または **⌘** キーの操作は、通常「大きな移動」を意味します。たとえば、音程を 1 ステップ分変更するには、通常の **↑/↓** キーを使用しますが、オクターブ分上下させるには、**Ctrl+↑/↓** または **⌘↑/↓** キーを使用します。Sibelius では、多くの操作上（たとえばテキストなどのオブジェクトの移動や、音符間隔の増減など）で、**Ctrl** または **⌘** キーを、大幅な変更単位でのショートカット操作に使うことがあります。

音符作成の完了

マウスを使用して左手パートを含んだ最初の 4 小節を完成させましょう（印刷した楽譜を見ながら行ってください）。操作が完了したら、**Esc** キーを 2 回押します。1 回押すとカーソルが非表示になり、これ以上音符を入力しない状態になります。2 回目では、最後に作成した音符の選択が解除されます（これは用紙の空白部分をクリックしても同じ結果になります）。

この操作を忘れると、クリックするたびに音符が作成され続けます。マウスポインタが青色になっていることで、Sibelius がオブジェクトの入力状態になっていることがわかるはずです。

マウス入力

まとめ

- マウスで音符を作成するには、スコア内をクリックする前に、音価や臨時記号、アーティキュレーションなどの記号を、テンキーウィンドウやテンキーで選択します。ただしタイは、音符を入力したあとに付け加えます。
- 音符を入力する前に、テンキーウィンドウのレイアウトを組み合わせて、あらゆる音価、アーティキュレーション、臨時記号、連桁、トレモロなどを必要なだけ選択できます（音符を入力する時には、それぞれがテンキーのレイアウトを切り換えて選択されたものですので、すべて見えていなくてもかまいません）。
- カーソルが表示されている、音符が影になっている、あるいはマウスポインタに色が付いている状態では、Sibelius は音符の作成準備ができていることを意味します。
- 音符を作成する時、音価とアーティキュレーションボタン（またはその他のテンキーウィンドウボタン）が押された状態になっていれば、そのままそれらの属性が付いた状態で入力を行えます。それらの属性を解除するには、それに対応しているボタンを選択してオフにします。
- パッセージの選択により、連続した楽譜内でのコピーや削除、編集が一度にできます。**Alt** + クリック、**⌘** + クリックによるコピーはすばやく楽譜を作成する方法です。
- 矢印キーを併用した **Ctrl** または **⌘** キーの作業は「大きな移動」を意味します。

クイックツアー

アルファベット入力

■「音符の入力」、「テキスト」、「記号の追加」

ここまでで、Scott Joplin のスコアの 5 小節目から楽譜の入力を開始する準備ができています。入力を開始する前に次のことを行いましょう。

作業内容の保存

定期的に作業内容を保存しましょう。またバックアップを CD-R や USB フラッシュメモリスティック（「ペンドライブ」と呼ばれることもある）のようなリムーバブルメディアに保存するよう心がけましょう。



保存するには、[ファイル] ▶ [保存]（ショートカットは **Ctrl+S** または **⌘S**）を選択するか、あるいはツールバーの保存ボタン（左図）をクリックし、適切な場所「スコア」フォルダやデスクトップなど）を選択し、スコアに **Joplin** などの名前を付けて [OK] をクリックします。Windows では、「スコア」フォルダは「マイドキュメント」フォルダの中にあります。Mac では、「スコア」フォルダはログオンしているユーザーアカウントの「書類」フォルダにあります。

Sibelius は、数分ごとにスコアのコピーを特別なファイルに自動的に保存します。停電やクラッシュが起きた場合、次に Sibelius を起動したときに、失われた作業内容を復元することができます。

さらに、[ファイル] ▶ [保存] でスコアを保存するたびに、Sibelius は、番号付きのバックアップファイルを作成し、それを「スコア」フォルダの「スコアのバックアップ」フォルダに保存します。たとえば、スコアを誤って削除してしまった場合や、スコアに大幅な変更を行ったがそれが気に入らない場合、「スコアのバックアップ」フォルダから最近のバージョンを取り出すことができます。

これらの便利な機能の詳細については、『リファレンス』の 8 「8 ファイル」を参照してください。

アルファベット入力

2 つめの音符作成の方法は、パソコンのキーボードの **A ~ G** の文字キーを使用して直接音高を入力し、テンキーではなくメインキーボードにある **1 ~ 9** の数字キーを使って和音を作成する方法です。この方法は、これまで学んだマウス入力よりもすばやく入力できます。

右手パートの 5 小節目から音符を加えてみましょう。



- これで入力を始める場所が決定されます。右手パートの 5 小節目にある全休符をクリックすると青色になります。ここから先は、マウスを使用しないで操作しましょう。
- **N** キー（これは [音符] ▶ [音符の入力] のショートカットです）を押すとカーソルが表示されます。
- Windows の場合は **F8** キー、Mac の場合はテンキーの **-** キーを押してテンキーウィンドウの第 1 レイアウトを表示し（もし表示されていない場合）、テンキーの **2** キーを押して、16 分音符を選択します。これから入力したい音の長さを設定するため、必ず音価は選択しなければなりません。

アルファベット入力

- **A、F、C、A**、テンキーの **Enter**、**A、F、C、A** キーを順番に押します。**Enter** キーを押すと、タイが追加されます。音符を追加するたびにカーソルが移動して、次の音符が追加される場所が示されることに注目してください。
- テンキーの **3** キーを押して、8 分音符を選択します。これはまだスコアには表示されません。
- **C** キーを押してから、メインキーボードの **3** キーを押します。8 分音符の C が入力され、続いて 3 度上に音符が追加されて、2 つの音符の和音になります。
- **D** キーを押してから、**Shift + 3** キーを押します(ここでもテンキーではなくメインキーボードの **3** キーを使用しますが、このときは **Shift** キーを押しながら行います)。これで D の 8 分音符が入力され、さらに 3 度下に音符が入力されます。(**B 3** の音符を先に入力してから、上記の方法で D を入力することもできます。また、ここでの B の音符はフラット記号を付けなくても調号によって音はフラットになりますが、あえてフラット記号を表示させたい場合は、テンキーからフラット記号を選ぶ必要があります。)
- テンキーの **4** キーを押して 4 分音符を選択します。
- **A** キーを押したあと、**Shift + C** キーを押します。これにより、A の 4 分音符が入力され、その上に C が追加され、2 音の和音が作成されます。(このような和音の作成方法については以下に説明があります。)
- しばらく入力作業は行わないので、**Esc** キーを 2 回押して、音符入力を停止し、最後に入力した音符の選択を解除します。

マウスに触れずに操作するのは、初めのうちは戸惑うことがあるかもしれませんが、一度キー入力に慣れてしまえば操作をすばやく実行できるでしょう。

音符はマウスで実際にスコアをクリックしたときにはじめて入力されるのと同様に、アルファベット入力でも **A ~ G** キーを押したときだけ入力されます。テンキーでいずれかのボタンが選択されていても、実際に **A ~ G** キーを押す、あるいはマウスをクリックするときまでは、入力の準備をしているに過ぎません。よって、アルファベット入力でもマウス入力の場合と同様に、**A ~ G** キーを押す前に、テンキーで、臨時記号、アーティキュレーション、またはほかの記号を選択しておく必要があります(この操作を忘れて入力してしまった場合でも、あとで戻って音符を編集することができます)。

ただし、唯一の例外は、(**Enter** キーでの) タイの入力です。タイの入力は、音符を入力したあとに行います。これは、タイは音符のあとに加えるので、その方が自然だからです。

アルファベット入力による和音の作成

これまでは、アルファベット入力で和音を作成するために 2 つの簡単な方法を使用してきました。通常の入力方法で和音内の音符をひとつ入力してください。

- テンキーではなく、メインキーボードの **1 ~ 9** キーを押して、入力した音符の上に音を追加するか、**Shift + 1 ~ 9** キーを押して、入力した音符の下に音を追加してください。たとえば **1** キーを押すと、ユニゾンで音が追加され、**3** キーを押すと 3 度上に音符が追加されます。**Shift + 6** キーを押すと、6 度下に音符が追加されます。
- **Shift** と **A ~ G** のキーで元になる音高を指定し、選択されている音符の上に音符を追加します。(**Shift** と **1 ~ 9** のように音符の下に加えるためのショートカットは、文字キーにはありません。)

同じ方法で、次々に音符を和音に加えることができます。

パッセージを選択し、**1 ~ 9** または **Shift** と **1 ~ 9** キーを使って選択した音符の上下に音符を追加できるので非常に便利です。5 小節目の空白部分をクリックして青色のボックスで囲み、**8** キーを押してオクターブ上に音符を追加してみましょう。

クイックツアー

操作の詳細

アルファベット入力の基本が理解できたところで、もう少し操作についての詳しい説明をしましょう。これらの各ポイントをスコア内で試すことをおすすめします。

- Sibelius はどの高さ（オクターブ）で入力するかを判断するのでしょうか？ 答えは、その前に入力した音高に最も近い音を入力します。たとえば、連続して **C D E F G A B C D E F G** と入力したとすると、Sibelius は上の音高に向かって音符を追加していきます。しかし、必要に応じて、入力したあとに **Ctrl + ↑/↓** キー、または **⌘↑/↓** キーを使ってオクターブを変更することができます。
- **[編集] ▶ [リピート]**（ショートカットは **R**）を使って、音符や和音、その他のオブジェクトまたはパッセージを繰り返し入力できることを覚えておきましょう。
- すでに入力した音符の音高を変更するには、音符を選択して **A ~ G** キーを使用します。
- アルファベット入力で休符を入力するには、マウスでの場合と同様に、テンキーの **0** キーを押します（休符の長さは、（画面上の）テンキーで選択されている音符の長さになります）。
- アルファベット入力と、マウス入力はいつでも好きなほうを使えます。どちらか 1 つの方法だけで音符を入力する必要はありません。

パソコンのキーボードを見ると、**A ~ G** や **R**、メインキーボードの **1 ~ 9** キーは、左手で簡単に操作できることがわかります。そして、右手ではすべてのテンキー、矢印キー（及び **Delete**、**Page Up** キーなど）が操作できます。熟練したユーザーなら、とてもすばやく、しかも少ない動きで音符を入力することができるのです。

テキストとラインの追加

アルファベット入力では、音符の入力時に強弱記号などのテキスト、そしてスラーやクレッシェンド/デクレッシェンドなどのラインを楽譜に追加できます。しかしここでは、この便利な方法を試す前に、まず基本的な操作として、音符の入力とは別に、さまざまなテキストやラインを加えてみましょう。

メトロノーム記号

Sibelius は再生中メトロノーム記号に従います。**スペースキー**を押すと再生が始まりますが、少しテンポが速いと思われるはずです。マウスで **[再生]** ウィンドウのテンポスライダーをドラッグして適切なテンポを見つけてください。スライダーをドラッグすると、スライダーの左側にある表示値が変化し、希望する正確なテンポを簡単に見つけることができます。スライダーをドラッグして中央に戻し（中央部分にドラッグするとその位置に吸い寄せられます）、**スペースキー**を押して再生を停止します。

それでは、メトロノーム記号をスコアの先頭に追加してみましょう。

- **Ctrl + Home** キーを押して、スコアの頭に戻り、最初の音符をクリックして選択します（これにより、どの場所にメトロノーム記号を入力するか確定されます）。
- **[作成] ▶ [テキスト] ▶ [メトロノーム記号]** を選択します。
- 小さな点滅カーソルが音符の上に現れます。Sibelius はこの種類のテキストは譜表の上側にあるべきだと認識しているため、自動的にその場所へ配置します。
- 右クリック（Windows）、または **Control** + クリック（Mac）で、よく使われるテキストのメニューを表示します。このメニューは「用語メニュー」という名前がついています。
- メニューから 4 分音符を選択します。するとメニューが消えて、スコア内に 4 分音符が表示されます。
- **スペースキー**を押してから **=80** と入力し、メトロノーム記号を完成させます。
- 最後に **Esc** キーを押して、テキスト作成を終了します（操作を終了させるという **Esc** キーのもう一つの機能です）。

アルファベット入力

次のようになります。



この状態でスコアを再生してみてください。設定されたとおりのテンポで再生するために、テンポスライダーが中央に位置していることを確認してください。

ちなみに、このメトロノーム記号などの新しいオブジェクトの作成を行う前に音符を選択し、配置する場所を決定するという概念は重要であり、スコア内のほとんどのオブジェクトに適用されますので、後ほど改めて説明します。

メトロノーム記号は、設定したいテンポをマウスでタップして作成することもできます。[プラグイン] ▶ [その他] ▶ [メトロノーム記号の設定] を選択してください。詳細については、『リファレンス』の 5.11 プラグイン」を参照してください。

テキストに関する用語

音符以外で、スコアを見て演奏する演奏者への多くの指示は、テキスト形式になっています。スコア内における多くのテキスト（たとえば、ページ番号、小節番号、楽器名など）は自動的に表示されるようになっています。曲を表現するためには、強弱記号から歌詞、メトロノーム記号またはテンポテキストなどを追加したくなるはずです。Sibelius は、加えた強弱記号やテンポ記号のほとんどを認識し、再生に反映させます。

Sibelius で作成できる各種のテキストは「テキストスタイル」と呼ばれています。これは、フォントやサイズ、位置またはその他の特性を指定するものです。「テキストスタイル」には、タイトル、歌詞、テンポなどの名前が付いています。テキストのフォントやサイズを変更するには、個々のテキストの断片を変更することもできますが、通常はテキストスタイルを編集するのが一番良い方法です。これにより、スコア内の同種類のテキストの属性も同時に変更されます。詳細については、『リファレンス』の 3.10 テキストスタイルの編集」を参照してください。

どの種類のテキストも同じ方法で作成されます。

- 音符、またはその他のオブジェクトを選択し、テキストを作成したい場所を指定します。
- [作成] ▶ [テキスト] のサブメニューからテキストスタイルを選択します。
- 点滅したカーソルが表示されます。
- これで、スコアに直接テキストを入力できます。あるいは、右クリック (Windows)、または **Control** + クリック (Mac) で「用語メニュー」が一覧で表示されるので選択します。
- テキストの入力が終了したら、**Esc** キーを押します。
- すでにスコア内にあるテキストを編集するには、そのテキストをダブルクリックするか、選択してからメインキーボードにある **Return** キーを押します。

余談になりますが、最初にスコア内のオブジェクトを選択しなくてもテキストを作成することができます。しかし、それではどこに挿入したらいいのかわからないため、マウスで音符を入力するのと同じようにマウスでオブジェクトを配置する必要があります。マウスポインタの色がオブジェクトを「運んでいる状態」（音符の入力と同じ状態）になり、スコア内のテキストを作成したい位置をクリックすると、カーソルが表示されます。

クイックツアー

いくつかのテキストスタイルには、移動の制限があります。たとえば、タイトルはページの上側の中央に位置されます。よって上下には移動できますが、左右には移動できません。またテンポテキスト（**Allegro** などの記号）は、大譜表の上にもみ表示できますが、大きなスコアの場合には、下方にコピーすることもできます。それとは対照的に、発想記号（強弱記号など）は、スコア内でのどこへでも移動は可能です。

作成するすべてのテキストは、楽譜中の特定の（何小節の何拍目といった）時間的位置に付加され、特定の譜表（あるいは大譜表全体）に付属することになります。たとえば、ページの左余白にテキストを加えた場合でも、そのテキストはそのすぐ横にある小節の先頭に付属することになり、その小節の位置が移動したときには、テキストも一緒に移動します（元の位置に無意味に留まることはありません）。

リタルダンドやラレンタンド、アツチェレランドについては、再生時に Sibelius がそれらを検出して正しく表現するために、単なるテキストではなく、特別な種類の「ライン」を使用して入力する必要があります（ラインについてはあとで説明します）。

テキストについてさらに詳しくは、『リファレンス』の  「3 テキスト」をご覧ください。

強弱記号

「強弱記号」という用語は、**mp** やヘアピン（クレッシェンド / ディミヌエンド）などのテキストによる指示として使用します。強弱記号は、発想記号と呼ばれるテキストスタイルで書き込まれます。例として、曲の先頭に強弱記号を作成しましょう。

- スコアの最初の音符を選択します。
- [作成] ▶ [テキスト] ▶ [発想記号] を選択します（ショートカットは **Ctrl+E** または **⌘E**）。
- 最初の音符の下に点滅カーソルが表示されます。
- **Ctrl** または **⌘** を押しながら、「**mp**」と入力します。この **Ctrl** または **⌘** によって文字が太字になります。強弱記号は通常このような太字で使われます。また、右クリック（Windows）または **Control** + クリック（Mac）して用語メニューから強弱記号を選択することもできます。
- **Esc** キーを押して、テキストの作成を終了します。

次のようになります。



次に、3 小節目にヘアピン（クレッシェンド、ディミヌエンド）を追加してみましょう。

- 3 小節目の右手パートの最初の音を選択します。
- **H** キーを押すと、音符の下にクレッシェンド記号が表示されます。**Shift + H** キーを押すと、ディミヌエンドを表示することもできます。
- **スペース** キーを押すと、クレッシェンドの線を伸ばすことができます。もし伸ばし過ぎた場合には、**Shift** と **スペース** キーを押すことで線を短くすることができます。

アルファベット入力

次のようになります。



歌詞

ワードプロセッサでテキストを作成するのと同じような方法で、スコア中に歌詞を作成することができます。

- 歌詞の入力を開始したい位置の音符を選びます。
- **[作成] ▶ [テキスト] ▶ [歌詞] ▶ [歌詞ライン 1]** (ショートカットは **Ctrl+L** または **⌘L**) を選択します。
- 歌詞をコンピュータキーボードからタイプして入力します。
- 音節の切れめを示すには、**ハイフン** をタイプします。ハイフンが入力され、カーソルが次の音符の位置に移動します。1 つの音節が 2 つ以上の音符にまたがるときは、カーソルが次の音節の入力位置に来るまで、ハイフンを繰り返し入力します (1 音符分につき 1 回)。
- 単語の切れめを示すには、**スペースキー** をタイプします。ただし、今入力した単語の最後の音節が 2 つ以上の音符にまたがるときは、カーソルが次の単語の入力位置に来るまで、**スペース** を繰り返し入力します (スペースが 2 回以上入力された場合は)。最後の音節が次の単語の始まりの位置までメリスマ式に続くことを示すアンダーバーが自動的に表示されます。

また、複数の歌詞番号用に歌詞を追加することもできます。たとえば、**[作成] ▶ [テキスト] ▶ [歌詞] ▶ [歌詞ライン 2]** (ショートカットは **Ctrl+Alt+L** または **⌘⇧L**) を選択すると、**[歌詞ライン 1]** を使って入力した歌詞のすぐ下に、歌詞が入力されます。Sibelius には 5 番の歌詞用までのテキストスタイルが用意されています。また、譜表の上側に歌詞を配置するテキストスタイルや、斜体字で入力できる **[歌詞 (コーラス)]** のテキストスタイルもあります。これらのテキストスタイルは、**[作成] ▶ [テキスト] ▶ [歌詞]** から選ぶことができます。

また、コピー & 貼り付け機能を使用したり、歌詞を含んだ個別のテキストファイルから直接歌詞をすばやく追加することもできます。Sibelius は、歌詞のハイフンを適切に判断し、譜表上の音符に自動的に割り当てます。詳細については、『リファレンス』の **3.3 歌詞** を参照してください。また、「How to」の「合唱」、「ボーカルとキーボード」、「リードシート」も参照してください。

コード記号

Sibelius は、スコアにコード記号を簡単に入力できる特別なテキストスタイルを持っています。

- コード記号を入力したい位置の音符をクリックします。
- **[作成] ▶ [テキスト] ▶ [コード記号]** (ショートカットは **Ctrl+K** または **⌘K**) を選びます。
- 簡単なコードの場合は、コンピュータキーボードから直接タイプ入力していただきます (たとえば **C#m7** など)。フラット記号 (**b**) の入力には、小文字の **「b」** を使用します。

複雑なコード記号や特殊な記号 (たとえば「長 7 度」を示す **「Δ」** など) を含む、役に立つわかりやすいコード記号のリスト (ワードメニュー) も用意されています。ワードメニューは、コード記号入力中に、右クリック (Windows) または **Ctrl** + クリック (Mac) で表示させることができます。ワードメニューからコード記号を選び、クリックしてスコアに入力することができます。コード記号

クイックツアー

の多くには、入力用のキーボードショートカット（たとえば % の入力用に **Shift + 5** キーなど）が用意されており、ワードメニューにすべてのショートカットが併記されています。

コード記号の書き込みの詳細については、『リファレンス』の  「3.4 コード記号」を参照してください。

スラーとフレーズマーク

クレッシェンドやディミヌエンドのようなヘアピン記号のほかに、スコアの中で最も一般的に使用されるラインオブジェクトにスラーとフレーズマークがあります。Sibelius では、どちらも「スラー」と呼びます。フレーズマークは実際には大きなスラーとして描画されるためです。それでは、8 小節目にスラーを加えてみましょう。

- まず 8 小節目に音符を入力して、次にこの小節の 2 番めの音符を選択します。
- **S** キーを押すと、スラーが作成され、自動的に次の音符まで延長されます。
- ヘアピンと同様に、**スペース**キーを押して、小節の終わりまで伸ばします。スラーが長すぎたときには **Shift** と **スペース**キーを押すと縮小します。

次のようになります。



スラーのどちらかの端にある音符を選択して、上下に移動させてみてください。スラーは「磁石」のように音符の片方の端にくっついてくることに注目してください（これをマグネティックスラーと呼びます）。

ここで、スラーを選択して **[編集] ▶ [反転]**（ショートカットは **X**）を選択すると、スラーの上下の向きが変わります。このワンキーショートカットも便利なので覚えておきましょう。この **[編集] ▶ [反転]** は、音符や連符でつながれた音符の符尾の方向を逆転させたり、タイのカーブを反転させたり、スラーや 3 連符を音符の反対側に表示させたりすることができます。

ラインに関するいくつかのこと

音楽記号には、直線、曲線、波状または点線による、ヘアピン、スラー、トリル、ペダルマーク、1 番 / 2 番括弧、そしてオクターブ（8va. など）などさまざまなものがあります。Sibelius では、これらのオブジェクトを「ライン」と呼びます。すべてのラインは同じ方法で作成できます。

- スコア内の音符やその他のオブジェクトを選択し、ラインの始まる場所を指定します。
- **[作成] ▶ [ライン]** を選択します（ショートカットは **L**）。
- ダイアログには **[譜表ライン]** と **[大譜表ライン]** の 2 つのパネルが表示されます。「譜表ライン（左側）」にはスラーやトリル、ヘアピンなど、その譜表のみに適用されるラインで、「大譜表ライン（右側）」は、リタルダンド / アッチェレランドラインや、1 番 / 2 番括弧 などスコア内のすべての譜表に適用されるラインになります。
- 必要なラインを選択して **[OK]** をクリックするか Enter または **return** キーを押します。
- ラインがスコア内に表示されるので、**スペース**キーを押すと、一度に 1 音符分ずつ右方向へ伸ばすことができます。**Shift** と **スペース**キーを押すと、左方向へ縮小させることができます。

アルファベット入力

よく使われる一般的なラインにはショートカットが割り当てられています。ヘアピン（**H** キーはクレッシェンド、**Shift** + **H** キーはディミヌエンド）と、スラー（**S** キーは音符に対して通常の向き、**Shift+S** は通常のスラーの向きを反転）がそれにあたります。

ラインを作成する際に、事前に小節やその他のパッセージを選択することもできるので非常に便利です。この場合、Sibelius は選択されたパッセージの長さに合わせたラインを自動的に譜表の上に作成します。

また、マウスを使用してラインを挿入することもできます。何も選択されていないことを確認（**Esc** キーを押す）してから、**【作成】** ▶ **【ライン】** を選択します。挿入するラインを選択すると、マウスポインタの色が変わり、オブジェクトを「挿入可能な状態」であることを示します。スコアをクリックすると選択したラインが作成されます。クリックして右方向にドラッグして、希望する長さになるまでラインを延長してから、マウスボタンを放します。ただし、通常はマウスでのスラーの作成はおすすめできません。マウスでのスラーの作成は、ある特別な状況においてのみ使用される「ノンマグネティック（音符にくっつかない）」スラーなので、特別な状況においてのみ使用されます。

ラインは作成後、いつでも長さを変更できます。変更するには、ラインのどちらかの端を選択して、**スペース**あるいは**Shift** + **スペース**キー、**←/→** 矢印キー（大きく変更するには **Ctrl** または **⌘** キーを押しながら）を押す、あるいはマウスでドラッグします。

ラインは **【ハウススタイル】** ▶ **【ラインの編集】** ダイアログを使用することで、カスタマイズしたり新規に作成したりすることができます。

ラインの詳細については、『リファレンス』の  「2.16 ライン」を参照してください。

オブジェクトの追加

最初の方で述べましたが、テキストやライン、そしてその他のオブジェクトは音符を入力しながら加えることができます。ここではキーボードだけを使用して、9 小節目の先頭に強弱記号を追加してみましょう。

- 9 小節目にある全休符を選択し、**N** キーを押してカーソルを表示します。次にテンキーの **2** キーを押してから **A** キーを押します。
- **Ctrl** + **E** または **⌘** + **E** キーを押すと、譜表の下に点滅カーソルが表示されます。
- **Ctrl** または **⌘** キーを押しながら、**p** キーを押します。**p**（ピアノ）が挿入されます。
- **Esc** キーを押して、テキストの作成を終了します。

• **C**、**F**、**A**、**Enter**（テンキー）、**A**、**F**、**C**、**A** キーを順番に押して、小節の残りに音符を入力します。このような音符の入力中に、任意のオブジェクトを追加できます。次のような操作を試してみてください。

- **K** キー（または **【作成】** ▶ **【調号】** を選択）を押して、調号を変更します。最後に入力した音符のあとに、新しい調号が自動的に挿入されます。
- **T** キー（または **【作成】** ▶ **【拍子記号】** を選択）を押して、拍子記号を変更します。次の小節の先頭に、新しい拍子記号が挿入されます。
- **Q** キー（または **【作成】** ▶ **【音部記号】** を選択）を押して、音部記号を変更します。最後に入力した音符のあとに、新しい音部記号が自動的に挿入されます。また、音部記号が、行の先頭に来る場合は、変更前の音部記号が、その前の行の末尾に表示されます。
- **Ctrl+R** または **⌘R**（または **【作成】** ▶ **【リハーサルマーク】** を選択）を押すと次の小節の先頭にリハーサルマークが挿入されます。次の小節の先頭にリハーサルマークが挿入されます。

クイックツアー

このように、キーボードだけを使用してオブジェクトを作成すると、楽譜の作成にかかる時間を大幅に短縮できます。

また、音部記号、拍子記号、調号などを作成する前には、パッセージを選択する（フレーズのコピー（56 ページ）を参照）ことも忘れないでください。先にパッセージを選択すると、新しいオブジェクトは選択したパッセージの最後まで有効になり、選択したパッセージの最後で、元の音部記号、拍子記号、調号が自動的に再記譜されるので非常に便利です。

スコア内の空白部分で右クリック（Windows）または **Control** + クリック（Mac）すると、**[作成]** メニューが表示されます。マウスを画面の一番上のメニューまで移動させるよりも、すばやくメニューを表示できます（とはいえ、キーボードショートカットが一番速いのですが）。

声部

Sibelius では、4 つの個別の「声部」、つまり 4 パート分の音符または和音をひとつの譜表に書き込むことができます。現在作成中の Scott Joplin（スコット・ジョプリン）のスコアを模写するにあたっては、声部を追加する必要はありませんが、方法は覚えておいた方がいいでしょう。声部は、色分けされており、声部 1 は青色、2 は緑色、3 はオレンジ、4 はピンクになっています。ここでは例として、2 声部のスコアがあります。声部 1 は上向き、声部 2 は下向きの符尾になっています。



声部を追加するには

- 新しい声部の開始点となるスコア内の音符またはその他のオブジェクトを選択します。
- **N** キーを押して、カーソルを表示します。
- 4 つの声部のショートカットは、**Alt + 1/2/3/4** または **⌘ + 1/2/3/4** キーです。ここでは声部 2 を入力するので、**Alt + 2** または **⌘ + 2** キーを押します。
- あるいは、画面上のテンキー内の下にある、声部を選択するボタンでも選ぶことができます。音価やアーティキュレーション、臨時記号などを選択し、キーボードで入力します。声部 2 の音符が緑色になっていることに注目してください。
- さらに声部 2 は、マウスやキーボード、あるいはステップ入力で入力を続行できます。

声部に関する操作は、まだ触れていないこともたくさんありますので、ここでちょっと紹介しておきましょう。

- 特定の和音から音符を選択し、たとえば **Alt + 2** または **⌘ + 2** キーを押すと、別の声部、ここでは声部 2 に分割することができます。これは和音のすべてのパッセージを一度に分割するとき非常に便利です。詳しくは、『リファレンス』の [「5.4 フィルターと検索」](#) をご覧ください。
- 複数の声部からなるパッセージを選択して、**Alt + 1** または **⌘ + 1** キーを押すと、ひとつの声部に併合することができます。
- **[表示] ▶ [音符のカラー] ▶ [声部カラー]** を選択すると、声部ごとに音符を色表示できます。（たとえば、声部 1 は青色、2 は緑色など）によって、ひと目でその音符がどちらの声部にあるのかを判断することができます。

声部の詳細については、『リファレンス』の [「2.30 声部」](#) を参照してください。

3 連符とその他の連音符

連音符とは、音符を一定の割合で分割して演奏することで、最も一般的なのは 3 連符です。

- その作成方法は次のとおりです。スコア内の空白の小節を探します。
- 8 分音符を入力します。
- **Ctrl + 3** または **⌘3** キーを押すと、3 連符の括弧と番号が表示されます。



音符をさらに 2 つ入力して、3 連符を完成させます。括弧が自動的に消える点に注目してください。（この場合にはこれが通常の表記です。）



たとえば 5 を入力すると 5 連符、6 を入力すれば 6 連符になります。ご覧のとおり Sibelius の連音符の作成はとてもインテリジェントで、連音符内の音符が連符で結合されると、自動的に括弧が消え、そして連音符の括弧（それらが表示されている時）は、音高が変化しても「磁石」のようにくっつくようになっています。別の小節に 4 分音符の 3 連符を作成し、どちらかの端の音符を上下に移動してみてください。

Ctrl または **⌘** キーと共に連音符の任意の数字を入力できます。たとえば **5** を入力すると 5 連符、**6** を入力すれば 6 連符になります。また、73:51 のような、もっと複雑な連音符を作成するには、**[作成] ▶ [連音符]** ダイアログを使用します。

詳細については、『リファレンス』の 「2.29 3 連符と他の連音符」を参照してください。

音符の編集

既存の音符のアーティキュレーション、臨時記号、そしてその他の属性は、音符を選択しテンキーで対応するボタンを選択するだけで、編集できることを覚えておいてください。ここで、操作を復習してみましょう。

- Scott Joplin のスコアの右手パートの譜表から音符をひとつ選択してください。
- テンキーウィンドウに第 1 レイアウトが表示されていない場合、テンキーウィンドウのレイアウトタブをクリックします（または **F8** を押します）。
- - ボタンをクリックするか、テンキーで対応するキーを押し、音符にテヌートを追加します。
- ナチュラルボタンをクリックするか、**7** キーを押してナチュラルを追加します。

ナチュラルやテヌートは、キーを再び押すだけで削除または置き換えができます。また複数のアーティキュレーションを同じ音符に追加することもできます。これらは正しい順序で重ねられます。

クイックツアー

音符の音高を変化させてみましょう。音符を選択して、**A** ～ **G** キーを使用して新しい音高を入力します。次に、選択している音符の音価を変更してみましょう。4 分音符ボタンをクリックするか、**4** キーを入力すると、4 分音符になります。音符の長さを変更すると、次の音符を削除するか休符を作成して、小節の長さを正しく保つことに注目してください。

音高の再入力

Sibelius は、すでに入力した音符のリズムを保ったまま音高を変更することができます。同じリズムを使用する複数の楽器のための楽譜を作成するときに非常に便利です。1つの楽器の譜表を他の楽器の譜表にコピーし、リズムは変更または再入力せずに、音高だけを再入力すればいいのです。

次のことを試してみてください。音符を選択し、**[音符] ▶ [音高の再入力]** (ショートカットは **Ctrl+Shift+I** または **⌘⌘I**) を選択すると、点線のカーソルが表示され、あとに続く音符の音価を変更することなく、音符の音高を変更できることが示されます。ここで、音高をアルファベットで入力するか、あるいは MIDI キーボード (MIDI キーボードについてはあとでまた説明します) で音符、あるいは和音を入力すると、各音符や和音の音高が変更されます。カーソルが休符に差し掛かると、自動的にスキップし次の音符が選択されます。テンキーの **0** キーを押して音符をスキップすることもできます。

キーボードの **A** ～ **G** キーを使って音高を入力すると、その音高はアルファベット入力の場合のように直前の音高ではなく、変更する音符のオクターブに近い音高で再入力されます。

音高の再入力を終了するには、**Esc** キーを押して音符を変更する状態に戻るか、あるいは **N** キーを押すと、カーソルが実線に戻り、新しく音符を作成する状態になります。

音高の再入力の詳細については、『リファレンス』の  「1.1 音符の入力」を参照してください。

まとめ

- **R** キーを使うと、音符や和音が繰り返されます。文字キーの上部にあ **1** ～ **9** キーを押すと選択した音符の上に音符を加え和音を作成します (**Shift** + **1** ～ **9** キーでは下に音符を加えます)。 **Shift** + **A** ～ **G** キーを入力すると、選択した音符の上にそれに対応した音高で符頭が加えられます。
- テキスト、ラインなどは **[作成]** メニューで作成します。ただし、スラーやヘアピンは **S**、**H**、**Shift** + **H** キー、そして **スペース** キーを使って作成します。
- 最初にスコア内で、音符やその他のオブジェクトを選択して、新しくオブジェクトを配置する位置を決定します。
- テキスト、ライン、そしてその他のオブジェクトは、音符の入力と同時に加えることができますので、空白の譜面からすばやくスコアを完成させることができます。
- 各譜表には最大 4 つの声部を持つことができます。
- 3 連符やその他の連音符は、**Ctrl** + **3** または **⌘** + **3** キーを入力することで簡単に作成できます。
- 音符を入力、または音高をあとから個々に変更するのに、**A** ～ **G** キーを使うことができます。 **[音符] ▶ [音高の再入力]** を使って音符の音高をあとで変更することができます。

ステップ入力

■「音符の入力」

MIDI キーボードまたは MIDI ギターをお持ちでない場合は、**基本的なフォーマット**（73 ページ）に進んでください。

ステップ入力は、MIDI 入力デバイスを使い、実際の音高、音程を入力していくので、作業は少し速くなります。次のことをやってみましょう。

- 音符作成を開始する小節にある休符を選択し、**N** キーを押します。するとカーソルが表示されます。
- テンキーで音価を選択します（これを忘れないで実行してください）。
- MIDI キーボードで音符を弾きます。アルファベット入力と同様に、音符を作成する前にアーティキュレーションやその他の記号を選択します。これらのテンキーのキーは再選択するまで押された状態のまま保持されます。
- 音価を変更するには、音符を作成する前にテンキーで新しい音価を選択します。
- 休符を入力するには、テンキーの **0** キーを押します。0 キーを押すと、画面上のテンキーで選択されている音価の休符が入力されます。

アルファベット入力との違いは次の点です。

- Sibelius は黒鍵を弾くと、それが黒鍵であることを認識するので、臨時記号を入力する必要はありません。Sibelius は、その黒鍵音符をどのように表記するか、たとえば、F $\sharp$ にするか G $\flat$ にするかなどを、調号と音楽的な状況に基づいて判断します。ただし、音符の作成後でも、メインキーボードの **Return** キーを押すことで、異名同音の表記に変更することができます。
- 同様に、Sibelius は、どのオクターブの音符であるかも正しく認識します。
- 和音を弾くことによって、速やかに和音を入力することができます（1つの音符を入力してから次の音符を入力する必要はありません）。

これらの違いによって、アルファベット入力よりステップ入力が少し速くなるのです。

5小節目からピアノパートの左手パートをステップ入力で入力してみましょう。すべて8分音符です。

- 最初に左手パートの5小節目の小節休符を選択します（青色になります）。
- 次にテンキーで8分音符を選択します。
- そして MIDI キーボードを弾きます。

間違った場合や、何かを変更したい場合は、矢印キーでいつでも戻ることができます。アルファベット入力と同様、音符または和音の音高を修正するには、それら選択してから MIDI キーボードで弾きます。または**元に戻す**を実行します。

最後にはこのようになります。



クイックツアー

左手パートが完了したら、**Esc** キーを押してすべての選択を解除し、画面上の再生ウィンドウで [**再生ラインを先頭に移動**] (ショートカットは **Ctrl+ [**、または **⌘ [**) を押します。**スペース** キーを押して全体を再生してみてください。再生が終了したら**スペース** キーを押して再生を停止する必要があります。そうしないと Sibelius はそのあとにできた休符も再生し続けるからです。

音符の入力のまとめ

ここまで解説してきた入力方法のまとめは、『リファレンス』の  「1.1 音符の入力」を参照してください。

○ **ヒント** マウス入力、アルファベット入力、そしてステップ入力には、スイッチをオン / オフするような3つの切り替え「モード」はなく、いつでも入力方法を変えることができます。入力方法を変更する時に毎回 Sibelius に指示する必要はありません。したがって、1つの音符をマウスで入力し、次はアルファベット入力で、そして3つめは MIDI キーボードで入力することも自由に行えます。

フレキシタイム™ 入力

■「音符の入力」

ここまでマウス入力、アルファベット入力、そしてステップ入力を使って、音符入力の方法を体験しました。これらのすべてを試してみて、どの方法が最も快適に入力できるかを判断、あるいは組み合わせで入力してみましょう。これらの3つの方法で多くの Sibelius ユーザーは膨大な量の楽譜を作成しますが、Sibelius 独自のリアルタイム入力システムである「フレキシタイム」も試してみましょう。

「リアルタイム」入力というのは、コンピュータプログラムに対して演奏し、音高とリズムを書き込むという非常にシンプルな入力方法です。これがリアルタイム入力の理屈です。しかし実際には、どのようなプログラムでも、演奏したリズムを正確に認識するのは非常に難しく、演奏したあとで音楽を分析したり、さまざまな機能を駆使したりする必要があります。一般的にはメトロノームのクリック音に合わせてできるだけ正確に演奏する必要があり、リズムの不正確さを修正するために演奏したあとで「クオンタイズ（不正確な演奏をジャストのタイミングに修正する機能）」する必要があります。

しかし、Sibelius では独自のアプローチを採用しているため、自由に演奏しても良い結果が得られます。

試してみる

単音のメロディを弾いてみるのが一番簡単です。最初に、これまで使用してきた Scott Joplin（スコット・ジョーピン）のスコアを見てみましょう。13 小節目からフレキシタイムを使って音符を弾いてみましょう。

- 譜表の右手パートの13小節目を選択して、この小節が青色のボックスで囲まれるようにします（または、小節休符を選択します）。これで、どの小節から録音されるかが設定されます。



用意ができれば、[音符] ▶ [フレキシタイム入力]（ショートカットは **Ctrl+Shift+F** または **⌘⇧F**）を選択するか、再生 ウィンドウの録音ボタンをクリックします。すると1小節分のカウントが再生されたあと、録音を開始されます。試してみましょう。

- 標準設定では、フレキシタイムは1小節分、録音開始前のカウントを鳴らします（メトロノームのクリック音が聞こえない場合には、再生デバイスが正しく設定されているかどうかを確認してください。詳しくは、『リファレンス』の **1.3 フレキシタイム™** または **4.1 再生** をご覧ください）。
- 1小節分のカウントが終わったら、クリックのスピードに合わせて次の2、3小節分をスムーズに弾いてみましょう。
- 演奏を続けて、Sibelius が音符を画面に表示する様子をご覧ください（通常は、演奏に対して数個の音符分遅れて表示されます）。演奏中は画面を見ないほうが簡単かもしれません。
- クリック音を聞きながら演奏することに慣れたら、少しスピードを遅くしたり速くしたりしてみましょう。クリック音が演奏のスピードに従います。最初はきわめて奇妙に感じるかもしれません。どれくらいが限度かを試す前に、少しずつ弾くスピードを変化させてみてください。
- 録音を停止するには、再生ウィンドウの四角い停止ボタンを押すか、**スペースキー**を押します。

ナビゲーターを使って、Sibelius が書き取った内容を見てみてください。間違いがあったら、これまでに学んできた編集テクニックを使って、音価や音高を修正しましょう。

『リファレンス』の「1.3 フレキシタイム™」には、2つの譜表を同時に入力する方法が説明されています。またルバート（テンポの柔軟性）や、メトロノームクリックのスピードや音色、録音前のカウントの長さ、および3連符やその他の連音符の認識方法などのオプションを変更することもできます。



クイックツアー

不要な小節の削除

フレキシタイム入力では、通常、演奏が確実に記譜されるようにするため、複数の空白小節をスコアに自動的に追加します。したがって、フレキシタイムでの録音終了後、複数の不要な空白小節がスコアの終わりに追加作成されていることに気がつくでしょう。これらは簡単に削除できます。必要でない最初の小節の空白部分をクリックすると、青色のボックスに囲まれます。次に **Shift+** クリックで不要な空白小節の終わりを選択します。この時、音符などをクリックしないように気をつけてください。**[編集] ▶ [小節を削除]** (ショートカットは **Ctrl + Delete** キーまたは **⌘+Delete** キー) を選択します。これらの小節をスコアから削除してよろしいですかというメッセージが表示されます。**[はい]** をクリックしてください。(今後、削除を確認するダイアログを再び表示しないように設定するには、**[次回から表示しない]** をオンにしてから、**[はい]** をクリックします。)

音符入力をしないでキーボードを弾く

音源を持たないキーボード (マスターキーボード) をお持ちの場合にも、スコアに音符を入力しないでキーボードを弾くことができます。

こうするには、譜表の空白の部分をクリックして小節が青色のボックスに囲まれたら、**Esc** キーを押して選択を解除します。これでキーボードを弾いてみてください。音符は入力されずに、その譜表で選択された音色で演奏を聞くことができます。

基本的なフォーマット

■「レイアウトとハウススタイル™」

Sibelius は、音符が入力されていくにつれ小節と譜表を常に配置しなおします。ワープロを使用したことのある方なら見当がつくかと思いますが、音楽の場合は、さらに劇的な結果になります。楽譜をページにレイアウトする処理を「フォーマット」と呼びます。

再フォーマット

作曲、アレンジ、または楽譜の単なる複写のいずれの作業の場合でも、すでに書き終えた楽譜に小節を付け加えるなど、途中で戻って何か変更したくなることがあります。変更が追加されたあとの楽譜を適切に再フォーマットしなくてはなりませんが、これは即座に行われます。

この自動的に行われる再フォーマットの1つの利点は、新しい小節やページの追加などのような操作を実行する必要がなく、入力が進めば、自動的に追従します。もうひとつの利点は、すでに入力した楽譜に対して、用紙の形態などの大幅な変更ができるということです。それによって Sibelius は、瞬時にスコア全体のレイアウトを更新します。



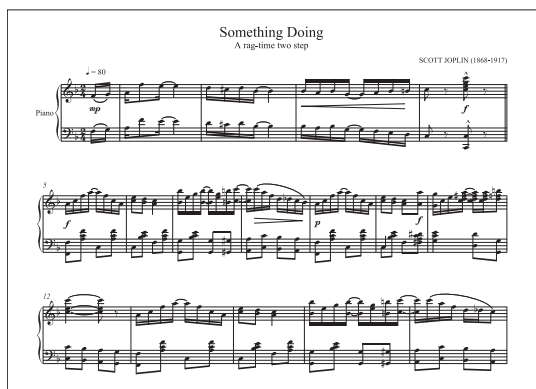
スコア全体に生じるフォーマットの極端な例を見るために、「クイックツアー」スコアを再び開いてください。これはレターサイズ用紙です。このように見えます。



次に、用紙の向きを縦置きから横置きになるようにフォーマットを変更してみましょう。[レイアウト] > [ドキュメントセットアップ] (ショートカットは **Ctrl+D**、または **⌘D**) を選択してダイアログを表示します。

用紙の向きを[縦置き]から[横置き]に変えて、ダイアログの右にあるスコアプレビューがどのように変わるかを確認して、[OK] をクリックしてください。スコアの表示は次のようになります。

クイックツアー



これまで 1 ページに収まっていたスコアが、現在は 2 ページにまたがっています。そして各譜表の 1 段 (行) あたりの小節数が最初の 1 段目 (行目) を除き、元のスコアと異なっていることにお気づきでしょう。これは「改行」(以下で説明します) が行われたということです。

【レイアウト】▶【ドキュメントセットアップ】ダイアログを再び開き、左側にある【用紙サイズ】を変更してみてください。そして右側にあるプレビューでどのような変化が起こるのかを見てみましょう。【譜表サイズ】を大きくしたり小さくしたりして、楽譜がどのように再フォーマットされるか確かめましょう。

(このダイアログの完全な詳細については、『リファレンス』の 7.5 ドキュメントセットアップを参照してください)。

レイアウトの制御

ページや譜表のサイズの変更と同様に、スコアのフォーマットを制御するにはたくさん方法があります。たとえば、改行や音符間隔の変更、そして譜表間隔の変更などがあります。

ルーラー



スコアのレイアウトを変更する前に、ルーラーをオンにしましょう。ルーラーを表示すると、オブジェクトと譜表、譜表とページ間の正確な距離を示してくれるので、スコアのレイアウトの微調整する時に便利な場合があります。

【表示】▶【ルーラー】▶【選択のルーラー】を選択してから、スコア内の強弱記号などを選択します。青色の数字 / 矢印とグレーの点線 (添付ライン - 音符などにリンクさせるためのライン) が表示され、このオブジェクトの譜表からの距離と、どの音符にリンクしているかを表示します。矢印キーでオブジェクトを上下に移動すると、ルーラーが更新されて、新しい距離が表示されます。

計測単位を変更することもできます。「選択のルーラー」以外にもふたつのルーラーがあります。詳細については、『リファレンス』の 5.19 表示メニューを参照してください。

ブレイク

行 (段) やページを特定の場所で終わりにしたいことがあります。たとえば、「クイックツアー」スコアでは、最初の行 (段) は複縦線で終わっていますが、これは「改行」が挿入されているからです。

改行を挿入するには、小節線を選択して【レイアウト】▶【ブレイク】▶【改行】を選択するか、ショートカットの **Return** (メインキーボード) を押します。

基本的なフォーマット

また改ページを加えたり、譜表のパスセージを「ロック」して再フォーマットを停止させたりすることもできます。詳細については、『リファレンス』の  「7.4 ブレーク」と「7.1 レイアウトとフォーマット」を参照してください。パート譜では、改行や改ページを自動的に便利な位置に挿入することもできます（『リファレンス』の  「7.3 自動レイアウト」をご覧ください）。

音符間隔

音符またはパスセージの水平方向の間隔を調整したいときがあります。次のことを試してみてください。任意の小節の空白部分をクリックすると、青色のボックスに囲まれます。次に、**Shift+Alt+←/→** または **⇐/⇒** キーを押すと、その小節内の音符間隔を伸縮することができます（大きく伸縮する場合には **Ctrl** または **⌘** キーを押しながら行います）。小節を標準設定の間隔にリセットするには、その小節を選択してから **[レイアウト] ▶ [音符間隔をリセット]** を選択します（ショートカットは **Ctrl+Shift+N** または **⇧⌘N**）。

Sibelius で使用する音符間隔の設定規則を変更することもできます。『リファレンス』の  「7.8 音符間隔」をご覧ください。

譜表間隔

譜表間および大譜表間の距離は、**[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール]** ダイアログで設定できます。このダイアログでは、スコアのほとんどの要素の外観を変更できます。各ページに簡単に目を通して、ここに用意された数々のオプションの全体像を大まかに把握しておいてください（ほとんどのオプションについては気にする必要はありません）。ただし、**[譜表]** ページには譜表と大譜表の間隔オプションが含まれています。**[記譜ルール]** に変更を加えると、スコア全体が変更されるため、最初に必ずこれらの値を調整してから、スコアに直接調整を個別に行うようにしてください。

ただし、大譜表の譜表間隔を広げると、高音と低音の音符が衝突するのを避けることができるので便利です。次のことを試してみてください。ピアノ譜の左手パートの小節を選択し、譜表の空白の部分をクリックし、上下に移動してみてください（ショートカットの **Alt+↑/↓** または **⇧↑/⇧↓** キーを使うこともできます）。譜表を動かすにつれて、譜面が再フォーマットされるのに注目してください。

譜表間隔の変更はこのようにスコア全体、ひとつの行（段）、あるいは選択した複数行（段）に対して行うことができます。間違えた場合には、**[レイアウト] ▶ [譜表上部スペースのリセット] / [譜表下部スペースのリセット]** オプションを使って、標準設定の間隔にリセットすることができます。

これらの譜表間隔について、およびその他の洗練されたツールの詳細については、『リファレンス』の  「7.9 譜表間隔」を参照してください。

○ **ヒント** 音符を入力している時には、スコアのレイアウトについて深く考えなくてもいいでしょう。譜表や楽器、そして特に歌詞を加えるにつれ間隔は変わっていきますので、スコアが完全に終わるまであまり編集し過ぎない方が良いでしょう。さもないと、せっかくの調整をやり直すことになります。

空白譜表の非表示

大規模なアンサンブルでは、演奏していない楽器の譜表を非表示にするのが一般的です。スペースを節約でき、指揮者がスコアを追いやしくなります。詳細については、『リファレンス』の  「2.23 譜表」を参照してください。

また、空白ではない譜表も同じように非表示にすることが可能です。たとえば、大きな編成のスコアに取り組んでいるときに、その中の2、3の譜表だけを見たい場合や、リードシートやショートスコアを非表示の譜表と共に作り再生する場合です。『リファレンス』の  「5.5 譜表にフォーカス」を参照してください。

クイックツアー

レイアウトの統一

リードシートや教育上の研究用などの一部の楽譜では、行（段）ごとの小節数やページごとの行（段）数を統一したい場合があります。標準設定では、Sibelius は通常、行（段）ごとの小節数やページごとの行（段）数を、それぞれの状況によって変更させています。

スコアのレイアウトを統一する必要がある場合は、Sibelius の自動レイアウト機能または プラグインのうちのひとつを利用することができます。「プラグイン」とは Sibelius のビルトインプログラム言語である ManuScript を使って作られた特別な機能で、コード記号を追加したり、楽譜を校正したりするなどの作業を自動的に実行してくれます。Sibelius には、メロディーへのハーモニーの自動追加やハープ用ペダル操作の自動記譜など、100 以上の便利なプラグインが付属しているほか、ユーザーが自分自身で作成することも可能です。

Sibelius の自動レイアウトを使うには、[レイアウト] ▶ [自動レイアウト] を選択します。レイアウトを統一するためのプラグインを使うには [プラグイン] ▶ [その他] ▶ [レイアウトの統一] を選択します。詳しくは、『リファレンス』の 7.3 自動レイアウト および 5.11 プラグイン をご覧ください。

○ **ヒント** 楽譜を入力する時には、スコアの終わりに空白の小節をいくつか用意しておく和良好的でしょう。この空白の小節は作業を進めていくにつれ、最後の数小節が極端に間延びして見えたりなどないように、Sibelius が自然な楽譜のスペースを設定するバッファ（緩衝器）のような役割を果たします。もちろん、作業が終わったら削除してもかまいません。

まとめ

Sibelius がフォーマットを適切に行いますので任せましょう。ただし、レイアウトを変更する必要があるなら、次の方法をお試しください。

- スコアのページとサイズはいつでも変更することができ、Sibelius は変更を反映させるために即座にスコアを自動的に再フォーマットします。
- 特定の小節をページや行（段）に強制的に配置する必要がある場合は、改ページや改行を使います（ただし、頻繁に行わないでください）。
- 音符間の間隔を伸縮するには **Shift+Alt+←/→** または **⇧⇥⇦⇧⇥** キーを使います。
- 譜表間および大譜表間の間隔を伸縮するには、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [譜表] ページのオプションを使用します。微調整を行う場合に限り個々の譜表を移動し、正確な移動にはルーラーとキーボードショートカットを使います。

アイデア

「アイデア」

ここで、Sibelius の最も強力な創造ツールである「アイデア」ウィンドウについて簡単に説明します。このウィンドウで、「アイデア」と呼ばれる任意の長さの音楽の断片を保存し、後で検索して再使用できます。アイデアごとに「タグ」（またはキーワード）を付けて、後で見つけやすくできます。

自分の創造的アイデアを簡単に利用できるだけでなく、Sibelius には多数の楽器と音楽ジャンルが網羅されており、1500 以上のアイデアが用意されています。そのため、アイデアが浮かばなかったり、創造力を刺激するような斬新な楽想を求めたりするときにぴったりのアイデアがすぐに見つかることでしょう。

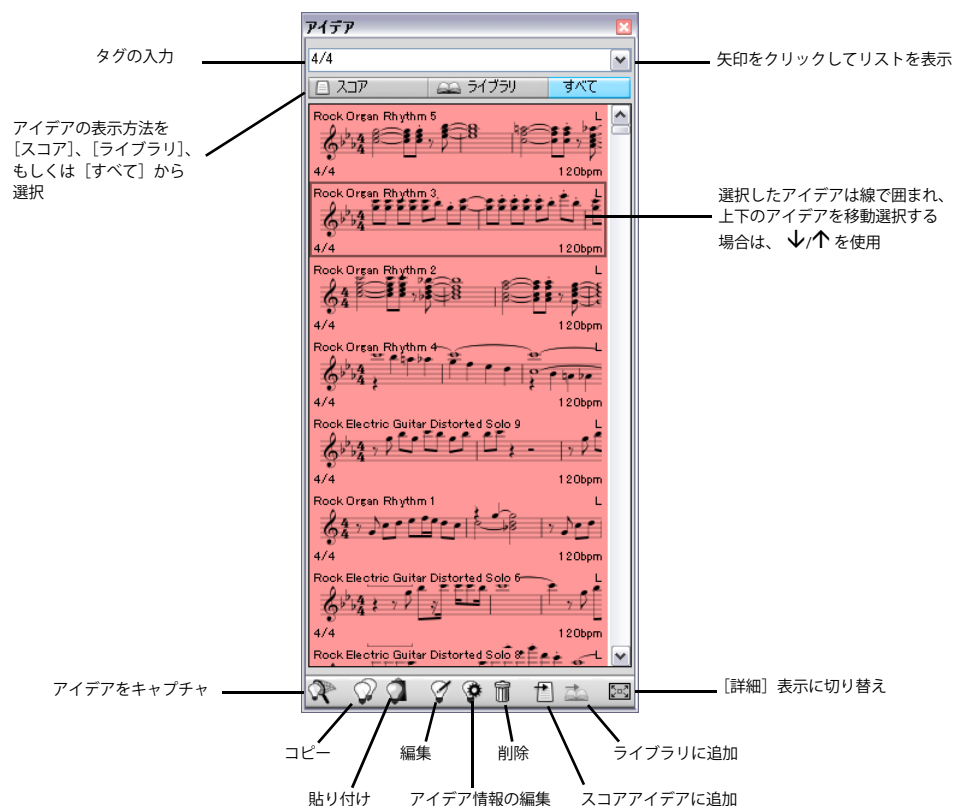
まず、新規スコアを作成します。[ファイル] ▶ [新規] を選択し、それから [サルサバンド] 譜面用紙を選択します。調号を C マイナーに、テンポを ♩ = 200 に設定し、[完了] をクリックして、スコアを作成します（やり方を忘れた場合は、新しいスコアの作成（49 ページ）を参照してください）。

次に、まだ「アイデア」ウィンドウを開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [アイデア]（ショートカットは **Ctrl + Alt + I** または **⌘ + ⌘I**）を選択するか、右に示したツールバーボタンをクリックします。

クイックツアー

「アイデア」ウィンドウ

「アイデア」ウィンドウには「簡易」と「詳細」の 2 つの表示画面があります。標準設定では、簡易表示で開き、次のように画面が表示されます。



クイックツアー

[ライブラリ]、[スコア]、および [すべて] の間で切り替えてみてください。[ライブラリ] ボタンをオンにすると、あらかじめ用意されている 2000 以上ものアイデアにアクセスできます。リストを上下にスクロールしてみてください。

それぞれのアイデアには、楽譜やその他のオブジェクトの小さなプレビューが含まれています。2～3 の小節を持つ 1 つの譜表が普通ですが、それ以上の数の小節や楽器が含まれている場合もあります。重要なタグは表記プレビューの周囲の四隅に表示されます。左上にはアイデアの名前、右上には「L」の文字（アイデアが現在のスコアでなくライブラリにある場合）、左下にはアイデアの拍子記号、右下にはアイデアのテンポがそれぞれ表示されます。

アイデアがどのように聴こえるかを試聴する場合は、アイデアをクリックしたままにします。アイデアはマウスを放すまで繰り返し再生されます。

ウィンドウの上部の矢印をクリックすると、最もよく使われるタグのリストが表示されます。リストから 1 つ選択すると、入力したタグに一致するアイデアだけがそのリストの下に表示されます。矢印を再度クリックすると、最初に選択したタグを使うアイデアで使用頻度が高いタグのリストが表示されます。この方法でタグを選択すると、アイデアのリストから適切なアイデアをすばやく絞り込むことができます。

タグをいくつか入力してみてください。モータウン、ファンク、ハッピー、メロディー、スローなど、いかにさまざまなスタイルとジャンルのアイデアが Sibelius に含まれているかがおわかりになるでしょう。ここで、作成したばかりのスコアに合うアイデアを探してみましょう。「latin piano rhythm」と入力してください。リストの上のほうに [Latin Piano Rhythm 1] があります。

アイデアの貼り付け

このアイデアを使用してみます。まず、[アイデア] ウィンドウの [Latin Piano Rhythm 1] を選択します。それが枠で囲まれ、選択されたことがわかります。それをコピーすると、クリップボードに置かれます。Ctrl + C または ⌘C を押すか、ウィンドウの下部の [コピー] ボタンを押してください。また、右クリック (Windows) または Control + クリック (Mac) して、表示されたコンテキストメニューから [コピー] を選択することもできます。

アイデアをスコアに貼り付ける作業は他の種類の貼り付け作業と同じ方法で行います。アイデアを表示したい場所をスコア内で選択し、[編集] ▶ [貼り付け] (ショートカットは Ctrl + V または ⌘V) を選択するか、何も選択されていないことを確認してから [編集] ▶ [貼り付け] を選択し、アイデアを貼り付けたいスコアをクリックします。また、[アイデア] ウィンドウの一番下にある [貼り付け] ボタンをクリックすることもできます。空のスコアのピアノの右手譜表の 1 小節目を選択し、Ctrl + V または ⌘V を押して貼り付けます。

アイデアを貼り付けるときに、自動的に次の操作が行われます。貼り付け先のスコアで使用する調に一致するようにアイデアが移調されます。また、貼り付け先の楽器の音域に収まるようにオクターブ移調されます。

スコアの構築

いくつかのほかのアイデアをスコアの冒頭に貼り付けてみましょう。

- 「latin alto saxophone」と入力して、[Latin Alto Saxophone 2] を検索し、それをスコアの Flute/Sax 譜表の冒頭に貼り付けます。
- 「latin electric bass」と入力して、[Latin Electric Bass 1] を検索し、それをスコアの Bass Guitar 譜表の冒頭に貼り付けます。貼り付け後、[編集] ▶ [リピート] (ショートカットは R) を選択して、この 4 小節フレーズを繰り返し、8 小節のベースにします。
- 「latin conga」と入力して、[Latin Percussion Conga Tumbao 2] を検索し、それをスコアの Congas 譜表の冒頭に貼り付けます。

アイデア

ここでスコアを再生します。またたく間にすてきなラテン音楽が作成されました。

アイデアのキャプチャ

では、別のアイデアを試してみましょう。[アイデア] ウィンドウ内にアイデアを置く操作をアイデアの「キャプチャ」と呼びます。アイデアをキャプチャするには、スコアの楽譜のパスセージを選択し、青い枠線で囲みます（やり方を忘れた場合は、**フレーズのコピー**（56 ページ）を参照してください）。それから、[編集] ▶ [アイデアのキャプチャ]（ショートカットは **Shift+I**）を選択すると、選択したパスセージは直ちに [アイデア] ウィンドウのリストの最上部に表示されます。後でそのアイデアを再利用できます。

アイデアの編集

アイデアの楽譜とタグの両方を編集できます。

アイデアのタグを編集する場合は、[アイデア] ウィンドウからこのキャプチャしたばかりのアイデアを選択し、ウィンドウの最下部の [アイデア情報の編集] ボタンをクリックします。または、リストのアイデアを右クリック（Windows）または **Control+クリック**（Mac）し、表示されたコンテキストメニューの [アイデア情報の編集] を選択することもできます。単純なダイアログが表示されます。ここで、このアイデアに新しい [名前] を付け、[タグ] ボックスにタグをいくつか入力できます。タグの内容や字数に制限はありません。後で再びアイデアを見つけやすいような単語を考えてください。[カラー] をクリックしてカラーピッカーを表示し、アイデアの新しい背景色を選択します。ここでも、後でアイデアを見つけやすいようにカテゴリの色を考えてください。選択が済んだら、[OK] をクリックし、[アイデア情報の編集] ダイアログを閉じます。

アイデアの楽譜を編集する場合は、アイデアを [アイデア] ウィンドウから選択し、ウィンドウの最下部の [アイデアの編集] ボタンをクリックします（または、コンテキストメニューの [アイデアの編集] を選択します）。新しいドキュメントウィンドウが別のスコアを開いたかのように表示されます。アイデアを普通のスコアのように編集できます。音符 / 小節の追加 / 削除、テキスト / ライン / その他のマークの追加などの操作を行うことができます。

アイデアの編集を終えたら、[ファイル] ▶ [保存]（ショートカットは **Ctrl+S** または **⌘S**）を選択して保存してから、[ファイル] ▶ [閉じる]（ショートカットは **Ctrl+W** または **⌘W**）を選択してウィンドウを閉じ、元のスコアに戻ります。

アイデアで保存されていない変更を破棄する場合は、[ファイル] ▶ [閉じる] を選択してから、変更の保存を確認するダイアログが表示されたら [いいえ] をクリックします。

再生についての詳しい情報

以上の作業はアイデアが持つ可能性のほんの一部に過ぎません。この基本を忘れないようにしてください（『リファレンス』の  「5.8 アイデア」を参照）。

クイックツアー

ちょっとしたアレンジ

■「アレンジ™」、「選択とコピー」

ここまで、短いピアノのスコアを扱ってきました。このスコアを使って、オーケストラスコアを作成する、少し高度なテクニックをご紹介します。

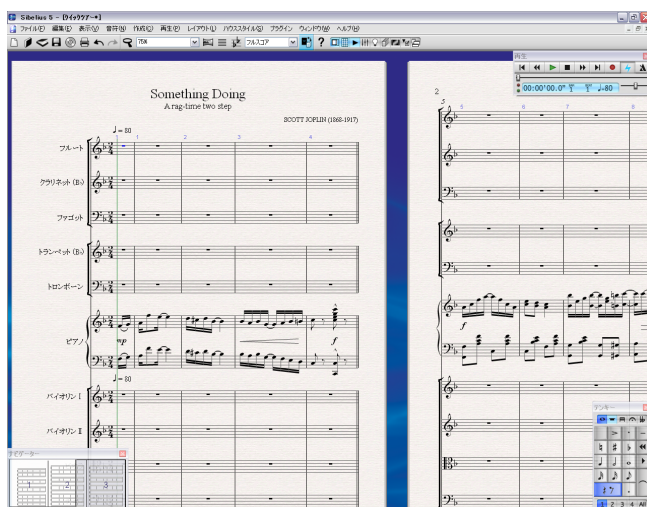
楽器の追加

スコアをピアノからフルオーケストラに発展させてみましょう。時間もかからず簡単です。

- 「その他」フォルダから「クイックツアー」サンプルスコアを開きます。
- [作成] ▶ [楽器] を選択します（ショートカットは **I**）。
- ダイアログが開くので、まず【オーケストラ楽器】をクリックし、木管楽器、金管楽器、弦楽器を選択して、オーケストラを編成します（楽器の追加方法をわすれてしまった場合には、[使用する楽器の追加](#)（50 ページ）をご覧ください）。

追加する楽器数に制限はありませんので、好きなだけ複数の楽器を加えることができますが、この用紙に収まるようにするために、今は 10 くらいで抑えておきましょう。どのような順番で楽器を選択しても、Sibelius は標準的なオーケストラの順序に再編成してくれます。

- [OK] をクリックしてください。これですべてのスコアがすぐに表示されます。
- 縮小して全ページを表示すると、このようになるはずです。



Sibelius がどのように楽器をスコアに配置したか注目してください。

- 楽器が正しい順序で配置され、括弧や小節線を付けてセクションに集めます。
- スコアの最初のページには、楽器の正式名称が書かれています。
- 各楽器には正しい音部記号が書かれています。
- 各ページの小節数が適度に収まるようにフォーマットされ、さらにすべての小節線が収まるようにページが加えられます。

ナビゲーターの小さなボックスを右にドラッグすると、ボックスは次のページに移動し、スコアの最後まで連続的に移動できます。

移調楽器

(移調楽器として対処が必要なのは、クラリネット、サクソフォンや金管楽器などの譜面を書く場合のみです。もしこれらの楽器を使用しないのなら、スキップして次に進んでください)



標準設定では、実音で表示されます。移調音程に切り替えるには、[音符] ▶ [スコアを移調する] (ショートカットは **Ctrl+Shift+T** または **⇧F#T**) を選択するか、ツールバーの移調ボタンをクリックします。試してみましょう。スコアに移調楽器が含まれている場合、それらすべての楽譜と調号が即座に移調されます。

Sibelius は、移調楽器によって生じるすべての複雑な問題を自動的に処理してくれます。移調楽器のスコアを再生すると、Sibelius は移調楽器を正しく読み取って、正しい音高に置き換えて再生します。移調楽器の間でコピーした場合は、同じ音程になるように移調します。実音楽器のスコアからパート譜表示に切り換える場合でも Sibelius は自動的に移調楽器を移調します。

選択とパッセージ

クイックツアーを通して、オブジェクトやパッセージの選択についての概念を紹介してきました。ここで、これまでに学んだことをおさらいしておきましょう。

- マウスでオブジェクトを選択するか、**←/→** および **Tab** キーを使ってオブジェクト間を移動します (何も選択されていない場合、**Tab** キーはそのページの最初のオブジェクトを選択するので、マウスを使う必要はありません)。
- 小節を青色のボックスで囲まれるように選択するには、譜表の空白の部分をクリックします。

部分的な小節の選択

他にも選択方法があるので、試してみてください。

- 小節のパッセージを選択するには、まず 1 小節選択してから、同じ譜表または他の譜表の小節を **Shift** + クリックで選択し、大きな「ボックス」を作成します。また音符または小節を選択して **Ctrl+Shift+→** または **⇧F#→** キーを押して、一度に 1 小節ずつに右方向へパッセージを伸ばす (ワープロと同じ選択方法です) か、**Shift** + **↑/↓** キーを押すと、一度に 1 譜表ずつ上下に伸ばすことができます。
- 小節単位ではないパッセージを選択するには、任意のひとつの音符を選択してから、他の音符を **Shift** + クリックします。すると、そのクリックした音符の両端が「ボックス」で選択されます。このようなパッセージには複数行 (段) の譜表を含めることができます。
- ひとつの音符を選択し、左方向または右方向に選択範囲を伸ばすには、**Shift+←/→** キーを押していきます。ワープロで文字を次々に選択していくのに似ています。
- この方法で、3 音符か 4 音符の音符グループを選択し、別の場所にコピーしてみてください。アレンジやオーケストラ、そして反復するセクションを作成するのに便利です。また、**R** キーで繰り返しコピーもできます。

パッセージを選択する他の方法およびその他の選択方法がいくつかあります。『リファレンス』の 「1.6 選択とパッセージ」および「5.4 フィルターと検索」をご覧ください。

譜表を選択したり、コピーをしたりして、このスコアで少しの間練習してみましょう。**スペースキー**を押すと、編集した結果をいつでも聴くことができます。

○ ヒント再入力するかわりにコピーしましょう。すでに入力した音楽をコピーの方が新たに入力するよりも作業が速いです。**Alt** + クリック、または **⌘** + クリックでスコア内のオブジェクトやパッセージをコピーすることができます。

クイックツアー

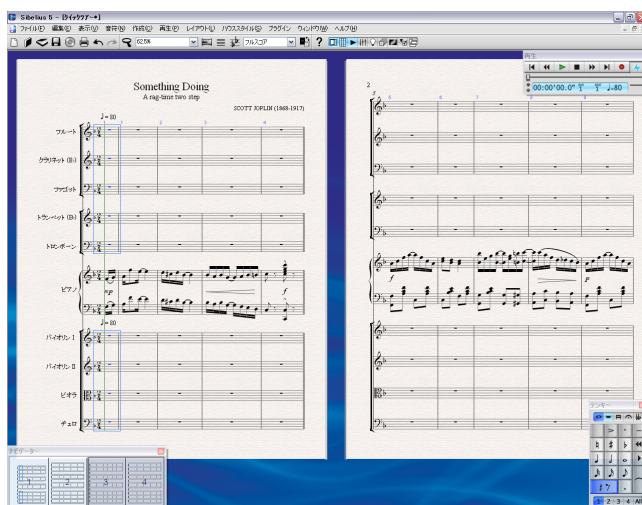
アレンジ

今度は、これまでのピアノ譜を Sibelius 独自のアレンジ機能を使用して、オーケストラアレンジしてみましょう。アレンジ機能は、編曲やオーケストレーションの手助けするために設計されており、多くの時間を節約することができます。どのような種類の音楽でもすぐに書けるほどの機能を持っていることがわかるでしょう。

- ピアノ譜表のひとつをトリプルクリック（3 回クリック）して、スコア全体を選択します。次にもうひとつの譜表を **Shift** + クリックして両方のピアノ譜が青色のボックスで囲まれるようにします。



- **[編集] ▶ [コピー]**（ショートカットは **Ctrl+C** または **⌘C**）を選択して、クリップボードにコピーしてから、**Esc** キーを押して選択を解除します。
- 次に任意の楽器の最初の小節を **Ctrl** + クリックまたは **⌘** + クリックします。スコア内のすべての譜表が二重の紫色のボックスで囲まれます。**Ctrl** + クリックまたは **⌘** + クリックで、ピアノ譜の選択を解除し、ピアノ譜の上下にあるすべての楽器が青色のボックスで囲まれるようにします。



- **[音符] ▶ [アレンジ]**（ショートカットは **Ctrl+Shift+V** または **⌘⇧V**）を選択します。
- ダイアログが開くので、**[標準アレンジ]** を選択して **[OK]** をクリックします。
- Sibelius はこのピアノ譜を、選択された譜表にアレンジし、それぞれの楽器に適切に振り分け、必要に応じてオクターブ単位で移調します。
- **スペースキー**を押して、アレンジを聞いてみましょう。

アレンジは、任意の譜表の音楽を、他の任意の譜表に理知的にコピーします。ピアノのパートを要約（ピアノリダクション）したり、コードを複数の譜表に拡散（エクスプロード）したりすることができます。最も重要なのは、この洗練された機能の特徴は、さまざまなスタイルやアンサンブルのために、アレンジや楽器編成を行うときに非常に役立つということです。

詳細については、『リファレンス』の **5.1 アレンジ™** を参照してください。

パート譜

■「ダイナミックパート™」

複数の楽器編成の楽譜では、通常、全体スコアと個々の楽器のパート譜（時には複数楽器用のパート譜もあります）の両方を作成します。パート譜の体裁は全体スコアとかなり異なります。パート譜には特定の楽器についての音符や記号だけが記載されますし、移調楽器のパート譜は他のパート譜と異なる調号を持つ場合もあります。また、楽譜のレイアウトもそれぞれ異なり、サイズの異なる用紙が使われることもあります。

Sibelius は、これらすべてのことを考慮し、自動的にパート譜のフォーマットや移調、レイアウトを行います。

ダイナミックパートとは

他の多くの楽譜作成ソフトでは、パート譜を、全体スコアから別ファイルとして抽出し、書き出すことが必要になります。したがって、たとえば最初のリハーサルのあとで全体スコアに修正を加えることが必要になった場合、同じ修正をパート譜にも手動で加えるか、もう一度スコアから新たに書き出すしなければなりません。これには多くの時間がかかります。

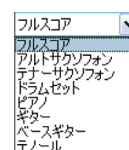
Sibelius は画期的なアプローチを導入しました。スコアで修正した内容が自動的にパート譜に反映され、また逆に、パート譜で修正した内容も自動的にスコアに反映されるようにしたのです。これが「ダイナミックパート™」です。

ダイナミックパートの編集は、スコアを編集するのとまったく同じ方法で行うことができます。音符を移動、追加、削除したり、スラーや発想記号を追加したりするなど、通常どおりに行えます。さらには、スコア（またはパート譜）で編集した内容に応じて、同時にパート譜（またはスコア）もアップデートされます。

ダイナミックパートは、別ファイルに抽出して書き出す必要はありません。すべてのパートが、全体スコアと同じファイルの中で管理されます。したがって、スコア中のパート譜の構成管理も簡単になります。

ダイナミックパート画面

全体スコアと各パート譜の画面表示を簡単に切り換えることができます。ツールバーの「ダイナミックパートの一覧」(右図) から表示したいパート譜を選びます。Sibelius では常に、全体スコアのウィンドウと現在選ばれているパート譜のウィンドウを同時に保持します。ツールバー  の「フルスコアとパート譜の切り替え」ボタン、またはショートカットの **W** キーで、全体スコアと現在選ばれているパート譜の画面表示を切り換えることができます。



Sibelius は、全体スコアとパート譜で、異なる用紙の色を使用しています。これは、スコアかパート譜かを認識されやすくするためです。これらの用紙の種類は、お好みにより変更することもできます。『リファレンス』の  「5.3 表示設定」を参照してください。

パート譜の編集

ダイナミックパートの編集は、スコアを編集するのとまったく同じ方法で行うことができます。音符を移動、追加、削除したり、スラー、発想記号やテキストを追加したりするなど、通常どおりに行えます。全体スコアの中で編集したり何かを移動したりすると、パート譜でも同じ変更が自動的に反映されます。ただし、パート譜で音符やコード以外のものを移動した場合は、スコアには反映されません。またその部分がオレンジに変わり、パート譜とスコアで異なることを示します。これは、スコアのレイアウトには影響を与えずに、パート譜の中で記号の位置を微調整できるようにするためです。

クイックツアー

一般的な作業の流れでは、最初にパート譜ではなくスコアを作成し、そのあとの最終調整の過程で、パート譜中のいろいろなオブジェクトの位置やデザインを微調整します。

留意すべき点は、パート譜で、譜表の移動や改行 / 改ページ位置の調整、音符間隔の調整など自由に行えますが、これらは、スコアではオブジェクトを移動したとは見なされないということです。スコアとパート譜がまったく異なるレイアウトになることには何ら問題がないからです。

詳細については、『リファレンス』の  「6.2 パート譜の編集」を参照してください。

キュー

キュー音符は、演奏中の位置を奏者に知らせるために書かれた小さい音符で、実際には演奏はされません。また、キューのパスセージは代用の楽器を示すためにも使用されます。たとえば、ハーモニカのソロをキューサイズでクラリネットのパート譜に含め、「ハーモニカのない場合は演奏」と指示することができます。

Sibelius では、[編集] ▶ [キューとして貼り付け] を使って、パート譜にキューを簡単に追加できます。詳細については、『リファレンス』の  「2.10 キュー」を参照してください。

パートウィンドウ

パートウィンドウ（メニューバーからは [ウィンドウ] ▶ [パート]、ショートカットは **Ctrl+Alt+R** または **⌘+R** キーで表示されます）では、個別パート譜に対して、あるいはパート譜を一括して指定された複数パート譜に対して、さまざまな変更を行うことができます。たとえば、複数パート譜の印刷や、パート譜の自動レイアウトの調整、新しいパート譜の作成、パート譜中の譜表の削除や追加などが、すべてパートウィンドウで行えます。通常の作業では、パートウィンドウの存在をあまり意識する必要はなく、パートウィンドウを表示しないままでも問題ありません。しかし、パート譜の自動レイアウトを調整したい場合や、2 台以上の楽器用または合唱音楽用のパート譜がある場合は、大変有用になります。詳細については、『リファレンス』を参照してください。

パート譜のレイアウト

Sibelius では、自動レイアウト機能を使って、パート譜を自動的にレイアウトすることができます。演奏者に便利な位置での改ページや、テンポ変更 / 音楽的区切り場所での改行、基本的なオブジェクトの適切な配置などを、手を煩わすことなく、適切に処理します。自動レイアウト機能は、[レイアウト] ▶ [自動レイアウト] から実行することができます。また、自動レイアウトを適用させるレイアウト項目と適用させないレイアウト項目を任意に選択することもできます。自動レイアウトを使用せず、すべて行いたい場合は、すべてのレイアウト項目をオフにしてください。

詳細については、『リファレンス』の  「7.3 自動レイアウト」を参照してください。

パート譜の印刷

通常の印刷方法（[ファイル] ▶ [印刷]）で個々のパート譜を印刷することができますが、すべてのパート譜を一度の操作で印刷することもできます。その場合は、[ファイル] ▶ [すべてのパートを印刷] を選びます。Sibelius が各パート譜のデータを順繰りにプリンターに送り込みます。また、パートウィンドウでパート譜ごとに印刷部数を指定することもできます。たとえばティンパニのパート譜は 1 部、第 1 バイオリンのパート譜は 12 部というようにです。

パート譜について

詳細については、『リファレンス』の  「6.1 パート譜での作業」を参照してください。133 ページの「使用方法」の「パート譜」も参照してください。

インターネット出版

■「インターネット出版」

Sibelius は、インターネットでの楽譜出版もお手伝いします。他の人々が、インターネット上で楽譜を閲覧、再生、移調、楽器変更、印刷できるようにします。インターネット出版には次の 3 つの方法があります。

- SibeliusMusic.com のウェブサイトにも楽譜を出版することができます。SibeliusMusic.com は、おそらく世界最大の楽譜サイトで、世界中の Sibelius ユーザーが作成した幾万もの楽譜が掲載されています。ご自身の楽譜を、無料あるいは有料で、提供してください。
- SibeliusEducation.com のウェブサイトにも、生徒や仲間がダウンロードできるように、ワークシートや教材を掲載することができます。SibeliusEducation.com からはまた、世界中の教師の方々から寄せられた、加えて Sibelius から提供する教材や素材、情報を入手することができます。
- ご自身のウェブサイトにも楽譜を掲載することができます。

上記のどの場合でも、インターネット上の楽譜は Scorch を使って閲覧されます。

Scorch について

Scorch は、無料のウェブブラウザプラグインで、インターネット上で Sibelius スコアを再生、カスタマイズ、印刷することができるプログラムです。ウェブサイトに掲載された Sibelius スコアに最初にアクセスしたとき、Scorch をダウンロードするオプションが表示されます。一度ダウンロードすれば、次回からはどのウェブサイトの Sibelius スコアでも直接開くことができます。改めて Scorch をダウンロードする必要はありません。

SibeliusMusic.com への楽譜出版

スコアが完成したら、忘れずに保存してください。そのあと [ファイル] ▶ [SibeliusMusic.com に出版] を選択します。自動的にウェブページが表示されますので、その楽譜についての情報を入力します。ユーザーネームとパスワードを尋ねられる場合もあります。すべての情報を入力したら [Next] をクリックしてください。その楽譜が SibeliusMusic.com のウェブサイトにアップロードされ、24 時間以内に SibeliusMusic.com に掲載されます。

SibeliusMusic.com に楽譜をアップロードするためには、あらかじめ SibeliusMusic.com にユーザーアカウントを作成しておく必要があります。まだ作成していない場合は、SibeliusMusic.com サイトページ右上の [My details] ボタン () をクリックし、ユーザーアカウントを作成してください。

SibeliusMusic.com ではまた、ご自身の楽譜の販売、演奏録音データファイルのアップロードや再生、ご自身専用ページの作成、掲載されているスコアへの批評投稿、ベストセラーリストの閲覧、ご自身のオンラインストアの作成が行えます。

SibeliusEducation.com

学校 / 専門学校 / 大学いずれでも、クラス編成 / 運営上での活用や教材 / 課題の有効活用のために、コンピュータやインターネットを利用した仮想教育環境の導入が進んでいます。インターネットを通じてクラスの教材や課題にアクセスできることは、教師 / 生徒双方にとって大変便利なことです。教師にとっては、教材の準備が容易になり、ワークシートの印刷やコピーも不要になるでしょう。生徒が課された課題をなくしたりすることはありません。教師も生徒も、どこからでも教材や課題にアクセスできるのです。また、楽譜は Scorch で表示され、生徒が楽譜を再生して音を確認することもできますので、紙のワークシートより効果的です。

クイックツアー

SibeliusEducation.com には、ご自身の学校の専用エリアを持つことができ、ワークシートや教材をアップロードしたり、生徒に課題を与えたりすることができます。生徒はその課題を、学校からでも自宅からでも、閲覧、再生、印刷、またダウンロードすることができます。また、印刷紙上やコンピュータ上で、課題を仕上げるすることができます。また、生徒が仕上げた課題をウェブサイトにアップロードし、教師がオンラインで採点することもできます。

さらに、SibeliusEducation.com では、他の教師や学校が作成した教材へのアクセス、情報やアイデア交換のための世界中の教師たちとのチャット、Sibelius Software 社から随時提供される教材や情報の入手といったメリットを提供しています。

SibeliusEducation.com についての詳しい情報を見る、また参加するには、ウェブブラウザから直接 **www.sibeliuseducation.com** にアクセスしてください。

ワークシートや教材を SibeliusEducation.com に掲載するには、次のようにします。

- まず、ワークシートを作成します。最初からオリジナルで作成することもできますが、ワークシートクリエイター（以下をご覧ください）を使用して作成することをおすすめします。
- 作成したワークシートを保存します。生徒が Sibelius 2、Sibelius 3、Sibelius 4 または Sibelius Student でワークシートファイルを開く必要がある場合は、**[ファイル] ▶ [エクスポート] ▶ [Sibelius 2、3、4 または Student]** で保存してください。ただし、生徒がそのファイルを Scorch で閲覧、再生、印刷し、コンピュータ上でなく印刷紙上で仕上げるだけの場合は、通常のやり方で保存しても問題ありません。
- **[ファイル] ▶ [SibeliusEducation.com に出版]** を選択し、画面の指示に従って、SibeliusEducation.com にログインし、ワークシートをアップロードしてください。

ご自身のウェブサイトへの楽譜掲載

スコアをエクスポートして HTML ページに埋め込み、ご自身のウェブサイトにはアップロードすることができます。スコアが完成したら、**[ファイル] ▶ [スコア情報]** で、楽譜のタイトルやご自身の名前などを該当欄に入力します（スコア作成開始時に **[ファイル] ▶ [新規]** のダイアログ内で入力した場合は必要ありません）。それか **[ファイル] ▶ [エクスポート] ▶ [Scorch ウェブページ]** を選びます。スコア名を入力し、**[保存]** をクリックしてください。

テンプレートの選択や、スコアのサイズ指定、縦横比を保つかどうかの確認、印刷と保存を許可するかどうかの確認についてのダイアログが表示されます。ここでは、**[クラシック]** のテンプレートを選択し、他の設定はそのままにして、**[OK]** をクリックしてください。

ファイルを保存したフォルダを開いてみてください。同じ名前での **「.htm」** と **「.sib」** の 2 つのファイルができています。この 2 つのファイルを、ご自身のウェブサイトサーバーの同じフォルダにアップロードします。これで、世界中のインターネットにアクセスできる人々が、そのスコアを閲覧、再生したり、（許可していれば）保存、印刷したりすることができるようになります。

インターネット出版の詳細については、『リファレンス』の  「5.16 SibeliusMusic.com」、 「5.15 SibeliusEducation.com」、 「8.14 Scorch ウェブページのエクスポート」を参照してください。

ワークシートクリエーター

■「ワークシートクリエーター™」

音楽の教師の方々は、それぞれの指導要領に基づく、授業や学習のための豊富な教材を必要としています。ワークシートクリエーターには、1700 以上のワークシートや課題、練習問題、歌、器楽曲、ポスター、参考資料などの教材が用意されています。これらは、アメリカやイギリス、オーストラリア、ニュージーランド、カナダなど、それぞれの国で採用されている指導要領に沿って、慎重に考案されたものです。「Selected repertoire」や「Reference」など、専門学校や大学レベルの教材もあります。

生徒用のワークシートと、採点のために答えが書き込まれた解答用紙の両方を手にすることが出来ます。また、毎回違う問題をランダムにワークシートに付けて作成することも出来ます。このようにすれば、もはや教材に困ることはありません。しかも、ほんの数秒で用意できてしまいます。

ワークシートクリエーター



クイックツアー

ワークシートクリエーターの使い方

- 新しいワークシートを作成するには、[ファイル] ▶ [ワークシートクリエーター] を選びます。
- ダイアログが表示されます。
- [教育と学習の題材] を選び、ワークシートのページサイズ (**A4** または **Letter**) も選びます。さらに、ワークシートに盛り込みたい他の情報を選択します。
- 次に、[題材のタイプ] を選択します。[すべて] のままにしておくと、Sibelius のすべてのワークシートから選ぶことができます。いろいろなオプションがありますが、オプションを指定すればするほど利用できるワークシートの数は減ります。両方の設定を [すべて] のままにしておき、[次へ] をクリックしてください。

選択可能な題材が 6 つのメインカテゴリーに分かれて表示されます。

- [Elements of music] は、14 の、音楽理論とソルフェージュの領域をカバーしています。音程、リズムから、初見演奏、聴音まで含まれています。
- [Writing and Creating Music] は、記譜、移調、編曲、作曲、即興演奏をカバーしています。
- [Selected Repertoire] には、声楽やピアノ、また他の楽器用の 400 以上の楽曲が含まれています。14 の異なる言語での声楽曲や 50 の Bach (バッハ) の鍵盤用の楽曲など、学習、編曲、演奏やオリジナルのワークシート作成に適した題材があります。また、作曲用の 45 の詩も用意されています。
- [Reference] は、音楽に関する情報の巨大な図書館です。80 以上の音階とモードの解説から様々な楽器の音域解説まであります。
- [Posters, Flashcards & Games] には、200 近くのポスター、教材用のカード、ゲームがあります。音符や調から多数の楽器の絵まであります。
- [UK KS3 & GCSE Projects] は、イギリス独自のプロジェクトで、アフリカンドラムからセリエリズムにまで及ぶ範囲の演奏、鑑賞、作曲をカバーします。

各カテゴリーについて詳しくは、以下のカテゴリー一覧をご覧ください。

- ここから先は、カテゴリーとサブカテゴリーをダブルクリックしていくと、ワークシートリストの表示に到達します。サブカテゴリー名の右横には、[題材のタイプ] で指定したオプションに適合するワークシートの数が括弧で表示されます。
- 最終的に選択したワークシートについての情報が、ダイアログの右欄に表示されます (いくつかのワークシートで表示される、RL (rhythm level) と SL (scale level) のクラス分けの詳細については、『リファレンス』を参照してください)。

ワークシートクリエーター

ワークシートクリエーター

- ワークシートにより、ランダムに採用される問題の数を指定することができるものもあります。採点の時間節約のために解答用紙も作成したい場合は、**【解答用紙も作成】**を選択してください。
- **【次へ】** をクリックしてください。
- 選択したワークシート（と解答用紙）のプレビューが表示されます（このワークシートが意図したものでなかった場合は、**【前へ】** ボタンで適切な前の画面に戻り、選択し直してください）。
- **【完了】** をクリックすると、ワークシートが生成され、印刷や、（必要な場合の）修正ができる状態になります。

オリジナルワークシートの作成

用意されているテンプレートを使ってオリジナルのワークシートを作成したり、ワークシートクリエーターに新しいワークシートカテゴリー（ランダム問題も含めて）を追加したりすることもできます。

ワークシートクリエーターを最大限にご活用いただくために、『リファレンス』の 5.21 ワークシートクリエーター および 5.22 オリジナルのワークシートを追加するを参照してください。

さらなる題材のダウンロード

SibeliusEducation.com では、さらに多くのワークシートやワークシートクリエーター用の題材、あるいは音楽教育のための有益な素材を、リンクやダウンロード用ファイルでご提供しています。また、生徒用にワークシートをこのサイトにアップロードすると、生徒は閲覧や再生、印刷を行うことができます。詳しくは、インターネット出版（85 ページ）を参照してください。

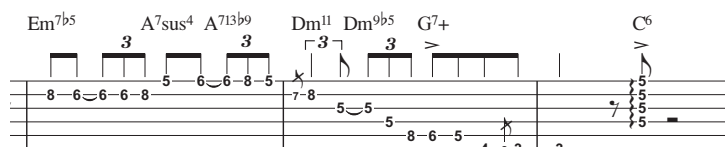
クイックツアー

カテゴリー一覧

主な項目	内容	詳細
01 Elements of Music	01 Notes & Rests 02 Dynamics 03 Timbre & Tone Color 04 Meter & Tempo 05 Rhythm 06 Scales & Key Signatures 07 Intervals, Chords, Progressions & Cadences 08 Score Analysis, 09 Conducting 10 Dictation/Transcription, 11 Sight Reading 12 Ear Training 13 Auditory Discrimination 14 Aural Recall	音楽の主となる分野において、以下の項目をカバーし、連続した学習用に準備された課題。音楽用語の紹介、基本演奏力の発展補助、音楽理論の紹介、トータル分析の教育、フォームと構成、テクスチャー、ジャンルを紹介。
02 Writing and Creating Music	01 Notation 02 Adapting, Transposing & Arranging 03 Composing 04 Improvising	基本的な記譜法、サウンド、リズム、メロディ、伴奏、テクスチャー、歌詞、オーケストレーションなどを含む創作的な幅広い研究の習得を導きます。
03 Selected Repertoire	01 Bach Piano Repertoire 02 Other Piano Repertoire 03 Instrumental Repertoire 04 Songs for Teaching 05 Rounds and Canons Collection 06 Poetry for Lyrics 07 Texts for Incidental Music 08 Rhythm Collection	ワークシートに多く使用されている 500 近くある曲と詩が多くのワークシートに用意されており、さらに発展させ、他のクラスやオリジナルのワークシート作成にも使用できます。100 曲にものぼるキーボードレパートリー、50 の Bach の曲、他のマスター曲からのサンプル、また、50 近くある循環とカノン、13 カ国語に対応する曲、45 の詩などを含む 150 以上もある曲が用意されています。
04 Reference	01 Encyclopedia of Scales & Modes 02 Chord Library 03 Instrumental & Vocal Ranges 04 US & British Music Terms Compared 05 Keyboard Handouts	80 以上のスケールとモード、150 種類のコード（記号）を含む、使いやすい音楽情報のライブラリー。創作的な課題への検索、探求、合同作業に使用できます。
05 Posters, Flashcards & Games	01 Posters 02 Flashcards 03 Games	音楽の概念の復習に役立つ 200 近くあるポスター、フラッシュカード、ゲーム。音符、休符、スケール、調号、5 度圏、シンボル、用語、スティック記譜、教室を飾ったり学習準備に役立つ 100 近くある楽器のイラスト。
06 UK KS3 & GCSE Projects	01 African Drumming KS3 02 Blues (12-bar) KS3 03 Composing to Create a Specific Mood KS3/GCSE 04 Pop Songs (Reggae) KS3/GCSE 05 Pop Songs (Dance Grooves) GCSE 06 Serialism GCSE 07 Blues (Arranging) GCSE	7 つのイギリス特有のプロジェクトで 3 つの主な分野（演奏、作曲、リスニング）をサポートとなり、分かりやすい教師の注釈やアイデアにより、Key Stage 3 と GCSE に役立ちます。

ギタータブ

Sibelius では、通常の 5 線譜（あるいは異なる線数の譜表）での記譜だけでなく、「タブ」による記譜も行えます。一般的なギターや、4/5/6 弦のベースギター、リュート、バスバラライカのいずれについても、Sibelius はそれらの楽器用に、正しい弦数とチューニングでタブ譜表を表示します。また、大譜表の途中で、通常の記譜による譜表からタブ譜表に切り換えること（またはその逆）もできます。



スコアにアコースティックギターのタブ譜表を追加する場合は、次のようにします。

- **【作成】▶【楽器】** を選択します（ショートカットは I）。
- **【セクション】** リストから **【すべての楽器】** を選びます。
- **【ファミリー】** リストから **【アコースティックギター】** を選びます。
- **【楽器】** リストから **【standard tuning [tab]】**（スタンダードチューニング [タブ]）を選び、**【スコアに追加】** をクリックします。
- **【OK】** をクリックしてください。

アコースティックギターのタブ譜表がスコアに追加されます。タブ譜表に音符（フレット番号）を入力するには、小節休符を選び、**N** キーを押します。それから矢印キーで入力する弦を選び、メインキーボードの番号キーでフレット番号を入力します。入力した音符（フレット番号）を他の弦に移動したい場合は、その音符（フレット番号）を選び、**Ctrl+↑/Ctrl+↓** または **⇧↑/⇧↓** キーで行います。このとき Sibelius は、同じ音程を保つために、自動的に、移動元の音符（タブ番号）の音程に相当する、移動先の弦でのタブ番号にアップデートします。演奏不可能な弦に移動した場合は、フレット番号の代わりに「-」マークが表示されます。

Sibelius はタブ譜表を正しい音高で再生します。したがって、たとえば一般的なギタータブ譜表で第 3 弦に第 5 フレットの音符を入力すると、Sibelius は「中央の C」の音で再生します。

タブ譜表への和音入力

タブ譜表への和音入力の簡単な方法は、MIDI キーボードや MIDI ギターからの入力です。別の方法としては、音符を加えたい弦をクリックし、フレット番号を入力（または変更）します。

詳しい情報

ギターの記譜の詳細については、『リファレンス』の 「1.5 ギターのタブ譜入力」と「2.13 ギターの記譜とタブ」、および 91 ページの「How to」の「ギタータブ」を参照してください。

クイックツアー

ビデオ

■「ビデオ」

Sibelius では、スコアにビデオを追加して同期再生させたり、ビデオ用にスコアを書いたりすることができます。SMPTE や LTC、ストリップング、またその他の難解な同期再生に関する技術のことなどを気にする必要はありません。必要なのは、学校やご自宅、あるいは仕事をされているスタジオなどにあるコンピュータだけなのです。

Sibelius からのビデオ再生は、Windows では Windows Media または QuickTime（インストールされている場合）を、Mac では QuickTime を利用します。したがって、お使いの「コンピュータや OS」で再生できるビデオはすべて、Sibelius でも再生できます。お使いの「コンピュータや OS」が標準的に対応しているフォーマットの詳細については、『リファレンス』の 4.9「ビデオ」を参照してください。

以下の操作で、スコアにビデオを追加することができます。

- ・ [再生] ▶ [ビデオと時間] ▶ [ビデオを追加] を選びます。
- ・ 追加するビデオファイルを指定し、[開く] をクリックします。
- ・ Sibelius のビデオウィンドウが開き、スコアの緑色の再生ライン（再生（42 ページ））をご覧ください（図）が現在ある位置に同期する、ビデオのフレームが表示されます。

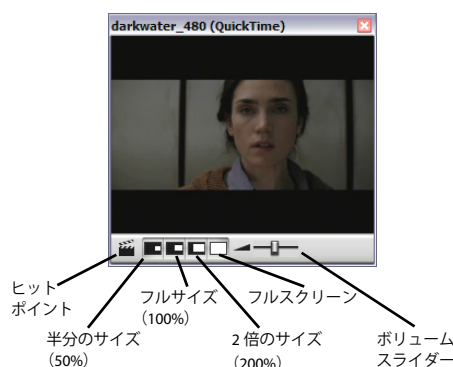
ビデオを追加したら、**スペースキー**を押して再生を開始してみてください。Sibelius は、常にビデオと同期してスコアを再生します。テンポスライダーをドラッグして再生スピードを変更しても同期し続けます。また、再生ウィンドウに新たに追加されたタイムラインスライダーを動かしても同期し続けます。

ビデオウィンドウの表示 / 非表示

ビデオウィンドウの表示/非表示を、[ウィンドウ] ▶ [ビデオ]（ショートカットは **Ctrl+Alt+V** または **⌘+V**）で切り替えることができます。ツールバーの（)でも切り替えることができます。

ビデオ音声ボリュームの調節

サウンドトラックを持っているビデオを再生する場合、スコアの再生音量とのバランスをとるために、ビデオサウンドトラックのボリュームを調節することができます。ビデオウィンドウの下段にあるボリュームスライダーで調節します。ボリュームスライダーを左側いっぱい位置にすると、ビデオサウンドトラックのボリュームはゼロになります。



ビデオウィンドウサイズの調節

ビデオウィンドウの表示サイズを、ビデオウィンドウのボリュームスライダーの左にある 4 つのボタンから選ぶことができます。オリジナルサイズの「50%」「100%」「200%」に加えて、「全画面」表示も選ぶことができます。[再生] ▶ [ビデオと時間] メニューからも選ぶことができます。

サンプルビデオファイル

Sibelius CD-ROM には、ビデオ向け作曲用の多彩な種類の短いビデオファイルを収録しています。マルチメディアの課題として最適です。また、これらの高解像度バージョンのほか、他の多くのビデオファイルを、ウェブサイト SibeliusEducation.com からダウンロードすることができます。

Sibelius スコア付きのものや、ビデオサウンドトラックを含むもの、またサイレントのものもあります。そのどれに対しても、オリジナルのサウンドトラックを作成することができます。ビデオには次のようなものがあります。

- **Chaplin:** Charlie Chaplin (チャーリー・チャップリン) が、有名なあの歩き方を人々に教えようとします。
- **South:** その伝説的な南極探検で、Shackleton (シャクルトン) の船「Endurance」号は流氷により破壊されます (スコア付き)。
- **Mr Bean** (SibeliusEducation.com から利用できます) : 人気のあるコメディキャラクターのアニメバージョンからの抜粋です。Howard Goodall (ハワード・グッドオール) のオリジナルスコア付きです。
- **Marching Band:** Santa Clara Vanguard (アメリカの有名なブラスバンド) が「Sheherezade」を演奏します (スコア付き。スコアの MIDI 再生ではなく、ビデオのサウンドトラックでお聞きください)。
- **Shadowscan:** 医療現場での緊急事態の模様です。
- **More is Less:** ロンドンのビデオモンタージュです。
- **Blue Pullman:** 1960 年代の有名な列車の映像です。
- **Jazz Age:** ミュージシャンとダンサーが北極グマを喜ばせます。
- **Holiday:** 懐かしい休暇村の映像です。
- **Box Clever:** 2 つの箱が戦うアニメーションです。

ビデオの検索方法 :

- Windows の場合 : ビデオは「サンプルスコア」フォルダ内の「ビデオ」フォルダに入っています (この「サンプルスコア」フォルダは「スコア」フォルダに含まれています)。
- Mac の場合 : Sibelius DVD-ROM を挿入し、ウィンドウが表示されたら、「サンプルスコアと文書」フォルダを開きます。ビデオファイルは、「サンプルスコア」フォルダの中にあります。使用するビデオファイルを、お使いのパソコンのハードディスクにコピーして、ご使用ください。

SibeliusEducation.com のウェブサイトからビデオファイルをダウンロードするには、直接サイトにアクセスしていただくか、Sibelius プログラム中の、[ヘルプ] ▶ [SibeliusEducation.com] を選択してアクセスしてください。そのほか、映画の宣伝や予告編などがダウンロードできるウェブサイトもありますので、生徒用の作曲課題素材として利用してはいかがでしょうか。

ビデオ用に Sibelius で作曲した音楽をビデオのサウンドトラックに追加する方法や、ヒットポイント / タイムコードの使い方など、ビデオの詳細について、『リファレンス』の 4.9 「4.9 ビデオ」、4.10 「タイムコードとヒットポイント」を参照してください。

映画「Holiday」、「Blue Pullman」、「Topical Budget Newsreels」、「More Is Less」、「Shadowscan」からの映像クリップは、British Film Institute のご好意で提供しています。著作権は British Film Institute が所有しています。

クイックツアー

グラフィックのエクスポート

■「グラフィックのエクスポート」

Sibelius では、スコアの 1 ページや、ページ中の一部分を、各種グラフィックフォーマットでエクスポートしたり、グラフィックとして直接コピーしたりすることができます。

他のプログラムへのグラフィックのコピー

スコアを選択した範囲を、他のプログラム（Microsoft Word など）へグラフィックとしてコピーするには次のようにします。

- グラフィックとしてコピーしたい小節を選択します。
- **[編集] ▶ [選択] ▶ [グラフィックを選択]**（ショートカットは **Alt + G** または **⌘G**）を選択します。
- 選択部分を囲む枠線が現れますので、必要場合は枠線の四角いハンドルをドラッグして選択範囲を調節します。
- **[編集] ▶ [コピー]**（ショートカットは **Ctrl+C** または **⌘C**）を選びます。選択範囲がクリップボードにコピーされます。
- **Esc** キーを押して選択を解除します。
- コピー先のアプリケーションソフトを開きます。
- **[編集] ▶ [貼り付け]**（ショートカットは **Ctrl + V** または **⌘V**）を選択します。

もし貼り付けたグラフィックが思ったより鮮明でなかったときは、**[ファイル] ▶ [環境設定]**（Mac では **[Sibelius]** メニューにあります）の **[その他]** ページで、**[画像解像度 (dpi)]** の設定を変更し、上記の操作をやり直してみてください。

ファイルとしてのグラフィックのエクスポート

Sibelius では、グラフィックを、EPS、PNG、TIFF、BMP、EMF（Windows のみ）、PICT（Mac のみ）フォーマットのファイルとしてエクスポートすることができます。これらの操作については、『リファレンス』の **8.11 グラフィックのエクスポート** をご覧ください。

スキャニング

Sibelius には PhotoScore Lite という無料のスキャニングプログラムが付属しています。PhotoScore Lite は、印刷された楽譜をスキャンし、Sibelius に読み込みます。読み込まれたスコアは、ご自身で作成したスコアと同じように、編集したり移調したりすることができます。

- PhotoScoreがインストールされていることを確認してください(インストールされていない場合は Sibelius CD-ROM のインストーラーを起動してください)。
- Sibelius 上で、ツールバーの【スキャン】ボタン () をクリックします。
- PhotoScore プログラムが起動したら、ツールバーの【ページを連続してスキャン】ボタン () をクリックします。
- スキャナーに楽譜をセットし、【スキャン】ボタンをクリックします。
- スキャニングが完了すると、ファイルのタイトルを尋ねられます。入力して【OK】をクリックします。
- PhotoScore ツールバーの【ページを表示】ボタン () をクリックし、表示されるリストから今スキャンしたものを選びます。
- PhotoScore がスコアの分析を完了したら、【ファイル】▶【Sibelius に送信】を選択します。スコアが Sibelius 上で表示され、いつでも編集したり印刷したりすることができます。

スキャニングについて詳しくは、『リファレンス』の  「1.4 スキャニング」をご覧ください。

PhotoScore Ultimate

Photoscore Ultimate にアップグレードすると、次のようなメリットを得ることができます。

- 手書きの符頭とリズムを読み込みます。
- 1 ページあたり 32 譜表まで読み込みます (Lite では 12 譜表)。
- 1 スコアにつき 200 ページまで読み込みます (Lite では 20 ページ)。
- スラーやタイ、ヘアピン、アーティキュレーション記号を読み込みます。
- 8 種類の音部記号を認識します (Lite では 2 種類)。
- アウフタクト小節やその他の不規則な長さの小節を認識します。
- テキストを読み込みます。
- 3 連符や他の連音符を読み込みます。
- ギターコードダイアグラムや 4 弦ギタータブ譜を読み込みます。
- 128 分音符まで読み込みます (Lite では 16 分音符まで)。
- 付点 2 つの音符まで読み込みます (Lite では付点 1 つの音符まで)。
- キーボード譜表上の譜表をまたぐ連桁を読み込みます。
- Photoscore 内からの移調ができます。
- Photoscore 内からの再生ができます。
- パーカッション譜 (1 線、2 線、3 線譜) を認識します。
- 装飾音符を認識します。
- PDF ファイルから直接スキャンすることができます。
- MusicXML として保存しオーディオファイルをエクスポートします

詳細については、Sibelius の【ヘルプ】▶【PhotoScore Ultimate】を参照してください。

クイックツアー

他のプログラムファイルの開き方

Sibelius で楽譜を取得する別の方法として、他の音楽プログラムで作成したファイルを開くという方法があります。Sibelius は、SCORE、Allegro、PrintMusic、MusicXML フォーマット、ASCII ギタータブ、そして最もポピュラーな MIDI ファイル（スタンダード MIDI ファイル）をインポートして開くことができます。また、Sibelius の旧バージョンや Sibelius Student、Sibelius のギター用プログラム G7、Acorn Sibelius プログラムで作成されたファイルも開くことができます。

MIDI ファイルを開く

「スコア」フォルダ中の「ファイルコンバーター」フォルダにある、「MIDI ファイル」というサンプル MIDI ファイルをインポートしてみましょう。通常の Sibelius ファイルの開き方と同様に、ツールバーの【開く】をクリックし、ファイルを選択します。いくつかのオプションが表示されますが、ここではそのまま【OK】をクリックしてください。

Sibelius は高度な分析を行い、インポートされた MIDI ファイルをできるだけ整理された形で表示します。使用されている楽器を見分け、それらに正しい名前と音部記号を付け、正しくグループ分けを行います。またフレキシタイム機能と同じアルゴリズムを使って、一般的なクオンタイズ以上に洗練されたリズムのクオンタイズを行います。

Sibelius は、MIDI ファイルに移調楽器がある場合でも対応します。MIDI ファイルを開いたあと、【音符】▶【スコアを移調する】（ショートカットは **Ctrl+Shift+T** または **⇧⌘T**）を選択し、たとえばバリトンサクソフォンのパート譜が、そのときどのように変化するか確認してみてください。

スペースキーを押して、スコアを再生してみましょう。このスコアの再生品質を簡単に向上させることができます。最初に【再生】▶【ライブプレイバック】（ショートカットは **Shift + L**）をオフにします。こうすると、MIDI ファイルそのものの正確な再生より、Sibelius 独自の音楽的解釈を優先して再生することができます。続いて、スコアの最初の音符を選び、【作成】▶【テキスト】▶【テンポ】（ショートカットは **Ctrl+Alt+T** または **⇧⌘T**）を選択し、「Swing」と入力してみてください。スコアを再び再生してみると、Sibelius が紛れもないスイングサウンドを作り出したのがわかるはずです。

Sibelius はスコアを MIDI ファイルとしても保存できます。これは Sibelius を持っていない人たちに音楽データを渡す 1 つの方法です。MIDI ファイルを保存するときにエスプレッシーボやリズムックフィールなどの再生オプションを設定しておくと、Sibelius は MIDI ファイルを先進的なものに仕上げます。

詳細については、『リファレンス』の  「8.5 MIDI ファイルを開く」、「8.12 MIDI ファイルのエクスポート」を参照してください。

Finale ファイルの開き方

Finale 2003 以降で作成されたスコアファイルの場合は、MusicXML フォーマットで保存してから Sibelius で開くほうが、良い結果をもたらすでしょう。

たとえば、「MusicXML file」ファイルを開いてみてください。いくつかのオプションが表示されますが、ここではそのまま【OK】をクリックします。数秒後、音符や記号、アーティキュレーションなどが自動的に変換され、ファイルが開きます。

他のプログラムのファイルをインポートして開いたら、すぐにでも印刷することができます。もちろん、スコアの編集や再アレンジ、再生なども行うことができます。

詳細については、『リファレンス』の  「8.6 MusicXML ファイルを開く」を参照してください。

再生について

■「再生」

バーチャルインストゥルメントとエフェクト

バーチャルインストゥルメントとは、実際の楽器を正確に再現して音楽を再生するコンピュータプログラムです。Sibelius では、現在、VST および Audio Units 規格に準拠しているバーチャルインストゥルメントをサポートしています。詳しくは、『リファレンス』の ❷ 「4.13 初心者のためのバーチャルインストゥルメント」を参照してください。

Sibelius 5 の内蔵サウンドライブラリである Sibelius Sounds Essentials は Kontakt Player 2 と呼ばれるバーチャルインストゥルメントを使って、サンプルを再生します。また、Kontakt Player 2 にも、コーラス、リバーブ、フィルターなどの多くの内蔵のエフェクトが含まれています。

Sibelius Sounds Essentials およびその他のバーチャルインストゥルメントやエフェクトの設定方法の詳細については、『リファレンス』の ❷ 「4.11 再生デバイス」と「4.4 Sibelius Sounds Essentials」を参照してください。

オーディオファイルのエクスポート

Sibelius Sounds Essentials などのバーチャルインストゥルメントを使用して、1 回のクリック操作だけで、スコアをオーディオファイルとしてエクスポートすることができます。オーディオファイルは CD に直接書き込んだり、MP3 などの他のフォーマットに変換できるので、指揮者や奏者は録音されたものを聞いて確認したり、練習用に使用することもできます。

[ファイル] ▶ [エクスポート] ▶ [オーディオ]、またはツールバーの  ボタンをクリックします。詳細については、『リファレンス』の ❷ 「8.13 オーディオファイルのエクスポート」を参照してください。

エスプレッシーボ™

一般的な楽譜作成ソフトは、スコアに明示的に表現されているものしか再生しません。音符や他の音楽記号などは正しく読み取って再生しますが、そこまでは、音楽の試験で合格点を取れるレベルの音楽表現かもしれませんが、賞を取れるようなレベルの音楽表現とは言えません。機械的で精彩を欠くものだからです。

しかし Sibelius には、より人間的な演奏を再現する人工知能を持った、独自のエスプレッシーボという機能があります。エスプレッシーボを有効にすると、Sibelius は再生時に楽譜を分析し、実際に人間が演奏しているようなフレージングや表情を再生に盛り込みます。

エスプレッシーボを試してみましょう。

- 「**ブギメカニコ**」のファイル（「**サンプルスコア**」フォルダ中の「**再生**」フォルダにあります）を開いてください。このファイルは、エスプレッシーボの設定が【**メカニコ**】（機械的に）になっています。この設定は、スコアを、何の表情も加えずに単純に楽譜どおり再生させる設定です。
- スコアを再生し、聞いてみてください。
- 次に、「**ブギエスプレッシーボ**」のファイルを開いてください。このファイルは先ほどのスコアとまったく同じものですが、エスプレッシーボの設定が【**モルトエスプレッシーボ**】（大変表情豊かに）になっています。さらに、リズムックフィールの「通常のスイング」がオンにしてあり、リバーブやサウンドステージ（楽器ごとの鳴り音の 3D 効果）も加えられています。

クイックツアー

- このスコアを再生し、さきほどのスコアの再生と比べて聞いてみてください。何も強弱記号や発想記号は記されていませんが、Sibelius は、まさに実際に人が演奏しているようなリアルな再生を生み出します。

スコアのエスプレッシーボの設定を変更するには、**[再生] ▶ [パフォーマンス]** を選びます。

リズムミックフィール™

さらにまた、Sibelius の「リズムミックフィール」設定でもスコアの再生をコントロールすることができます。試してみましょう。「クイックツアー」スコアで、**[再生] ▶ [パフォーマンス]**（ショートカットは **Shift + P**）を選択し、**[リズムミックフィール]** ドロップダウンメニューから **[スイングした 16 分音符]** を選びます。**[OK]** をクリックします。**スペースキー** をクリックし、再生します。効果を確認してください。

（ラグタイムの曲をスイングで再生させるべきではないと思われるかもしれません。ここでの例はあくまで機能説明のためだけのものであることをご理解ください。）

再生辞書

エスプレッシーボやリズムミックフィール以外にも、Sibelius はスコア内のあらゆる記号を読み取り解釈します。**[再生] ▶ [辞書]** を選択して、ダイアログの 6 つのページをそれぞれご覧ください。Sibelius は何百という用語、多数のライン、アーティキュレーション記号などを認識できます。これらは変更または追加可能です。ただし、Sibelius ではよく使用する記号（および使用頻度の少ない多数の記号）はすべて、ユーザー用にあらかじめ用意されています。

詳しくは、『リファレンス』の  「4.8 再生辞書」を参照してください。

ミキサー

複数の楽器パートから成るスコアを再生するとき、どの楽譜の場合でも、それぞれの楽器が、異なる場所で鳴っているように聞こえることにお気付きかもしれません。これは、Sibelius 独自の「サウンドステージ」機能によるものです。サウンドステージ機能は、それぞれの楽器があたかもコンサートステージ上に配置され、演奏されているかのような、3D 効果を生み出しています。

サウンドステージ機能に関しては、Sibelius のミキサーウィンドウで、パン、楽器（Sound）などの項目を変更することができます。ミキサーウィンドウでのこれらの設定変更もお試ください。ミキサーウィンドウは、**[ウィンドウ] ▶ [ミキサー]**（ショートカットは、Windows の場合は **Ctrl+Alt+M**、Mac の場合は **M**）から開きます。もう一度 **Ctrl+Alt+M** または **M** をクリックするとミキサーウィンドウが閉じます。



詳細については、『リファレンス』の  「4.3 ミキサー」を参照してください。

再生開始位置と再生パートの選択

 や **スペースキー** で再生開始するとき、再生開始位置は常に再生ラインの位置になります。Sibelius では、前回再生を停止した位置に再生ラインは留まっており、そこから再生を開始します（シーケンサーでの動作と同じです）。

再生について

- 再生ラインが見えないときは、**[再生] ▶ [再生ラインへ移動]** (ショートカットは **Shift + Y**) を選ぶと、再生ラインが見えるようになります (それでも見えない場合は、**[表示] ▶ [再生ライン]** がオンになっているか確認してください)。
- 再生ラインの位置を変更する (再生開始位置を変更する) 方法は、次のとおりです。
 - 再生ウィンドウのタイムラインスライダーを動かします。
 - 再生ウィンドウの **[再生ラインを先頭へ移動]** (ショートカットは **Ctrl+ [または ⌘]**) をクリックすると、再生ラインをスコアの先頭に移動させることができます。
 - 再生ウィンドウの **[再生ラインを最後へ移動]** (ショートカットは **Ctrl+ または ⌘**) をクリックすると、再生ラインをスコアの末尾に移動させることができます。
 - スコア中のオブジェクトを選択し、**[再生] ▶ [再生ラインを選択位置へ移動]** (ショートカットは **Y** キー) を選択すると、再生ラインを選択中のオブジェクトの位置に移動させることができます。
- 単独の楽器パートだけを再生することもできます。再生したい楽器パート譜中の一つの小節を選択します (小節の空白部分をクリックして、その小節が青色のボックスで囲まれるようにします)。それから **スペース** キーを押すと再生が始まります (または、以下でも説明していますが、**P** キーを押すと選択した小節から再生を始めることができます)。
- また、複数の楽器パートを選択して再生することもできます。最初の楽器パート譜中の、一つの小節を選択します (小節の空白部分をクリックして、その小節が青色のボックスで囲まれるようにします)。続いて、他のパート譜を **Ctrl** + クリック または **⌘** + クリックしていきます。離れた位置のパート譜の組み合わせでも問題ありません。したがって、たとえば、オーケストラスコアで、フルートとホルンとチェロパートを選んで再生するなどといったことができます。

前回の再生時と同じ開始位置から再生を開始したい場合は、**[再生] ▶ [リプレイ]** (ショートカットは **Ctrl+ スペース** または **⌘- スペース**) を選択します。

現在選択中の位置から再生開始したい場合は、次のようにします。**P** キーを押します。

再生についての詳しい情報

再生についてのすべての詳細については、『リファレンス』の  「4 再生とビデオ」を参照してください。

クイックツアー

その他の多彩な機能

これまで紹介してきた機能のほかに、ここからは Sibelius の残りのすべての機能にも手短かに触れておきましょう。

『リファレンス』には、Sibelius のより高度な機能についての情報が記載されています。クイックツアーで取り上げた事項でも、さらに奥深く説明されていることに加え、『リファレンス』を読んで初めて発見するような、役立つヒントも掲載されています。

『リファレンス』をすべてご覧になる必要はありません。自分にとってどの項目が必要かを知るために、以下の記述や How to (109 ページ) をご覧ください。「How to」では、各種の楽譜を例にあげ、Sibelius でどのように作成するかを、『リファレンス』の参照項目とともにご紹介しています。

Sibelius の『リファレンス』は、Sibelius のすべての機能についての総合的なガイドです。冊子をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、『リファレンス』の全内容を、Sibelius を使用中にいつでも、[ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス] (ショートカットは **F1** または **⌘?**) からオンラインでご覧いただくことができます。各項目に関連する用語が索引に掲載されていますし、目次には各項目が順番に掲載されています。オンライン『リファレンス』ではまた、キーワードからの検索も可能です。

以下に、『リファレンス』のすべての項目の概要を説明します。

音符の入力

Sibelius にはいくつかの音符の入力方法があります。「1.1 音符の入力」には、Sibelius での主な入力方法であるマウス、アルファベット、ステップ入力について述べられています。また画面上の「テンキーウィンドウ」の操作に慣れるため「1.2 テンキー」をご覧ください。「1.3 フレキシタイム™」には、Sibelius でのインテリジェントなリアルタイム入力についての記載があります。タブを書く際には、「1.5 ギターのタブ譜入力」で、コンピュータキーボードを利用したすばやい入力方法の説明をご覧ください。「1.7 入力デバイス」では、MIDI キーボードを接続してから Sibelius に接続し、ステップタイムとフレキシタイムで入力を行う方法について説明します。

印刷された楽譜からのスキャニングについては「1.4 スキャニング」をご覧ください。

基本的な記譜

記譜に関してすでに触れた機能内容は、「2.8 音部記号」、「2.14 楽器」、「2.15 調号」、「2.16 ライン」、「2.22 スラー」、「2.23 譜表」、「2.26 タイ」、そして「2.27 拍子記号」で詳しく取り上げられています。既存のラインや楽器の編集、または新規のラインや譜表タイプの作成については、「7.13 ラインの編集」と「7.12 楽器の編集」に説明されています。

音符と休符

音符と休符については「2.20 符頭」、「2.1 臨時記号」、「2.2 アーティキュレーション」、「2.5 連符」、「2.24 符尾と加線」、「2.30 声部」で説明しています。変則リズムについては「2.29 3 連符とその他の連音符」をご覧ください。「2.10 キュー」、「2.12 装飾音符」、「2.28 トレモロ」では、それらの作成方法について説明しています。既存の符頭の形を変更したり、新しい符頭を作成したりするには「7.14 符頭の編集」をご覧ください。

テキスト

さまざまなタイプのテキストを、いつ、どのように使用するかについては、「3.1 テキストの作成と編集」、「3.2 一般的なテキストスタイル」、「3.3 歌詞」、「3.4 コード記号」、および「3.5 数字付き低音とローマ数字」を参照してください。異なるテキストフォント、サイズ、字体および位置を選択するには、「3.10 テキストスタイルの編集」を参照してください。スコア内のデータに基づいて自動的にアップデートできるテキストを書き込む場合は、「3.11 ワイルドカード」を参照してください。

また自動的に挿入されるテキストについてのことになりますが、それぞれ「3.6 小節番号」、「3.7 ページ番号」、「3.8 リハーサルマーク」、および「3.9 楽器名」をご覧ください。

最後に、コンピュータにインストールされていないフォントを使ったファイルを他の人から受け取った場合の Sibelius の処理方法については、「3.12 フォントの代替」を参照してください。

その他の記譜

- 「2.3 小節線」では、複縦線、リピート、破線小節線、古楽に使用される小節線などについて取り上げています。
- 「2.6 括弧と大括弧」では、各行（段）の左に示されている楽器のグループ化の方法を説明しています。
- 「2.7 コードダイアグラム」と「2.13 ギター記譜とタブ」、そして「2.17 リュートタブラチュア」では、フレット楽器の記譜についての説明があります。
- 「2.9 カラー」には、音符、テキスト、ラインその他の色を変更する方法の説明があります。
- 「2.11 フリーリズム」には、カデンツァ、偶然性音楽、拍子のない音楽などの説明があります。
- 「2.25 シンボル」と「7.10 音楽フォント」では、Sibelius の音楽記号のデザインを変更する方法や、スコア内での特殊なシンボルの作成方法について説明しています。「7.15 シンボルの編集」では、新しい記号の作成方法や既存の記号の変更方法について説明しています。
- 「2.21 パーカッション」では、ドラムセット（ドラムキット）やオーケストラのパーカッションの記譜法について説明しています。
- 「8.4 グラフィックのインポート」では、ロゴ、イラスト、音符画像またはカラー写真などをスコア内に加える方法について書かれています。

『ハンドブック』の「How to」でもまた、ハーブペダルダイアログやインチピット（楽譜の冒頭）など、各種楽譜サンプルを交えて、いろいろな特殊な記譜をご紹介します。

再生、ビデオ、MIDI

- MIDI のご紹介として、「4.12 はじめての MIDI」をお読みください。また、「4.13 初心者のためのバーチャルインストルメント」にも目を通しておいってください。Sibelius が再生中に適切にサウンドを選択する方法については、「4.16 SoundWorld」をお読みください。
- 楽譜再生の表現力を高めるには、「4.1 再生」、「4.2 ミキサー」、そして「4.5 パフォーマンス」をご覧ください。
- より高度な再生表現の微調整には、「4.7 ライブプレイバック」、「4.15 MIDI メッセージ」、「4.8 再生辞書」、また「4.6 リピート」をご覧ください。
- 「4.10 タイムコードとヒットポイント」には、映画音楽やテレビ音楽に必要なタイムコードの作成方法や、自動的にスコアの演奏時間を計算する方法が述べられています。
- 「4.9 ビデオ」では、スコアにビデオファイルを追加する方法や、ビデオなどの動画用に楽譜を作成する方法について説明しています。

クイックツアー

- 「4.4 Sibelius Sounds Essentials」では、Kontakt Player 2 のセットアップ、また Sibelius を使用してスコアをリアルなサウンドで再生する方法について説明しています。また、「8.13 オーディオファイルのエクスポート」では、スコアをオーディオファイルとして CD に書き込む方法や、インターネットにアップロードする方法をご紹介します。
- 「4.11 再生デバイス」では、再生用にコンピュータをセットアップできます。

小節グループ

小節や小節グループを一括して作成したり編集したりするには、「2.4 小節と小節休符」、「1.6 選択とパッセージ」および「2.19 マルチレスト」をご覧ください。「5.4 フィルターと検索」では、音符とその他のオブジェクト（テキスト、ラインなど）をすばやく検索、選択し、編集したり削除したりする方法について説明しています。

印刷と出版

「5.13 印刷」と「7.16 出版」では、高度な品質での印刷の設定方法について説明しています。「7.7 ハウススタイル™」では様々な種類の楽譜を好みの「見栄え」にするための設定方法が示されています。

「5.15 SibeliusEducation.com」、「5.16 SibeliusMusic.com」、および「8.14 Scorch ウェブページのエクスポート」では、さらに画期的な、楽譜や教材のインターネット出版について説明しています。

移調とパート譜

きれいな楽器パート譜をすばやく作成する方法にまだ慣れていない場合は、「6.1 パート譜での作業」と「6.2 パート譜の編集」を参照してください。パート譜に関する高度なオプションについては「6.3 複数のパートの概観」を参照し、稀に必要な場合は、「6.4 パート譜の作成」を参照してください。

「5.17 移調」では、楽譜の移調方法について説明しています。また、自動的にピアノ譜へのリダクション（簡略）を行う方法については、「5.1 アレンジ™」をご覧ください（またオリジナリティーあふれる強力な特徴を持つアレンジに挑戦したい方は、「5.2 アレンジスタイルの編集」をご覧ください）。

フォーマットとレイアウト

記譜上のいくつかの重要な基礎について、「7.2 楽譜浄書」をご覧ください。「7.6 添付」、「7.5 ドキュメントセットアップ」、「7.3 自動レイアウト」および「7.1 レイアウトとフォーマット」では、Sibelius のレイアウト機能の主要な部分を説明しています。特定のフォーマットに関する操作については、「7.8 音符間隔」、「7.9 譜表間隔」、「7.11 標準設定の位置」、「5.19 表示メニュー」および「7.4 ブレーク」で説明しています。

役立つヒント

- 「5.8 アイデア」では、作曲や編曲中に集めた断片的な音楽情報やその他の音楽素材をキャプチャ、再利用、復元する方法や、Sibelius にあらかじめ用意されている 1500 以上のアイデアを使用する方法について説明しています。
- 「5.6 オブジェクトの非表示」では、見えないオブジェクトをスコア内に持てることについて説明しています。
- 「5.9 メニューとショートカット」では、作業の高速化を図るための多くの方法をご紹介します。ここはぜひお読みください。
- 「5.10 パノラマ」では、スコアを単一の無限の長さの連続譜表に表示するため、音符の入力に最適です。

その他の多彩な機能

- 「5.5 譜表にフォーカス」では、大規模なスコアを作成しているときに、作業をしている譜表だけを表示して、作業を効率的に行う方法を説明しています。
- 「5.12 環境設定」では、プログラムの一般的な各種設定を変更する方法を説明しています。ご自身が Sibelius を操作しやすいように変更してください。
- 「5.18 元に戻す / 繰り返す」では、作業を元に戻したり、繰り返したりする方法を説明しています。
- 「5.3 表示設定」、「5.19 表示メニュー」および「5.20 ウィンドウメニュー」では、Sibelius の画面表示オプションについて説明しています。「2.18 ギタータブ」では、標準的なアンサンブル、用紙サイズ、およびその他の設定を備えた譜面用紙のテンプレートを使用する方法を説明しています。
- 「5.14 プロパティ」では、Sibelius での音符、テキスト、記号、およびその他のオブジェクトの属性を表示したり変更したりする方法を説明しています。
- 「5.7 ハイライト」では、蛍光色の黄色またはその他の色を使って、楽譜を強調表示する方法を説明しています。

ファイル

保存、自動保存、バックアップに関する基本的な情報については、「8.1 ファイルを扱う作業」を参照してください。Sibelius のファイルをインターネット経由で送信して、Mac と Window 間で転送する方法については、「8.2 ファイルの共有」を参照してください。また、これに関連して、旧バージョンの Sibelius を使用しているユーザーにファイルを送信する場合は、「8.15 旧バージョンへのエクスポート」を参照してください。「8.10 旧バージョンからファイルを開く」には、ファイルを逆の方向に送信する場合に役立つ情報が含まれています。「8.3 スコアの分割と結合」では、特に同じスコア内で複数のスコアを作成する方法について説明しています。

Sibelius は、各種の他の音楽プログラムから、ファイルを変換して開くことができます。「8.5 MIDI ファイルを開く」、「8.6 MusicXML ファイルを開く」、「8.7 Finale 98-2003 ファイルを開く」（それ以前の Finale バージョンの開き方も含みます）、「8.8 SCORE ファイルを開く」、「8.9 Acorn Sibelius ファイルを開く」、および「8.16 ASCII タブファイル」をご覧ください。

Sibelius は、ファイルを MIDI ファイルとしても保存することができます。このようにすると、他のコンピュータでも再生が可能になります。「8.12 MIDI ファイルのエクスポート」をご覧ください。また Sibelius からグラフィックを、ワードプロセッサなどの他のプログラムでできるように、多彩な形式でエクスポートすることもできます。「8.11 グラフィックのエクスポート」をご覧ください。

ワークシートと教材

「5.21 ワークシートクリエーター」と「5.22 オリジナルのワークシートを追加する」では、Sibelius が用意している豊富な教材コンテンツを利用して、生徒用のワークシートを作成する方法を詳しく説明しています。さらに、生徒や他の先生と共有するワークシートとして SibeliusEducation.com のウェブサイト追加するためのスコアの作成方法も、詳しく説明しています。

プラグイン

Sibelius では、面倒な作業を自動で行ってくれる 100 以上のプラグイン（「5.11 プラグイン」）が用意されています。たとえば、自動的にコード記号を追加したり、平行 5 度と平行 8 度をチェックしたり、また旋律にハーモニーを付けたり、あらゆる種類のスケールとアルペジオを作成したりすることができます。さらに、ご自身でプラグインの作成も可能です。

クイックツアー

各種の楽譜サンプル

今までに見てきた楽譜は、Sibelius で作成できる多種の楽譜のほんの一部にすぎません。Sibelius で作成できる多彩な楽譜サンプルを、「サンプルスコア」フォルダからご覧ください。たとえば次のようなものがあります。

- 「高度な記譜 1」、「高度な記譜 2」は、「記譜」フォルダにあります。Sibelius の高度な記譜機能を凝縮してご紹介しています。
- 「古楽」は、「合唱」フォルダにあります。Sibelius 独自の、古楽のインチピット（楽譜の冒頭）や序章用の譜表を使用した声楽曲の譜例です。
- 「リードシート」は、「ジャズ」フォルダにあります。Reprise の手書き風フォントを使用し、また、「譜表にフォーカス」機能を使って非表示にした譜表も含まれている譜例です。
- 「ライブプレイバック」は、「再生」フォルダにあります。Sibelius での再生に印象的な効果を添えるために、再生における細かいニュアンスを調整できることを示す譜例です。
- 「ヘブリディーズ」は、「オーケストラ」フォルダにあります。Mendelssohn（メンデルスゾーン）の有名な序曲をお聞きください。
- 「ブラスバンド」は、「バンド」フォルダにあります。Holst（ホルスト）の「惑星」から、吹奏楽用に編曲された「木星（ジュピター）」をお聞きください。
- 「ビッグバンド」は、「ジャズ」フォルダにあります。あるパートを繰り返しの 2 回めにだけ再生するといったような高度な再生設定を持つビッグバンドスコアです。
- 「ギタートリオ」、「ギタータブ」は、「その他」フォルダにあります。Sibelius のギター用記譜例です。
- グラフィック例は、「グラフィックファイル」フォルダにあります。ワークシートやコース学習教材にインポートして使用できます。

また、How to もぜひご覧ください。Sibelius での一般的な各種記譜例を掲載していますので、楽譜を目で見て確認できるリファレンスとして役立ちます。

さらに、インストール CD に入っている「ビデオ」フォルダには、作曲用のサンプルビデオファイルがあります。詳細については、92 ページを参照してください。

さらにお楽しみいただくための別売品

さらに高度なスキャニングや再生をお楽しみいただくために、PhotoScore Ultimate や Sibelius Sounds の広範なアドオンサウンドライブラリが別売で用意されています。詳細については、[ヘルプ] メニューからのリンクをご覧ください。

また、Sibelius と連携してご使用いただける「Sibelius 教育用パッケージ」という広範な教育分野に対応するプログラムが、別売で用意されています。小学校の音楽から作曲や聴音テストにまで対応しています。「Sibelius 教育用パッケージ」のご紹介が、[ヘルプ] ▶ [チュートリアルビデオ] の「**Sibelius Educational Suite**」でご覧いただけます。また、[ヘルプ] ▶ [**Sibelius Educational Suite**] から開かれる Sibelius ウェブサイトページで、詳しい情報をご覧ください。

ヘルプ

チュートリアルビデオ

Sibelius には、多くのタイトルのチュートリアルビデオが用意されています。チュートリアルビデオでは、Sibelius の主な機能がわかりやすく簡潔に説明されています。[ヘルプ] ▶ [チュートリアルビデオ] を選択してください。詳細については、チュートリアルビデオ（34 ページ）を参照してください。

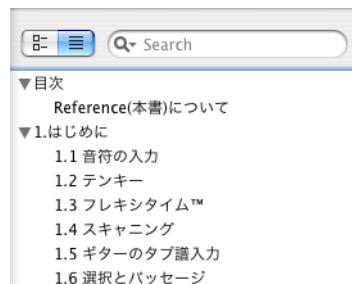
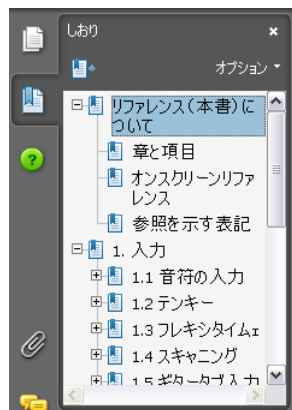
リファレンス

情報を探す場合、この『ハンドブック』の索引を利用することができます。そこで見つからない場合は、オンライン『リファレンス』をご利用ください。『リファレンス』では、Sibelius の各機能を詳しく説明しています。[ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス]（ショートカットは **F1** または **⌘?**）からご覧いただけます。

PDF ファイルの表示に使用しているアプリケーションが開き（Windows では通常 Adobe Reader が、Mac ではプレビューが使用されます）、オンスクリーンリファレンスが表示されます。オンスクリーンリファレンスを参照するには、しおり、および Adobe Reader およびプレビューに組み込まれている [編集] ▶ [検索] 機能を使用します。

しおりは閲覧中の文書の横に開いておける目次のようなもので、リファレンスの任意の章、トピック、サブ見出しに移動することができます。しおりを表示するには、次のようにします。

- Adobe Reader の [表示] ▶ [ナビゲーションパネル] ▶ [しおり] を選択すると、以下のようなパネルが画面の左側に表示されます。
- Mac でプレビューを使用する場合は、[表示] ▶ [パネル] を選択します。以下のようなパネルがウィンドウの右側に表示されます。



オンスクリーンリファレンス内を検索するには、[編集] ▶ [検索] 機能を使用するか、次の方法を使用します。

- Adobe Reader では、以下の左側の図に示すように、ツールバーの [検索] ボックスに検索したい語を入力し、[次を検索] [前を検索] ボタンを使用して前後に移動します。

クイックツアー

- Mac でプレビューを使用する場合は、以下の右側の図に示すように、パネルの検索ボックスに検索語を入力し、結果のリストをクリックして前後に移動します。



『リファレンス』は、別売の冊子としてもご用意しています。ご購入については、Sibelius 事業部（別添の『最新情報とテクニカルヘルプ』シートをご覧ください）にお問い合わせください。

ヘルプセンター

Sibelius の Web サイトには、無料のヘルプセンターがあり、質問と答えの検索が可能です。またその他の有益な資料は Sibelius を理解するのに役立ちます。www.sibelius.com/helpcenter（英語）にアクセスするかまたは、[ヘルプ] ▶ [ヘルプセンター] を選択してください。

テクニカルヘルプ

『リファレンス』やヘルプセンターを見ても問題が解決しない場合には、E メール、電話、ファックス、郵送などでサポートを受けることができます。詳細については、別添の『最新情報とテクニカルヘルプ』シートを参照してください。

コンピュータやプリンタ、サウンドカードなど、お手持ちのハードウェアや他のソフトウェアとの問題は、付属のマニュアルを確認することや、購入された販売店にご相談されることで、おおむねカバーできるでしょう。しかし、お使いになっているコンピュータやソフトウェアなどはすべての方が同じセッティングというわけではありません。場合によっては問題の原因がつかめないことも出てくるかも知れません。

アップデートを確認する

Sibelius では、最新情報の提供とプログラムの改良を随時行っています。使用上のヒントやノウハウ、各種ドキュメント、プラグインの提供、プログラムそのもののアップデートも含み、多くは無料で提供しています。90 日ごとに Sibelius プログラム上から、これらの情報が掲載されているウェブページへのアクセスについて、リマインダーでご案内していますが、[ヘルプ] ▶ [アップデートを確認する] から、いつでもアクセスすることができます。

90 日ごとの通知は、[ファイル] ▶ [環境設定]（Mac では [Sibelius] メニューにあります）の [その他] ページで、オン/オフを選択することができます。

ウェブリンク

Sibelius の [ヘルプ] メニューには、Sibelius 関連ウェブサイトへのリンクが設定されています。SibeliusMusic.com や SibeliusEducation.com、また関連ソフトウェアのウェブサイトとして Sibelius Sounds サンプルライブラリ、PhotoScore Ultimate、Sibelius Educational Suite などへ直接アクセスすることができます。

バージョン情報

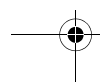
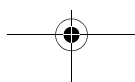
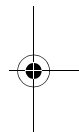
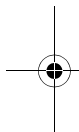
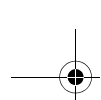
ご使用の Sibelius のバージョンを知るには、Windows では、[ヘルプ] メニューから、Mac では [Sibelius] メニューから、[バージョン情報] をご覧ください。

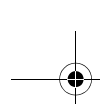
シリアル番号

Sibelius のシリアル番号は、Sibelius が起動するときの画面に表示されます（お名前、所属団体なども同時に表示されます）。[バージョン情報] ダイアログでも表示されます。シリアル番号が必要なときには、すばやく探すことができます（テクニカルヘルプを利用する際にはシリアル番号が必要です）。



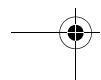
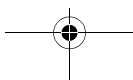
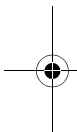
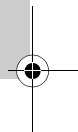
クイックツアー





How to

How to



How to

イントロダクション

Sibelius は、ソロバイオリンから大規模なオーケストラ編成まで、あらゆる種類の音楽の楽譜を作成することができます。『ハンドブック』では、「How to」というその名が示すように、最も一般的ないくつかの音楽記譜法を例にあげ、Sibelius でどのように楽譜を作成していくかを説明していきます。また、詳細について『リファレンス』のどこを参照すればよいのかもご案内します。

Sibelius は、あなたに代わって複雑な作業を行ってくれますが、一般的な記譜法や記譜ルール知識は知っておく必要があります。このセクションではいくつかのシンプルな例を示して、明快で読みやすく、プロフェッショナルなスコアに仕上げる方法をご紹介します。

「How to」の使い方

この章は「**基本的な記譜**」というあらゆる種類の音楽に共通した、記譜に関する基礎を学ぶリファレンスから始まります。このトピックに目を通すことから始めましょう。この『ハンドブック』の前半にある「**クイックツアー**」で説明されている拍子記号、調号、様々な種類のテキストなどを視覚的に思い出せる資料として役に立ちます。

このセクションの大部分は、コーラスや、バンド、オーケストラ、などの異なる種類のアンサンブル、そしてジャズ、古楽などの異なるジャンルの音楽に関連した内容です。また、エッセイや冊子などに引用するための楽譜例の作り方や、教育現場で使うワークシートの作り方に関するアドバイスなども記載されています。

基本的な記譜

■「テキスト」、「レイアウトとハウススタイル™」

このトピックに記載されているほとんどの内容は、この『ハンドブック』の前半にある「クイックツアー」で説明されています。クイックツアーをまだお読みになっていない方は、まず「クイックツアー」をお読みください。特に、操作が異なる他の楽譜作成ソフトに慣れていらっしゃる方は、「クイックツアー」をお読みいただかない場合、Sibelius の重要ないくつかの機能の存在に気付かないままになってしまうかもしれません。

テキストについて

曲のタイトルや作曲者、テンポなどのスコアの一番上に表記されるテキストや、拍子記号、調号は、[ファイル] ▶ [新規] ダイアログから新規のスコアを作り始める際に作成すると便利です。もちろん、あとから簡単に加えることもできます。

レイアウトとフォーマット

掲載した譜例では、クラリネットの譜表とピアノ右手パートの譜表の間隔が、反復記号の括弧や加線を含んだ音符を収めるために、通常の大譜表よりもわずかに広がっていることに注目してください。譜表間を広げるのは譜表を移動させることで簡単に行えます。『リファレンス』の  「7.9 譜表間隔」をご覧ください。

高度な記譜

■「カラーとグラフィックのインポート」、「グラフィックのエクスポート」、「記号の追加」

Sibelius では、複合連符、微分音や、「略記譜表」を含んだ高度な楽譜を作成することができます。掲載した譜例では、これらのいくつかの技法が示されています。サンプルスコア内の「記譜」フォルダにある「高度な記譜 1」と「高度な記譜 2」に多くの例があります。

フリーリズム

アバンギャルド音楽には拍子がないもの、または同時に異なる拍子記号を持つものがあります。『リファレンス』の 8.11 「2.11 フリーリズム」をご覧ください。

調号と拍子記号

スコアによっては、同じ大譜表内の異なる譜表に、異なる調号や拍子記号が使用されることがあります。『リファレンス』の 8.15 「2.15 調号」または「2.27 拍子記号」をご覧ください。

グラフィックスコア

楽譜が記譜の要素よりもグラフィックの要素が強いなら、スコアのページ全体または数ページを Sibelius からエクスポートして、グラフィックソフトで仕上げることができます。『リファレンス』の 8.11 「グラフィックのエクスポート」をご覧ください。

楽譜の大半が音符による記譜で占められていてもグラフィックな要素を含む場合、グラフィックを Sibelius にインポートするか（『リファレンス』の 8.4 「グラフィックのインポート」をご覧ください）、あるいは新しいシンボルを定義することもできます（『リファレンス』の 2.25 「シンボル」をご覧ください）。

How to

大きな拍子記号
2.27 拍子記号

微分音
2.1 臨時記号

コンダクターシンボル
2.25 シンボル

特殊なヘアピン
2.25 シンボル

略記譜表
2.23 シンボル

楽器の変更
2.14 楽器

主旋律指示記号
2.25 シンボル

複合拍子記号
2.27 拍子記号

羽根付きの連桁
2.5 連桁

ペダル記号
2.16 ライン

フレーム記譜
2.16 ライン

複合連音符
2.29 連音符 ...

音符のクラスター
2.25 記号

2.28 トレモロ

8.4 グラフィックのインポート

A. Fl.
Cl.
Vla.
Tba.
Pno.

4/4
5+4/8
4/4
5+4/8

p
smorzando
...like summer rain...
...upon the jagged
...of unforgiveness...

mute
slap keys
open, puff
...tr
...like summer rain...
...upon the jagged
...of unforgiveness...

HAMMER THE KEYS

look to eternity!

バンド

■ 「レンジ」、「譜表にフォーカス」、プロパティ、プロパティウィンドウの詳細」

詳しくは、「How to」の基本的な記譜（111 ページ）、ジャズ（125 ページ）（ビッグバンドなど）、オーケストラ（131 ページ）、パーカッション（135 ページ）をご覧ください。

ここでは広い意味で、木管楽器、金管楽器、パーカッションの組み合わせから成る各種のアンサンブル譜を指して、「バンド譜」と呼んでいます。

譜面用紙

Sibelius には、コンサートバンド、太鼓隊、ブラスバンド、ウィンドオーケストラなど様々な形態のアンサンブル用に、幅広い種類の譜面用紙が用意されています。また独自の譜面用紙を作成することもできます。『リファレンス』の 2.18 譜面用紙」をご覧ください。

楽器を追加するときには、[レイアウト] ▶ [楽器と譜表] ▶ [セクション] から [バンド楽器] を選択してください。適切な楽器が表示されます。追加した楽器は、自動的に標準のバンド譜表の順番に並べられます。

入力方法

「再入力しないでコピーする」これが、鉄則です。掲載した譜例を見ても、この種類の音楽ではダブルリングが多用されているのがわかります。一度音符を入力したら、他の譜表にコピーしたり、あるいはアレンジ機能を使ったりしましょう。『リファレンス』の 5.1 アレンジ ™」をご覧ください。
[表示] ▶ [譜表にフォーカス] では、そのときの作業に関係する数個の譜表だけを表示し、他の譜表を非表示にすることができます。こうするとその譜表の作業がやりやすくなります。『リファレンス』の 5.5 譜表にフォーカス」をご覧ください。

スコアの移調

[音符] ▶ [スコアを移調する]（ショートカットは **Ctrl+Shift+T** または **⇧⌘T**）、またはツールバーのボタンをクリックすることで、記譜音（移調譜）と実音表記をいつでも切り替えることができます。『リファレンス』の 5.17 移調」をご覧ください。

テクニック

「mute」などの演奏法の注記は、「テクニック」テキストスタイルを使用して入力する必要があります。

「テクニック」テキストスタイルを使用して入力する必要がある、バンド譜で使われるそのほかの演奏法注記には、次のものも含まれます。

- 「1 only、2 only」：オーケストラ譜において「1.」、「2.」、「a 2」などと同じ
- HOB（Hand over bell）：ベルを渡す
- Cuivré：ベルを手にする

楽器の持ち替え

「楽器の持ち替え」とは、同じ奏者が2つ（またはそれ以上）の楽器を持ち替えて演奏することを意味します。たとえばフルート3の奏者がピッコロに持ち替えるというような場合です。『リファレンス』の 2.14 楽器」をご覧ください。

How to

サンプルスコア

様々なバンド形態のサンプルスコアが用意されています。「スコア」フォルダ内の「バンド」フォルダをご覧ください。

一度音符を入力したあと、コピーしオクターブ単位で移調

2.15 調号と 2.27 拍子記号

3.8 リハーサルマーク

大きい用紙サイズ、小さい譜表サイズ
7.5 ドキュメントセットアップ

1つの譜表に複数の演奏者
2.14i 楽器

複数演奏者用の個別の譜表
2.14 楽器

スコアの移調
5.17 移調

「How To」の「パーカッション」と『リファレンス』の「2.21 パーカッション」

単一線譜表での、符尾を上向きに
2.24 符尾と加線

リピート開始線
2.3 小節線

オクターブ音部記号
2.8 音部記号

囲みテキスト
3 テキスト

楽器リスト:
Picc.
Fl. I
Fl. II
Obs.
Cl. I
Cl. II
Cl. III
Alto Cl.
B. Cl.
A. Sax I + II
T. Sax
Bar. Sax
Bass I + II
Hrn. I + II
Hrn. III + IV
Tpt. I
Tpt. II
Tbn. I
Tbn. II
B. Tbn.
Timp.
Perc. I
Perc. II
Glock.
Xyl.

合唱

基本的な記譜（111 ページ）もご覧ください。

■ 「音符の入力」、「記号の追加」、「レイアウトとハウススタイル™」、「テキスト」

譜面用紙

Sibelius の合唱用の譜面用紙には、1 譜表につき 1 歌手のもの（たとえば合唱における SATB（ソプラノ / アルト / テノール / バス）や、1 譜表に 2 歌手分のもの（たとえば合唱における簡略化した譜表）、またオルガンやピアノの伴奏譜付きのものなどがあります。これらの譜面用紙を使わずに白紙の譜面用紙から始める場合は、[ファイル] ▶ [新規] ダイアログで、[Vocal] のハウススタイルを選択してください。『リファレンス』の 2.18 譜面用紙をご覧ください。

歌詞

（譜例をご覧ください）

- 英語の歌詞を入力する方法については、『リファレンス』の 3.3 歌詞をご覧ください。
- ラテン語の歌詞を入力するには、新しいテキストスタイルを作成して使用します。新しいテキストスタイルは、「歌詞ライン 2」から編集して作成し、標準で使用するフォントをイタリックフォントに設定します（「歌詞ライン 2」は、「歌詞ライン 1」（英語の歌詞など）の直下に配置されるように設定されているので、それを生かします）。ラテン語の歌詞（2 行めの歌詞）をすべてイタリックフォントにする場合は、「歌詞ライン 2」のテキストスタイルそのものを変更してもかまいません。『リファレンス』の 3.10 テキストスタイルの編集をご覧ください。
- 必要に応じて、点線のスラーを使い（[作成] ▶ [ライン] ダイアログ）、ラテン語のフレーズ（歌詞の音節と音符の関係）をより明瞭にします（2 段目のアルトパートをご覧ください）。

歌詞 1 行を一度に選択する便利な機能を覚えておきましょう。[編集] ▶ [選択] ▶ [さらに選択]（ショートカットは **Ctrl + Shift + A** または **⌘ + ⌘A**）で行います。そのあと矢印キーを使って上下させたり、[レイアウト] ▶ [行で整列]（ショートカットは **Ctrl + Shift + R** または **⌘ + ⌘R**）を使用したり、または [プラグイン] ▶ [テキスト] ▶ [歌詞の整列] プラグインを使用したりして、歌詞を整列させます。

歌詞の 1 行をクリップボードにコピーし、別の譜表にペーストすることもできるので、合唱曲の歌詞を効率的に作成できます。ワードプロセッサから歌詞をコピーすることもできます。詳しくは、『リファレンス』の 3.3 歌詞をご覧ください。

Sibelius では、自動的に連符を付けたり、歌詞のフレーズに基づいてスラーを加えたり、クォーターションマークやアポストロフィをきれいな形にしたりといったプラグインも備えています。これらを利用することでも、効率的な入力ができます。『リファレンス』の 5.11 プラグインをご覧ください。

入力方法

音符のリズムがよく似ている複数のパートがある場合、たとえばソプラノの譜表に音符を入力したあとは、**Alt** + クリックまたは **⌘** + クリックで他の譜表にコピーし、譜表ごとに [音符] ▶ [音高の再入力] で音高を再入力するという方法が効率的です。『リファレンス』の 1.1 音符の入力をご覧ください。

ショートスコア（以下をご参照ください）を作成する場合は、フレキシタイムを使用してソプラノとアルトの声部を同時に入力したあと、アルトの音符を声部 2 に移動するという方法も効率的です（たとえば、フィルターを使って低音を選択し、**Alt+2** または **⌘+2** キーを押して、声部 2 に移動します）。

合唱

パートがさらに個別化されると、同一スコア内でパートを拡大し、すべての歌手用に個別に譜表を作成しなければならない場合があります（「オープンスコア」フォーマットと呼ばれることがあります）。SATBの合唱用の、このようなスコアを作成するには次のようにします。

- スコアに 6 パート分のボーカル譜表を作成します（[レイアウト] ▶ [楽器と譜表]、ショートカットは **I** キー）（このうちの 2 つはソプラノとバスのショートスコア用に作成し、残りの 4 つは個人パート用に作成します）。
- ショートスコアの譜表名をダブルクリックして名前を変更します。通常のパート名（フルネーム）と略称はそれぞれ別々に編集する必要があります。必要に応じて 2 つの声部を使ってショートスコアに音符を入力していきます。
- 『リファレンス』の  「2.29 声部」をご覧ください。
- 個別の譜表に分けたい場所に来たら、改行（『リファレンス』の  「6.4 ブレーク」）を行い、パートが分かれることを示す矢印を挿入してください（『リファレンス』の  「2.24 シンボル」）。
- [レイアウト] ▶ [空の譜表を非表示] 機能（ショートカットは **Ctrl + Shift + Alt + H** または  **H**）を使って、その場所から先のショートスコアの 2 パートを非表示にし、そして、その場所より前にある個々の譜表（オープンスコアの 4 パート）も非表示にします（『リファレンス』の  「6.1 レイアウトとフォーマット」）。

二重合唱

[レイアウト] ▶ [楽器と譜表] ダイアログで、第 1 コーラス隊のパートのまとまりと第 2 コーラス隊のパートのまとまりに分けてパートを作成します（パートの並び順を正しく配置してください）。それぞれのコーラス隊で使われるパート名が同じ名前でも差し支えありません。

二重合唱用のスコアでは、2 つのコーラス群が別々に分かれて書かれているセクションと、2 つのコーラス群の同じパートが並べて配置されるセクションとが交互に出てくる場合があります。2 つのコーラス群の同じパートが並べて配置されるセクション用には、第 1 コーラスの各パートにそれぞれもう 1 段の譜表を追加して第 2 コーラス用とし、最初に作成した第 2 コーラスのパートは非表示にします。逆に、ここで追加した譜表は、2 つのコーラス群が別々に分かれて書かれるセクションに切り替える時点で非表示にしてください。なお、このように譜表の構成が変わる場合、構成が変わる位置で改行を行わないと、1 行（段）内に両方の形式が混在してしまうのでご注意ください。

符尾のない音符

単旋律聖歌のような非韻律の音楽は、符尾のない音符が必要な場合があります。符尾なしにしたい音符を選択して、**Shift + Alt + 8** または  **8** を押すか、[プロパティ] ウィンドウの [音符] パネルからドロップダウンメニューで選択します。

ピアノリダクション（要約）の作成

- スコア内にピアノの譜表を作成し、[プロパティ] ウィンドウの [譜表] パネルで [小さい譜表] にチェックを入れます（『リファレンス』の  「5.14 プロパティ」）。
- 名前をダブルクリックして「Piano（リハーサルのみ）」などに変更します。
- 合唱の譜表をクリップボードにコピーし、ピアノの 2 つの譜表を選択し、そして [音符] ▶ [アレンジ]（ショートカットは **Ctrl + Shift + V** または  **V**）を選択し、適切なアレンジスタイル（たとえば「ピアノリダクション」など）を選択し、[OK] をクリックします。
- ピアノリダクションを行ったあとで、ピアノ譜表から歌詞を削除する必要があります（歌詞の文字を 1 つ選択し、[編集] ▶ [選択] ▶ [さらに選択]（ショートカットは **Ctrl + Shift + A** または  **A**）を選択し、**Delete** キーを押します）。

How to

アレンジ機能を使うことで、4人分の個別のボーカル譜を2つの譜表に要約したり（オープンスコアをショートスコアに）、あるいは2つの譜表を4人分にエクスプロード（展開）することもできます。アレンジの詳細については、『リファレンス』の  「5.1 アレンジ™」を参照してください。

インチピットの作成

（譜例をご覧ください）

- 仮の楽器を1つスコアに加えます（たとえば [ファミリー] の [その他] から [高音部譜表] など）。
- 符尾のない単旋律聖歌の書き方は以下をご覧ください。
- インチピットのための楽譜を書きます。
- 最初の小節の終わりにある小節線を選択し、[プロパティ] ウィンドウの [小節] パネルを開きます。そして譜表をインデントさせるために [小節前の空き] を **20** に設定します。
- 行の右側の中間の譜表ラインあたりをクリックすると、小さい紫色のハンドルが現れます。それを左にドラッグしインチピットを中央に置きます。詳細については、『リファレンス』の  「2.22 譜表」を参照してください。
- [レイアウト] ▶ [空の譜表を非表示]（ショートカットは **Ctrl + Shift + Alt + H** または **⌘+⇧+H**）を使って最初の行の他の譜表を非表示にします。
- [作成] ▶ [その他] ▶ [小節番号の変更] で、2行めの段の最初に、正しい小節番号で始まるよう小節1を設定します。

古楽

基本的な記譜（111 ページ）、合唱（117 ページ）もご覧ください。

■ 「譜表にフォーカス、プロパティ、プロパティウィンドウの詳細」、「記号の追加」

声楽譜

Sibelius には、中世の声楽曲に特に適した特殊な小節線があります（『リファレンス』の 2.3 小節線）。

- Palestrina（パレストリーナ）や Tye（タイ）のような作曲家の、対位法音楽の楽譜で使われるような定量記譜（譜表を上から下まで貫通しない譜表の間にある小節線）
- 単旋律聖歌で使われるティックや短い小節線

これらの小節線のサンプルは、「スコア」フォルダにある「合唱」フォルダの「古楽」のスコアをご覧ください。

前置き譜表

前置き譜表をスコアの最初に作成するには（変則的な小節として作成）、まず通常どおり、譜表に音符やシンボルを入力します。

次に、前置き譜表の終わりの小節線を選択し、[レイアウト] ▶ [ブレイク] ▶ [大譜表の分割] を選択します。次の小節の最初に音部記号と大括弧が挿入されます。前置き譜表と次の小節の空白を詰めるには、空白のあとにある小節線を選択して、[レイアウト] ▶ [位置のリセット]（ショートカットは **Ctrl + Shift + P** または **⌘⇧P**）をクリックします。

また、前置き譜表小節の前後の小節線を選択し、[プロパティ] ウィンドウ（『リファレンス』の 5.14 プロパティ）にある [小節] パネルで、音部記号、調号、括弧、また小節線自身の表示 / 非表示を切り替えることができます。前置き譜表のあとにある空白の大きさを、このパネルを使って数値で調整することも可能です。前置き譜表に続く、実質の最初の小節に、新しい音部記号や調号を作成する際は、[編集] ▶ [表示 / 非表示] ▶ [非表示] をオンに、拍子記号は [注記を許可] をオフにしてください。

「サンプルスコア」の「合唱」フォルダの中にある「教会音楽」というサンプルスコアには、このイラストが含まれています。

How to

Concertino piccolo

Edited by DR. HELMUT BRODOWSKI

GERONIMO ANONIMO (c. 1690-1703)

to be played:

[Grave]

f p

オッシア

2.23 譜表

弓記号 2.2 アーティキュレーション

前置き譜表
121 ページを参照

フィクタによる臨時記号
2.25 シンボル

数字付き低音
付き低音とローマ数字
3.5 数字

メトリックモジュレーション (拍節
単位の変更) 3 テキスト

キューサイズ (小さいサイズ) の
臨時記号 2.25 シンボル

ノッチ付きスタッカートで区切られたスラー
「2.16 ライン」、「2.25 シンボル」

テキストとして入力された括弧

キューサイズ (小さいサイズ)
の音符 2.10 キュー

音部記号、調号、
拍子記号の変更

装飾記号
2.25 シンボル

EDITORIAL COMMENTARY:
Source: The library of St. Turnip's College, Duxford; mss. DX47, verso 29.
Original notation (♩) have been halved; markings in brackets (and dashed slurs) are editorial additions.
All other markings are printed cue-sized.

テキストによる脚注
3 テキスト

ギター

「記号の追加」

記譜

テンポテキスト
3 テキスト

弦番号 2.25 シンボル、
2.16 ライン

6 連符
2.29 3 連符 ...

Andante larg

休符をまたいだ連符
2.5 連符

3つの声部
2.30 声部

フック付きのライン
2.16 ライン

アルペジオライン
2.16 ライン

How to

ギタータブ

すべてのギター記号はタブ譜と音符譜の両方に適切に表示されます。

3.4 コード記号

ワイドビブラート
2.13 ギターの記譜とタブ

多種の特別なライン
2.13 ギターの記譜とタブ

プリベンド
2.13 ギターの記譜とタブ

ベンドとリリース
2.13 ギターの記譜とタブ

スライド
2.13 ギターの記譜とタブ

上記の楽譜は「Ordinary World」からの抜粋です。著作権は Ryan Maziarsz および Philip DeStieger が所有しています。著作権は British Film Institute が所有しています。詳しい情報は www.progressivetranscriptions.com をご覧ください。

How to

譜面用紙

様々なギター譜やギタータブ譜の譜面用紙が用意されています。またご自分で作成することも可能です。『リファレンス』の  「2.18 譜面用紙」をご覧ください。

コードダイアグラム

「How to」の  「ボーカルとキーボード」を参照。

リズムの記譜

 符頭を表示しないで、5線譜にリズムだけを記譜したいときがあります。その方法は次の通りとおりです。

- 通常の方法で音符を入力します。
- 必要に応じて符尾を反転させます。音符を選択して **[編集] ▶ [反転]** (ショートカットは **X**) で反転させます。
- 音符を選択し **Shift + Alt + 7** または **⇧⇧7** キーを押して、符頭のないスタイルを選択します。

このような種類の記譜は、譜表の上側にあると、非常に読みやすくなります。したがって、上の例で示されたように、譜表の一番上のラインより上の場所に記譜するといいいでしょう。

タブ譜表の上にリズムを表示したい場合は、『リファレンス』の  「2.13 ギターの記譜とタブ」をご覧ください。

サンプルスコア

「サンプルスコア」フォルダ内の「その他」フォルダの「ギタータブ」や「ギタートリオ」をご覧ください。スライドや押弦の指示を含んだギター特有のサンプルスコアです。

リュートタブラチュア



最初の小節線を表記しないリュートタブラチュアの楽器

リズムは自動的に譜表の上側に表示されます

ダウランド独自のモルデント記号  2.25 シンボル

装飾付点  2.25 シンボル

『リファレンス』の  「2.17 リュートタブラチュア」に、リュートタブラチュアの作成に関する詳細があります。

ジャズ

「基本的な記譜（111 ページ）」、「バンド（115 ページ）」、「パート譜」、「リードシート（127 ページ）」、「オーケストラ（131 ページ）」をご覧ください。

■「音符の入力」、「アレンジ™」、「選択とコピー」

譜面用紙

ジャズのスコアを作成するときは、[ファイル] ▶ [新規] ダイアログの [Jazz] ハウススタイルから選択してください。[Jazz Inkpen2] は、Inkpen2 フォントの手書き風の外観がジャズやビッグバンドのスコアに最適なので特におすすめです。楽器を追加するときは、[セクション] で [ジャズ楽器] を選択します。追加した楽器の譜表は自動的に適切な順番の位置に配置されます。詳細については、『リファレンス』の 2.18 譜面用紙を参照してください。

入力方法

次のページにあるサンプルスコアでは、4 つ（1 つの譜表にそれぞれサクソフォン、トランペット、トロンボーン、ベース）がショートスコアで用意され、そして各譜表はアレンジ機能を使って、ビッグバンドの譜表へ適切に「エクスプロード（拡散）」されています。

アレンジ機能を使用して、様々なスタイルのアレンジを作成することができます。詳細については、『リファレンス』の 5.1 アレンジ™ を参照してください。

効率的な作業のヒント

- コード記号をきれいにレイアウトする便利な方法です。[編集] ▶ [選択] ▶ [さらに選択] で、行全体のコード記号を選択（ショートカットは **Ctrl + Shift + A** または **⌘A**）し、矢印キーを使ってそれらをすべて同時に移動することができます。また、[レイアウト] ▶ [行で整列]（ショートカットは **Ctrl + Shift + R** または **⌘R**）で整列させることができます。コピーを利用して効率よく入力する方法です。
- たとえば、ピアノやギターパートでスラッシュ付きの音符を、まず一つの小節を選択し、**Shift + Alt + 3** キーまたは **⌘3** キーを使って入力します。そして、複数コピーを使ったり、[編集] ▶ [リピート]（ショートカットは **R**）で続きの小節にコピーしてください。詳細については、『リファレンス』の 1.6 選択とパッセージを参照してください。
- 異なるパート譜で同じパッセージが使われている場合（ダブリング）、オクターブが異なってもコピーを利用したほうが効率的です。
- 音高の再入力、同じリズムの別パート譜への入力方法として、一番速い方法です。詳細については、『リファレンス』の 1.1 音符の入力を参照してください。

ジャズスコアの再生

ジャズのスコアを再生すると、しばしば「空白」のように聞こえますが、これはスコアの大きなセクションが、アドリブソロのために空けられているからです。「フレキシタイム」を使って、新たなパートでアドリブソロを演奏し、スコアに入力してみてください。そのあと、[編集] ▶ [表示 / 非表示] ▶ [非表示] で、入力したアドリブソロのパートを非表示にしてみてください。

あるいは、アドリブや演奏の新たなパート譜を作成し、[譜表にフォーカス] を使って、そのパート譜を非表示にしてみてください。詳細については、『リファレンス』の 5.5 譜表にフォーカスを参照してください。

リードシート

基本的な記譜（111 ページ）もご覧ください。

■「譜表にフォーカス、プロパティ、プロパティウィンドウの詳細」、「テキスト」

リードシートとは、歌のメロディー、コード記号、歌詞だけを表示した 1 つの譜表からなるスコアで、一般的にはジャズでよく使用されますが、ポップスなど商業的な音楽の表現でも多く見られます。

なぜなら、リードシートは伝統的に手書きされることが多く、他の記譜法と異なる慣習を使用します。たとえば、調号や拍子記号を最初の譜表にだけ表記し、他の譜表は通常の小節線で始めます。

譜面用紙

リードシートを書くためには、「リードシート」譜面用紙を使います。便利なオプションがすでに設定されています。

ハウススタイル

Sibelius には Inkpen2 と Reprise という 2 つの手書きスタイルのフォントファミリーが用意されています（掲載した譜例では Reprise を使用しています）。Inkpen2 または Reprise をハウススタイルとしてインポートして試してみてください。

非表示の調号と拍子記号

最初の譜表以外の調号と拍子記号を非表示にするには、最初の譜表内で適切な楽器の変更を作成します。

- ・ 調号と拍子記号を非表示にしたい譜表の小節を選択し、[ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] を選択します。
- ・ [新規の楽器] をクリックし、選択した楽器に基づいて新しい楽器を作成するかどうかを求められたら、[はい] を選択します。
- ・ 表示された [新規の楽器] ダイアログで、名前を任意に変更すると、対象の楽器を検索できます。
- ・ [譜表タイプの編集] をクリックします。
- ・ [一般] ページで、[先頭の音部記号] と [調号] をオフにします。
- ・ [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして、[閉じる] ボタンを押します。
- ・ [作成] ▶ [その他] ▶ [楽器の変更] から新規の楽器を選択し、スコア内をクリックして楽器の変更を作成します。

音部記号および調号は、そのあとの譜表から消えます。この操作では、すべての調号を無効にしてしまうので、不必要な臨時記号が現れることがあります。

伴奏を非表示にする

[表示] ▶ [譜表にフォーカス] を使って、リードシートの伴奏譜表を非表示にすることができます。「サンプルスコア」フォルダにある「ジャズ」フォルダの中の「リードシート」のサンプルをご覧ください。

How to

「左上の楽器名」テキスト
スタイルによるテキスト

CONCERT

Just Wastin' Time

テキストフォント 3.10
テキストスタイルの編集

"ITCHY" PETE MILLIGAN

SWING (♩ = 200)

1 番括弧
2.16 ライン

音部記号と調号のない楽器への変更
(127 ページを参照)

5 AM7 D° 1. GM/B♭ F13

9 2. D° A F13(♭9) B♭AUG(♯A7)

ビブラート
2.16 ライン

羽根付きリビート
2.3 小節線

13 C(ADD9) F7sus4 DM9/♯ G△

3.8 リハーサルマーク

単一譜表での大譜表の最初の
小節線 2.3 小節線

8 F(ADD9) F13(♭9) B♭AUG(♯A7) B° CM7

3.4 コード記号

21 C(ADD9) F7sus4 F♯° GM7sus4 DM9/♯ G△

自動レイアウトによる、1 行
に 4 つの小節のレイアウト
7.3 自動レイアウト

F(ADD9)

行の途中で終了する譜表
2.23 譜表

譜例

基本的な記譜（111 ページ）もご覧ください。

■「レイアウトとハウススタイル™」、「グラフィックのエクスポート」

Sibelius を使って、すばやく簡単に、他のソフトで作成されたドキュメント中に掲載する譜例を準備することができます。この『ハンドブック』の譜例のすべては、Sibelius を使って作成されました。

余白

譜表は常に左から右の余白まで十分にページいっぱいに広がりますので、短いサンプルでは音符間の間隔が広がります。サンプルの音符間隔を狭くして見やすい譜表にするには、[レイアウト] ▶ [ドキュメントセットアップ] ダイアログ（ショートカットは **Ctrl + D**、または **⌘ D**）で右の余白を広く設定してください。『リファレンス』の 7.5 ドキュメントセットアップ をご覧ください。また、行（段）の右側のインデントについては、『リファレンス』の 2.23 譜表 をご覧ください。

「譜例」での特殊な処理

「譜例」で、ページ番号や小節番号を非表示にするには『リファレンス』の 3.6 小節番号 と「3.7 ページ番号」、小節線を非表示にするには『リファレンス』の 2.3 小節線 を、また、楽器を修正することによって最初的小節線を非表示にするには『リファレンス』の 7.12 楽器の編集 をご覧ください。

長さを固定しない小節を使用したい場合は、『リファレンス』の 2.4 休符と小節休符 と「2.11 フリーリズム」を、特別な符頭を使用したい場合には『リファレンス』の 2.20 符頭 をご覧ください。

テキストとフォントの注記および分析

スコアは以下のさまざまな方法で注記したり分析できます。たとえば、次のようになります。

- [プラグイン] ▶ [分析] ▶ [シェンカー理論の音度を追加] を使用して、各音符の上または下に音階の音程差を加えます（『リファレンス』の 5.11 プラグイン を参照）。
- [作成] ▶ [テキスト] ▶ [その他の譜表テキスト] ▶ [機能シンボル] を使用して、機能分析を書き込みます（『リファレンス』の 3.5 数字付き低音とローマ数字 を参照）。
- [作成] ▶ [テキスト] ▶ [その他の譜表テキスト] ▶ [ローマ数字] を使用して、和音の分析を書き込みます（『リファレンス』の 3.5 数字付き低音とローマ数字 を参照）。

グラフィックファイルのエクスポート

Sibelius は、ビットマップや EPS などの、様々なグラフィックフォーマットで、譜例をエクスポートすることができます。どのフォーマットを使うかについては、エクスポートされた譜例を使用するプログラムが対応しているフォーマットを選択してください。また、スコア中の特定部分を選択してコンピュータのクリップボードにコピーしたあと、コピー先のアプリケーションに切り替えて直接貼り付けることもできます。詳細については、『リファレンス』の 8.11 グラフィックのエクスポート を参照してください。

How to

Sibelius からインポートされた
譜例を配置したワードプロセッ
サー文書のページ

A comparative analysis of Beethoven slow movements and Brahms's 'Ein deutsches Requiem'

adipiscing elit, sed diam nonummy nibh euismod tincidunt ut laoreet dolore magna aliquam
erat volutpat. Ut wisi enim ad minim veniam, quis nostrud exerci tation ullamcorper suscipit
lobortis nisl ut aliquip ex ea commodo consequat. Duis autem vel eum iriure dolor in hendrerit
in vulputate velit esse molestie consequat, vel illum dolore eu feugiat nulla facilisis at vero eros
et accumsan et iusto odio dignissim qui blandit praesent luptatum zzril delenit augue duis
dolore te feugait nulla facilisi.

小節番号を付けない
2.3 小節番号

非表示の小節線
2.3 小節線

2つの声部
2.30 声部

カスタマイズした
ライン
2.16 ライン

点線のスラー
2.22 スラー

整列されたテキスト
とライン

3.5 数字付き低音と
ローマ数字

点線の小節線
2.3 小節線

キューサイズ (小さ
いサイズ) の声部 2
2.10 キュー

小さいテキスト
3.1 テキストの作成と編集

フック付きのライン
2.16 ライン

右側のインデント
2.23 譜表

84

オーケストラ

「基本的な記譜（111 ページ）」、「バンド（115 ページ）」、「パート譜（83 ページ）」、「パーカッション（135 ページ）」もご覧ください。

■「アレンジ™」、「レイアウトとハウススタイル™」

譜面用紙

オーケストラ用スコアの作成を始めるときは、Sibelius のオーケストラ用譜面用紙の 1 つを選んで使用してください。これらには、オーケストラ譜を作成するために必要な設定がテンプレートとして用意されています。楽器編成が少し違う場合は、[ファイル] ▶ [新規] から新規に譜表を作成したり、またはテンプレートを開いたあとから、[作成] ▶ [楽器] ダイアログで、使用する楽器を追加したり、削除することが簡単にできることを覚えておいてください。[セクション] で [オーケストラ楽器] を選ぶと、標準的なオーケストラの配列に自動的に配置されます。『リファレンス』の 2.18 譜面用紙」をご覧ください。

スコアの移調

[音符] ▶ [スコアを移調する]（ショートカットは **Ctrl+Shift+T** または **⌘⇧T**）、またはツールバーのボタンをクリックすることで、記譜音（移調譜）と実音表記をいつでも切り替えることができます。『リファレンス』の 2.14 楽器」をご覧ください。

ページと譜表サイズ

オーケストラの楽譜は A3 またはタブロイド用紙に印刷されるのが一般的です。理想的な譜表サイズはページの譜表数によって変わります。『リファレンス』の 7.5 ドキュメントセットアップ」をご覧ください。

アレンジ

Sibelius のアレンジ機能を利用すると、たとえばピアノスコアからオーケストラスコアに展開するといったようなことが効率的に行えます。『リファレンス』の 5.1 アレンジ™」をご覧ください。

コピー

譜例では、木管楽器パートの最初の数小節で、オクターブ違いの同じパッセージが使われています。このような場合は、1 つのパート譜に音符を入力し、あとはコピーして、オクターブ分移調してください。

大きなアンサンブルで、効率よく楽譜を作成するための秘訣は、再入力操作を最小限にすることです。**Alt** + クリックまたは **⌘** + クリックを使って、リズムやパッセージをコピーしてください。必要な場合は、そのあと音高を再入力します。『リファレンス』の 1.1 音符の入力」をご覧ください。

[表示] ▶ [譜表にフォーカス] では、そのときの作業に関係する数個の譜表だけを表示し、他の譜表を非表示にすることができます。こうするとその譜表の作業がやりやすくなります。『リファレンス』の 5.5 譜表にフォーカス」をご覧ください。

楽器の持ち替えと奏者

「楽器の持ち替え」は同じ奏者が、たとえばフルート 3 とピッコロのように 2 つ（またはそれ以上）の楽器を演奏することを意味します。2 人の演奏者用に楽譜を書く場合には、同一譜表上（複声部を使用）に書く方法もありますし、それぞれ個別の譜表に書く方法もあります。『リファレンス』の 2.14 楽器」をご覧ください。

How to

サンプルスコア

「スコア」フォルダにある「オーケストラ」フォルダ中のスコアをご覧くださいと、さらにいろいろなヒントが得られるでしょう。

The image shows a sample orchestral score with various musical staves and callouts pointing to specific features:

- ヘアピン** **2.16 ライン**: Points to a hairpin line on the Flute staff.
- 3.8 リハーサルマーク**: Points to a rehearsal mark on the Flute staff.
- テクニクテキスト** **3.1 一般的なテキストスタイル**: Points to a technical text box on the Flute staff.
- 2.8 音部記号**: Points to a dynamic marking on the Flute staff.
- 1つの声部** **2.30 声部**: Points to a dynamic marking on the Flute staff.
- 2つの声部** **2.30 声部**: Points to a dynamic marking on the Flute staff.
- 特別な移調** **7.12 楽器の編集**: Points to a key signature change on the Flute staff.
- 副括弧** **2.6 括弧と大括弧**: Points to a bracket on the Flute staff.
- 自動的に繰り返し表示されるリハーサルマークとテンポテキスト** **7.7 ハウススタイル™**: Points to a rehearsal mark and tempo text on the Flute staff.
- 2.21 パーカッション**: Points to a percussion staff.
- 弓記号** **2.2 アーティキュレーション**: Points to a bowing symbol on the Violin staff.
- 他の言語による楽器名** **2.14 楽器**: Points to an instrument name on the Violin staff.

パート譜

「基本的な記譜（111 ページ）」、「バンド（115 ページ）」、「ジャズ（125 ページ）」、「オーケストラ（131 ページ）」もご覧ください。

Sibelius は、パート譜のレイアウトとフォーマットをスコアから自動的に作成し、スコアでの修正もリアルタイムにパート譜に反映させます。詳細については、『リファレンス』の  「6 ダイナミックパート™」を参照してください。

 「ダイナミックパート™」

複数の演奏者用のパート譜

大きなスコアでは、1 つのパート譜を、たとえば「Flutes 1 & 2」のように、複数の演奏者用に作成する場合があります。詳細については、『リファレンス』の  「6.4 パート譜の作成」を参照してください。

複数の演奏者用の記譜の詳細については、『リファレンス』の  「2.14 楽器」を参照してください。

1 人の演奏者による複数の楽器

1 人の演奏者が、曲の途中で別の楽器に持ち替えて（たとえばアルトサクソフォンからフルートになど）演奏するようなパート譜を作成する場合があります。詳細については、『リファレンス』の  「2.14 楽器」を参照してください。

入力方法

スコアでオブジェクトを作成、削除したり、音符のピッチを変更したりすると、パート譜でも同じ変更が自動的に反映されます。ただし、パート譜で音符やコード以外のものを移動した場合には、スコアには反映されません。これは、楽譜作成の最終段階で、スコアのレイアウトには影響を与えずに、パート譜のレイアウトを微調整できるようにするためです。したがって、一般的には最初にスコアを作成し、最終調整の過程で、パート譜内のオブジェクトの位置を微調整するのが良い方法です。

オブジェクトの非表示

あるオブジェクトを、パート譜では表示させたいがスコアでは表示させたくない場合、あるいはその逆の場合、**[編集] ▶ [表示 / 非表示] ▶ [パート譜 / スコアに表示]** で設定することができます。詳細については、『リファレンス』の  「5.6 オブジェクトの非表示」を参照してください。

How to

パート譜に自動表示される楽器
パート名

Trumpet 1 in F

CONCERTO
for bassoon and orchestra, Op. 75
CARL MARIA VON WEBER

Allegro ma non troppo

f

自動インデント 6.3 複数の
パートの概観

18

31

40

6

Solo bsn.

「H-bar」表示スタイルの
マルチレスト（他の表示
スタイルも利用可能）
2.19 マルチレスト

13

f

リハーサルマークでの自
動改行 7.3 自動レ
イアウト

17

30

112

Solo bsn.

ff

自動表示される予告の音部
記号 2.8 音部記号

キューパッセージ（小さな音符表記パッセージ）
（スコアでの非表示も可能） 2.10 キュー

128

4

23

24

5

Solo bsn.

186

f

自動改ページ
7.4 自動レイアウト

パーカッション

基本的な記譜（111 ページ）、バンド（115 ページ）もご覧ください。

■ 「音符の入力」、「記号の追加」

符頭

パーカッション譜表では、たくさんの異なるタイプの符頭が使用されますが、Sibelius では、一般的に必要なとされるすべての符頭タイプを網羅しています。『リファレンス』の 2.20 符頭をご覧ください。

シンボル

[作成] ▶ [シンボル]（ショートカットは **Z**）には、幅広い種類のパーカッションのシンボルが用意されています。有名な Ghent™ フォントに含まれるほとんどのシンボルや、様々な（主としてピッチ付きの）パーカッション楽器、そしてスティックやビーターなどが含まれます。『リファレンス』の 2.25 シンボルをご覧ください。

フラム、ドラッグ、ロール

これらの一般的なドラム記譜のすべては装飾音符（『リファレンス』の 2.12 装飾音符をご覧ください）、トレモロとバズロール（『リファレンス』の 2.28 トレモロをご覧ください）を使用して表されます。

ドラムセットの定義

Sibelius のドラムセット（キット）のマッピング（すなわち、パーカッションサウンドを決定する符頭タイプとその譜表上の位置の組み合わせ）を変更することができます。『リファレンス』の 2.21 パーカッションをご覧ください。

サンプルスコア

ドラムセット（キット）の記譜については、[サンプルスコア] フォルダ内の [その他] フォルダにある [ビックバンド] や [ジャズ] スコアをご覧ください。また、さまざまなピッチ付きまたはピッチなしのパーカッション楽器については、[オーケストラ] フォルダにある [サクソコンチェルト] スコアをご覧ください。

How to

The image displays a musical score for percussion instruments, including Timp., S. D., Cym., Xyl., Mar., and Tam-tam. The score is annotated with various musical symbols and callouts in Japanese, each linked to a specific section of the score. The callouts include:

- スネアのフラム** (Snare roll) - 2.12 装飾音符 (Decorative notes)
- リピート小節** (Repeat measure) - 2.3 小節線 (Measure line)
- 3.8 リハーサルマーク** (3.8 Rehearsal mark)
- 符尾の向きの反転** (Reversal of note tail direction) - 2.24 符尾と加線 (Note tail and ledger line)
- 響きを止めないタイ** (Tie that doesn't stop the sound) - 2.25 シンボル (Symbol)
- 囲みテキスト** (Grouped text) - 3 テキスト (Text)
- スティック記号** (Stick symbol) - 2.25 シンボル (Symbol)
- ロール** (Roll) - 2.28 トレモロ (Tremolo)
- 最後の小節をリピート** (Repeat the last measure) - 2.4 小節と小節休符 (Measure and measure rest)
- 楽器の変更** (Instrument change) - 2.23 楽器 (Instrument)
- 楽器の持ち替え** (Instrument change) - 2.14 楽器 (Instrument)
- 2つの声部** (Two parts) - 2.30 声部 (Part)
- rub beater in circular motion** (rub beater in circular motion)
- 2.25 シンボル** (2.25 Symbol)
- 2.16 ライン** (2.16 Line)

The score includes various musical notations such as *repeat ad libitum*, *to tam-tam*, *f to the fore*, *sub p*, and *f*. The instruments are listed on the left side of the score: Timp., S. D., Cym., Xyl., Mar., and Tam-tam.

ピアノ、オルガン、ハープ

ピアノ、オルガン、ハープ

基本的な記譜（111 ページ）もご覧ください。

■「テキスト」、「記号の追加」

ピアノ

3.7 ページ番号

ヘッダー 3.1 テキスト

追加譜面上 2.23 譜表

94 L.H. p

テクニック 3.2 一般的なテキストスタイル

ペダル記号 2.16 ライン

標準設定ではない 2.5 連桁

注記のナチュラル記号 2.16 調号

右手 / 左手指示のための括弧 2.16 ライン

譜表をまたぐ音符 2.5 連桁

運指 3.2 一般的なテキストスタイル

声部の流れを示すライン 2.16 ライン

譜表をまたいだ和音 2.5 連桁

How to

ハープ

プレクトリックサウンド（指の爪で演奏） 2.25 シンボル

グリッサンド 2.16 ライン

2つの和音のトレモロ（ビズビリャンド） 2.28 トレモロ

35 ff mp ff

ペダルダイアグラム 139 ページ参照

倍音（ハーモニクス） 2.2 アーティキュレーション

ノッチ間でペダルを踏む、金属的なサウンド 2.25 シンボル

ペダルの変更 3 テキスト

発想記号テキスト 3.2 一般的なテキストスタイル

How to

オルガン

テクニックテキストによるレジストレーション表記
 — 3.2 一般的なテキストスタイル

G. Fonds 4. 8. 16.
 P. Fonds 4. 8. 16.
 R. Fonds 4. 8.
 P. Fonds 4. 8. 16. 32.
 Tous les claviers accouplés sur G.

Prelude « Mal de tête »

自動表示 2.27 調号

CLAUDE LE BRUIT (b. 1922)

Avec intensité (♩ = 140)

Organ

p *f* *p* *f*

Ped.

ff

ペダル記号
 2.25 シンボル

5 *solo Sw.*

Ch. *mf*

8

cresc. poco a poco

オクターブライン
 2.16 ライン

譜表間の強弱記号
 3 テキスト

複数の拍子記号を交互に使用する
 2.27 調号

自動表示

レジストレーション
 3 テキスト

非表示の連音符
 2.29 連音符 ...

17 *ff*

Plus tranquille

p

simile

R. anches 4. 8. 16.

音部記号の変更
 2.8 音部記号

複縦線
 2.3 小節線

譜表をまたぐ連桁
 2.5 連桁

ピアノ、オルガン、ハープ

譜面用紙

ピアノ用には、適切な再生設定や楽器名のフォーマットなど、たくさんの便利なオプションが設定されている、**ピアノ**用に用意された譜面用紙をお使いください。あるいは、白紙の譜面用紙から始める場合は、[ファイル] ▶ [新規] で、[Keyboard] ハウススタイルの1つを選んでください。詳細については、『リファレンス』の  「2.18 譜面用紙」を参照してください。

サンプルスコア

Sibelius には、多くのピアノスコアが含まれています。「サンプルスコア」フォルダ内の「その他」フォルダから「ピアノスタディ」を、また、「再生」フォルダから「リストエスプレッシーボ」を試してみてください。

ハープのペダルダイアグラムが使われている例としては、「サンプルスコア」フォルダ内の「オーケストラ」フォルダにある「サクソコンチェルト」を開いてみてください。

ハープペダルダイアグラム

ハープの楽譜は、ペダルポジションの指示が記載されることがよくあります。一般的にこれらは囲みテキスト（『リファレンス』の  「3.2 一般的なテキストスタイル」）、またはハープペダルダイアグラムで書かれます。

ハープペダルダイアグラムを入力するには、[テクニク] テキストを入力する状態（ショートカットは **⌘T** または **Ctrl+T**）にし、ナチュラル、シャープ、フラットの垂直線のシンボルを、それぞれ **Ctrl+Alt+7/8/9/+** または **⌘7/8/9/+**（7/8/9/+ はテンキー）で入力します。またテクニクテキストの用語メニュー（テキストの作成中に右クリック（Windows）または **Control** + クリック（Mac））からも入力できます。

 これらの記号は、D C B E F G A の順番でペダルの位置を示し、B のあとには垂直線が置かれます。このようにダイアグラムは8つの記号で構成されます。水平ラインの上のノッチがフラットを意味し、下のノッチがシャープを意味します。掲載したイラストのペダルダイアグラムでは、D $\flat$ 、C、B $\sharp$ 、E $\sharp$ 、F $\flat$ 、G $\flat$ 、A $\sharp$ を表しています。

C $\sharp$ 、**D $\flat$** 、**E $\sharp$** のようなハープペダルのテキストは、[テクニク] テキストまたは[囲みテキスト]で入力します。臨時記号は、**Ctrl** または **⌘+** テンキーで入力します。ペダル設定の（時間的な）長さを示す必要がある場合には、[歌詞ライン 1] テキストスタイルを使い、**C $\sharp$ _____**のように入力してください。

Sibelius では、自動的にスコアに適切なハープペダルを加えたり、スコアに記載されているハープペダルの注記が実際の音符と正確に呼応しているかどうかをチェックしたりすることができます。詳細については、「ハープペダリングを追加」および、『リファレンス』の  「5.11 プラグイン」の「ハープペダリングのチェック」プラグインを参照してください。

How to

ボーカルとキーボード

基本的な記譜（111 ページ）もご覧ください。

■「テキスト」

譜面用紙

ボーカルとキーボード用スコアの作成を始めるときは、便利なオプションがあらかじめ設定されている「ボーカル+キーボード」の譜面用紙をお使いください。『リファレンス』の 2.18 譜面用紙をご覧ください。

リピート

スコア内で、どのようにコーダやその他のリピートを設定するかについては、『リファレンス』の 4.4 リピートをご覧ください。

The Road Of Life

Words by: Diana Strawberry-Jam
Music by: Peter Bramblejelly

Lively, with hope ♩ = 100

mf

1. O when you

5 (for v3 see block lyric)

walk a-long the road of life, you don't know where it will
walk a-long a- lon of life, it could

2つの歌詞番号の歌詞
3.3 歌詞

ボーカル手書き風ハウススタイル
7.7 ハウススタイル™

楽器名は不要のため非表示。最初の小節線をドラッグしてインデントされた譜表。

カスタムフォント 3.10
テキストスタイルの編集

歌詞番号の書き入れ
3.3 歌詞

2.7 コードダイアグラム

テクニックテキスト
3.2 一般的なテキストスタイル

Dm G Am F#m C/G G7 F/C C

ボーカルとキーボード

1 番括弧
2.16 ライン

2 番括弧—
2.16 ライン

3.6 小節番号

11

1.

2. + 3.

f

as what you might need. 2. For when you side! It's

right at your

C/G G7 F/C C F/C C

リピート終止線
2.3 小節線

特殊なリピート形式
4.4 リピート

リピートテキスト
3.2 一般的なテキストスタイル

18

3rd time to coda

D.C. al coda

Je - sus, it's Je - sus, He makes the nar-row wide! 3. So now you

F G Am7 C/E F6/D G7 F/C C

複縦線
2.3 小節線

How to

How to

コーダ  4.4 リピート

終止線
 2.3 小節線

ブロック歌詞
 3.4 歌詞

著作権表示
 3.2 一般的なテキストスタイル

CODA

narrow wide!

f non rall.

1. O when you walk along the road of life,
 you don't know where it will lead;
 and when you walk along the road of life,
 you don't know what you might need.

2. For when you walk along that road of life,
 it could be narrow or wide,
 and so you make it down the road of life,
 there's someone right at your side.
 It's Jesus, it's Jesus,
 The Prince of Life by your side!
 It's Jesus, it's Jesus,
 He makes the narrow wide!

3. So now we walk along this road of life,
 A new road every day,
 And as we walk along this road of life,
 We praise God and we say:
 It's Jesus, it's Jesus, (etc.)

© 2001 Gospel Songs Ltd. All rights reserved. Don't bother copying this music... it's not worth it.

ワークシート

基本的な記譜（111 ページ）もご覧ください。

■「ワークシートクリエイター™」

ワークシートクリエイター

広範な領域をカバーするワークシートクリエイター機能（『リファレンス』の ■ 「5.21 ワークシートクリエイター」をご覧ください）は、幾千ものワークシートや練習問題、ポスター、教材用のカード、参考資料などの教材を、あらゆるレベルの生使用に提供します。したがって、ワークシートを作成する際は、オリジナルで作成する前に、ワークシートクリエイターの意図に合うワークシートがないか、あるいは少し手を加えるだけで使えるものがないかを、ぜひ確認してみてください。

意図したワークシートが見つからない場合は、ワークシートクリエイターのテンプレートを利用してください。さまざまなフォーマットの広範囲なテンプレートが用意されています。テンプレートの空の小節に音符などを入力していくだけでワークシートを作成することができます。このことだけでもかなりの時間を節約できますので、使えるテンプレートがある場合は、1 からオリジナルのワークシートを作成するのではなく、ぜひテンプレートを利用してください。

テンプレートを利用するには、[ファイル] ▶ [ワークシートクリエイター] から表示されるダイアログで [テンプレート] を選択し、[次へ] をクリックします。テンプレートのリストがダイアログの左に表示されます。

新規ワークシートの作成

テンプレートを使わずに、新規ワークシートを作成したい場合は、Sibelius のレイアウトツールを使った作業方法を知っていなければなりません。Sibelius のレイアウトツールを使った主な作業としては、譜表間隔の調整（通常譜表をページ内で上下させます）や、改行または改ページ（『リファレンス』の ■ 「7.4 ブレーク」をご覧ください）、また、行（段）の左端や右端をドラッグしてのインデント（『リファレンス』の ■ 「2.23 譜表」をご覧ください）などがあります。

一般的に、新規ワークシートを作成する場合は、次のようにします。

- 白紙のスコアに楽器を追加することから始めます。たとえば、[その他] ファミリーの [高音部譜表] / [低音部譜表] 楽器を使用します。
- 小節を作成し、配置します。
- 不要な小節を非表示にします。
- 最後にテキストを加えます。

譜表の垂直位置を調整するには、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール]（ショートカットは **Ctrl + Shift + E** または **⌘⇧E**）ダイアログの [譜表] ページで、[ページが n% 埋まった時、譜表を調整] を 100% に設定します。詳細については、『リファレンス』の ■ 「7.1 レイアウトとフォーマット」および「7.9 譜表間隔」を参照してください。

How to

単純テキスト  3.2 一般的なテキストスタイル

用意されているワークシートテンプレートに基づき作成

Harmony & Counterpoint Worksheet 12

Name: _____

Date: _____

1. Complete the harmonic analysis of the following chorale by J.S. Bach:

改行  7.4 ブレーク



楽器名を非表示
 2.14 楽器

2. Complete the missing voices in the following two phrases:



譜表をドラッグして譜表
間隔を拡大

逆向きの符尾
 2.24 符尾と加線

行（段）をインデント  2.23 譜表

3. Continue the following two-part invention texture for 8 bars:



前の大譜表の最後には
注記の調号や拍子記号
を付けない

改行  7.4 ブレーク

小節番号を付けない
 3.5 小節番号

小節休符を削除
 2.4 休符と小節休符

ワークシート

譜表の非表示

たとえば行（段）の一部を非表示にするには、楽器の変更を **〔楽器なし（非表示）〕** に設定します。
この例については、「高度な記譜（113 ページ）」をご覧ください。

楽器の変更の使用方法的詳細については、『リファレンス』の  「2.14 楽器」を参照してください。

自由形式のテキスト

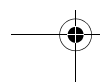
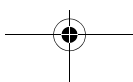
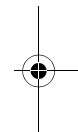
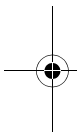
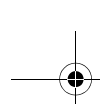
〔作成〕 ▶ **〔テキスト〕** ▶ **〔その他の譜表テキスト〕** ▶ **〔単純テキスト〕** を使って、ページのどの位置にもテキストの入力が可能です。テキストをマウスでドラッグして移動させることもできます。

ワークシートの再利用

ご自身で作成したワークシートをワークシートクリエーターに追加登録しておくこともできます。採点のための解答用紙やランダム問題のオプションも含めることができます。詳細については、『リファレンス』の  「5.22 オリジナルのワークシートを追加する」を参照してください。



How to



索引

この索引は、『ハンドブック』だけのものです。『リファレンス』には、Sibelius の機能に関する索引がもっと多く含まれています。この『ハンドブック』の索引で見つからない場合は、『リファレンス』を参照してください。

数字

- 1 番括弧.....「1 番括弧と 2 番括弧」を参照
- 1 番括弧と 2 番括弧.....「ライン」を参照
- 15va.....「ライン」を参照
- 2 番括弧.....「1 番括弧と 2 番括弧」を参照
- 2 連符.....「連音符」を参照
- 3 連符.....67
- 5 連符.....「連音符」を参照
- 6 連符.....「連音符」を参照
- 7 連符.....「連音符」を参照
- 8va.....「ライン」を参照

C

- CD
 - 作成.....97

F

- Finale ファイル.....96

I

- Inkpen2 フォント.....125

K

- Kontakt Player 2.....42

M

- Mac での MIDI セットアップ.....28
- MIDI インターフェイス.....26, 29
- MIDI スルー.....72
- MIDI 入力.....「入力」を参照
- MIDI のセットアップ.....25
- MIDI ファイル.....96

O

- OCR.....「スキニング」も参照

P

- PhotoScore.....「スキニング」も参照

S

- Scorch.....85
- Sibelius Sounds Essentials.....42
- Sibelius のアンインストール
 - Mac.....19
 - Windows.....15

Sibelius の再インストール

- Mac.....18
- Windows.....14
- Sibelius の再インストール.....23
- Sibelius の別コンピュータへの移動.....24
- Sibelius リファレンス.....「リファレンス」を参照
- SibeliusEducation.com.....85

あ

- アーティキュレーション.....55
- アイデア.....77
- キャプチャ.....79
- アクセント.....「アーティキュレーション」を参照
- アツチェランド.....「ライン」を参照
- アップデートを確認する.....106
- アバンギャルドな表記.....113
- アルファベット入力.....58
- アレンジ.....80, 82

い

- 移調楽器.....81
- 移調スコア.....38, 81
- 異名同音.....「臨時記号」を参照
- 色

- オブジェクト.....101
- 印刷.....48

インストール

- PhotoScore Lite
 - Mac.....18
 - Windows.....14
- Scorch
 - Mac.....18
 - Windows.....14
- Sibelius
 - Mac.....16
 - Windows.....11
- Sibelius Sounds Essentials
 - Mac.....17
 - Windows.....13
- サンプルスコア.....17
- インターネット出版.....85
- インチピット.....120
- インポート.....「ファイル」を参照
- 引用.....「譜例」を参照

う

- ウィンドウメニュー
 - アイデア.....77
 - ナビゲーター.....36, 40
 - プロパティ.....40
- ウェブリンク.....106
- 連弓マーク「アーティキュレーション」、「スラー」を参照

え

- エクスポート.....「ファイル」を参照

索引

エスプレッシーボ 97

お

オーケストラの楽譜 131
 オーケストラパート 「パート譜」を参照
 オーディオファイル 38, 97
 オブジェクト

移動 44
 コピー 46
 削除 45
 選択 44
 選択解除 44
 ドラッグ 44

オブジェクトの移動 44

オブジェクトの選択解除 44

オルガン楽譜 137

音楽フロント

Inkpen2 125

音高 ... 「音符」、「移調スコア」、「移調楽器」を参照

音高の再入力 68

音符

音高の再入力 68
 間隔 75
 基本的な編集 46
 グループの選択 81
 コピー 56
 作成 53
 符頭のない 124
 符尾なし 119
 編集 67
 マウス入力 53
 「マウス入力、アルファベット入力、ステップタイム入力、フレキシタイム」も参照

音符入力をしないでキーボードを弾く 72

音符のグループ

選択 81

音符のグループ 「パッセージ」を参照

音符メニュー

アレンジ 82

移調スコア 81

か

カーソル 54

カーソル 「カーソル」、「マウス」を参照

改ページ 「ブレイク」を参照

改良機能 9

書き換え 69

楽譜の繰り返し (R キーを使用) 46, 81

歌詞 63, 117

歌唱 「歌詞」、「コーラス」、「合唱曲」を参照

加線 45

楽器

移調 81

追加 50, 80

パート 「パート譜」を参照

合唱 117

二重 119

合唱曲 117

ショートスコア 118

画面解像度 41

間隔 「音符」、「譜表」を参照

き

キーボードショートカット 8, 36

ワンキー 44

キーボード入力 「フレキシタイム入力」、「ステップタイム入

力」を参照

キーボード (MIDI)

USB 25

ギタータブ 91, 123

ギターの楽譜 123

記譜

基本的な 111

高度な 113

記譜音高 「移調スコア」を参照

記譜ルール ダイアログ 75

ギャラリービュー 37

キュー 100

キュー音符 100

休符 55

強弱記号 62

今日のヒント 34

切り取り 45

く

クイックスタート 34

グラフィック、エクスポート 94

繰り返し 46

クリック 71

フレキシタイム中 71

グリッド、ギター ... 「コードダイアグラム」を参照

グレーのオブジェクト 「非表示」を参照

クレッシェンド 「ヘアピン」を参照

け

現代音楽 113

鍵盤楽器 137

こ

効率化のためのヒント 41

コーダ 140

コード記号 63, 101, 123

コードダイアグラム 101, 124

古楽 121

ご提案について 9

コピー 46, 56

コンサートピッチ 「移調スコア」を参照

さ

再生 42

再生開始位置と再生パートの選択 98

再生と入力デバイス ダイアログ 33

再生メニュー

再生または一時停止 42

再生ラインを先頭へ移動ボタン 70

デバイス 33

再生ライン 42, 54

表示する 99

サイトライセンス 10

索引

再フォーマット「フォーマット」を参照
 サウンドステージ98
 削除45
 作成
 音符53
 楽器50
 「作成するオブジェクト名」も参照
 テキスト60
 譜面用紙49
 ライン60
 和音59
 作成メニュー40, 66
 下げ弓「アーティキュレーション」を参照
 サンプルスコア
 35, 104, 116, 121, 124, 126, 127, 132, 135, 139
 インストール17

し

試験用紙143
 実音ピッチ
 「移調スコア」を参照
 自動保存58
 シャープ47, 54, 139
 ジャズ125
 小節
 削除72
 追加52
 の部分の選択81
 リピート46
 小節「小節」を参照
 小節休符102
 小節線74, 101
 小節番号52, 101
 ショートカット、キーボード
 「キーボードショートカット」を参照
 シリアル番号107

す

スイング98
 数字キーパッド「テンキー」を参照
 ズーム39
 スキャニング95
 スクロールバー37
 スクロールビュー37
 スコア96
 サンプルスコア「サンプルスコア」を参照
 ショート118
 新規49
 ファイル「ファイル」を参照
 スタッカート ..「アーティキュレーション」を参照
 ステップ入力69
 スラー64

せ

声楽譜140
 「合唱」も参照
 声部66
 前打音 (アポジャチュラ)
 「アーティキュレーション」を参照

選択
 オブジェクト44
 パッセージ81

そ

装飾音符100, 112, 135

た

タイ47
 ダイアログ
 定義8
 ダイナミックパート「パート譜」を参照
 大譜表
 間隙140
 ブレイク74
 分割された
 結合121
 タイムコード93
 タブ「ギタータブ」を参照
 単語「歌詞」、「テキスト」を参照
 短前打音 (アチャカチュラ)
 「アーティキュレーション」を参照
 単旋律聖歌119

ち

小さい音符「キュー音符」、「装飾音符」を参照
 チュートリアルビデオ34
 調号51

つ

追加
 小節52
 ツールバー38

て

ディミヌエンド「ヘアピン」を参照
 テキスト
 「歌詞」も参照
 作成60
 テキストスタイル61
 テクスチャー40
 テクニカルヘルプ106
 デクレシェンド「ディミヌエンド」を参照
 テスト用紙143
 テヌート67
 テンキー39
 レイアウト46, 55
 42
 スライダー42
 テンポテキスト51, 62

と

登録20, 33
 ドット「スタッカート」、「付点」を参照
 ドラッグ
 オブジェクト44
 用紙36
 ドラムセット記譜「パーカッション」を参照
 ドラムセット (ドラムキット)
 「パーカッション」を参照

索引

トリル.....「ライン」を参照

な

ナチュラル..... 47
ナビゲーター..... 36

に

入力
 アルファベット入力..... 58
 ギタータブ..... 123
 ステップ入力..... 69
 フレキシタイム入力..... 71
 マウス入力..... 53
入力.....「作成、入力」を参照

は

バーカッション..... 135
バージョン番号
 Sibelius..... 107
パート譜..... 83, 133
パート譜の作成..... 133
ハーブ
 ペダルダイアグラム..... 139
ハウスタイル..... 50
ハウスタイルメニュー
 記譜ルール..... 75
バックアップ..... 58
パッセージ..... 81
発想記号テキスト..... 112, 137
パノラマ..... 37
パフォーマンスダイアログ..... 98
バンド譜..... 115

ひ

ピアノ..... 137
ヒットポイント..... 93
ビデオ..... 92
非表示
 オブジェクト..... 102, 133
 空の譜表..... 75
 調号と拍子記号..... 127
 譜表..... 145
表現力..... 43
拍子.....「拍子記号」を参照
拍子記号..... 51
表示設定..... 41
表示メニュー
 全画面..... 40
 ツールバー..... 40
 テキストチャー..... 40
 パノラマ..... 37
開く
 Sibelius スコア..... 34, 35
ヒント..... 36, 47, 52, 66, 70, 75, 76, 81

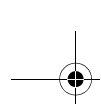
ふ

ファイル

Sibelius 2..... 96
Sibelius 3..... 96
Sibelius Student..... 96
印刷..... 48
インポート..... 96
エクスポート
 MIDI..... 96
 グラフィック..... 94
オーディオ..... 97
自動保存..... 58
新規..... 49
開く..... 35
変換..... 96
保存..... 58
ファイルの保存..... 58
ファイルメニュー
 エクスポートサブメニュー..... 94, 96, 97
 環境設定..... 33
 クイックスタート..... 34
 新規..... 49
 閉じる..... 49
 開く..... 7, 35
 保存..... 58
フェルマータ...「アーティキュレーション」を参照
フォーマット..... 73
フォント..... 101
複数
 モニタ..... 41
付点..... 39
符頭のない音符..... 124
符尾のない音符..... 119
譜表
 移動..... 45
 間隔..... 75
 サイズ..... 49, 74
 作成..... 50
 空の譜表を非表示..... 75
 前置き..... 121
譜表にフォーカス..... 75, 103, 115, 125, 127, 131
大譜表の楽譜.....「大譜表」を参照
譜面用紙..... 49, 115, 117, 124, 125, 127, 131, 139, 140
プライバシーに関する方針..... 24
プラグイン..... 76, 117
フラット..... 55, 139
譜例..... 129
ブレーク..... 74
フレーズマーク.....「スラー」を参照
フレーム、ギター...「コードダイアグラム」を参照
フレキシタイム..... 71
フレットボードダイアグラム
 「コードダイアグラム」を参照
分割
 大譜表..... 140
へ
ヘアピン.....「ライン」を参照
ページサイズ..... 49, 74

ヘルプ	
Sibelius の効率化	41
Sibelius リファレンス	105
アップデートを確認する	
「アップデートを確認する」を参照	
テクニカルヘルプ	106
ヘルプセンター	106
ヘルプメニュー	
Sibelius の登録	20
Sibelius リファレンス	7
バージョン情報	107
ヘルプセンター	106
変換	「ファイル」を参照
編集	
基本的な	44
編集メニュー	
アイデアのキャプチャ	79
切り取り	45
繰り返し	46
コピー	46
削除 (クリア)	45
小節を削除	72
貼り付け	45
反転	124
元に戻す	46
リピート	46
ほ	
ホイールマウス	37
ま	
マウス	
ホイールの使用	37
マウス入力	53
前置き譜表	121
マルカート	「アーティキュレーション」を参照
み	
ミキサー	98
め	
メトロノーム記号	42, 51, 60
メニュー	40
も	
元に戻す	46
モニタ	41
複数	41
問題	「ヘルプ」を参照

よ	
用語	8
用語メニュー	61
余白	129
ら	
ライン	
作成	60, 64
スラー	64
ラレンタンド	「ライン」を参照
り	
リードシート	127
リズムックフィール	98
リズム	「音符」を参照
リズムギター	124
リダクション	
ピアノ	119
リタルダンド	「ライン」を参照
リハーサルマーク	101
リバーブ	97
リピート	101, 140
リファレンス	7, 100, 105
リユートタブラチュア	123
臨時記号	54, 69
る	
ルーラー	74
れ	
レイアウト	74
レイアウトメニュー	
ドキュメントセットアップ	73
ブレイクサブメニュー	
大譜表の分割	140
レイヤー	「声部」を参照
連音符	67
ろ	
ロール	135
録音	
CD に	97
「フレキシタイム」も参照	
わ	
ワークシート	143
ワークシートクリエーター	87
ワークシートテンプレート	89
ワークシートの編集	143
和音	59
作成	59



索引

